

平成29年度
高知県地域学校協働活動

高知県版地域学校協働本部

モデル事例集



高知県地域学校協働活動推進委員会
高知県教育委員会

はじめに

本県では、平成28年3月に「教育等の振興に関する施策の大綱」及び「第2期高知県教育振興基本計画」を策定し、「地域との連携・協働の推進」では、家庭・地域・学校が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる仕組みである「学校支援地域本部」の設置促進や活動の充実等を通じて、地域との連携・協働体制の構築を進めています。

平成29年度は、「学校支援地域本部」は県内の6割以上の小中学校・義務教育学校で設置され、平成30年度は、8割以上に設置校が拡大する見込みとなっています。

「学校支援地域本部」では、地域の方々の力を借りて、学習支援や部活動支援、環境整備、登下校安全指導、学校行事支援等の様々な活動を通じ、子どもたちを育む環境づくりが行われていますが、学校が抱える様々な課題の解決や、厳しい環境にある子どもたちへの支援の充実には、地域と学校がパートナーとなってこれまで以上の地域の協力や学校活動への主体的な関わり、さらには、子どもたちを日常的に見守り育む仕組みづくりが不可欠となっています。

このため本県では、「学校支援地域本部」から、国が示した「地域学校協働本部」の必須3要素に県独自に定めた要件（「学校と地域との定期的な協議の場」「民生・児童委員の参画による見守り体制の強化」等）を加えた「高知県版地域学校協働本部」へと発展を図っていくこととし、平成29年度は、6市町の7校で「高知県版地域学校協働本部」モデル校の取組を行いました。モデル校では、市町村教育委員会、地域コーディネーター、市町村福祉部署、民生・児童委員、児童相談所、地域のボランティア等が、これまでの学校や地域の取組を生かした形で「高知県版地域学校協働本部」の仕組みについて話し合い、工夫を重ねながら、特色ある仕組みを構築しています。

今回の事例集では、各モデル校が、学校や地域の課題等を踏まえ、「高知県版地域学校協働本部」の趣旨に沿って協働活動に取り組んだ過程と成果を、ノウハウとしてまとめています。これら内容は、一部の特別な地域や学校だからできたこと、ではありません。各地域の特性や課題は様々ですが、モデル校の皆様が真摯に取り組んできたその過程と手法等は、いずれの地域・学校においても参考になるものばかりです。ぜひ、各市町村や学校において、「学校支援地域本部」から連携・協働の体制である「高知県版地域学校協働本部」へと推進する際に活用していただければ幸いです。

終わりに、本事業の推進にご尽力いただいております地域の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

目次

はじめに

学校支援地域本部について（中表紙）（P2）

○学校支援地域本部について	3
---------------	---

高知県版地域学校協働本部について（中表紙）（P2）

○地域との連携・協働の深化 学校支援地域本部から「地域学校協働本部」への展開	4
○高知県版地域学校協働本部の5つの要件	5
○厳しい環境にある子どもたちへの学校・地域の見守りの推進	6
○高知県版地域学校協働本部モデル校での学校と地域による見守りの手順等について	7
○学校支援地域本部の設置状況一覧	11
○学校支援地域本部の更なる深化の今後の展開	12
○平成30年度の具体的な取組	13
○平成29年度地域学校協働活動研修会より	14
○「開かれた学校」から地域と学校との連携・協働の展開イメージ	15

高知県版地域学校協働本部モデル7校の取組（中表紙）（P18）

○赤野小学校地域学校協働本部（安芸市）	19
○野市東小学校地域学校協働本部（香南市）	24
○稲生地域学校協働本部（南国市）	29
○土佐町学校応援団推進本部（土佐町）	35
○大月町学校支援地域本部（大月町）	40
○五台山小学校支援地域本部（高知市）	47
○西部中学校地域学校協働本部（高知市）	53

高知県版地域学校協働本部の取組（中表紙）（P58）

○赤岡小学校区学校支援地域本部（香南市）	59
○物部地域学校協働本部（香美市）	64

参考資料（中表紙）（P70）

○学校支援地域本部事業状況調査票 参考例（2校抜粋）	71
○地域との連携・協働の推進 赤岡小学校区学校支援地域本部の取組事例 （高知県教育委員会事務局生涯学習課作成）	73
○高知県版地域学校協働本部モデル校におけるチーム学習会テーマ一覧	74

※事例集内の $\textcircled{\text{新}}$ は、新規の取組内容を、 $\textcircled{\text{拡}}$ は、取組内容の拡充を表しています。

学校支援地域本部について

(P 3)

○学校支援地域本部について	3
---------------	---

高知県版地域学校協働本部について

(P 4～16)

○地域との連携・協働の深化 学校支援地域本部から「地域学校協働本部」への展開	4
○高知県版地域学校協働本部の5つの要件	5
○厳しい環境にある子どもたちへの学校・地域の見守りの推進	6
○高知県版地域学校協働本部モデル校での学校と地域による見守りの手順等について	7
○学校支援地域本部の設置状況一覧	11
○学校支援地域本部の更なる深化の今後の展開	12
○平成30年度の具体的な取組	13
○平成29年度地域学校協働活動研修会より	14
○「開かれた学校」から地域と学校との連携・協働の展開イメージ	15

学校支援地域本部について ～学校と地域との連携・協働の推進～

従来、子どもたちの成長を支えていた家庭や地域の教育力が、核家族化や地域コミュニティの希薄化等に伴い低下しているとともに、子どもたちに関わる課題は多様化・複雑化しており、学校にはこれらへの対応が強く求められるようになっていますが、学校だけでの対応には限界があります。このため、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校とが連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を行う「学校支援地域本部」の設置促進及び活動内容の充実を図り、地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制づくりを目指す必要があります。

事業実施により得られる効果【目指すべき姿】

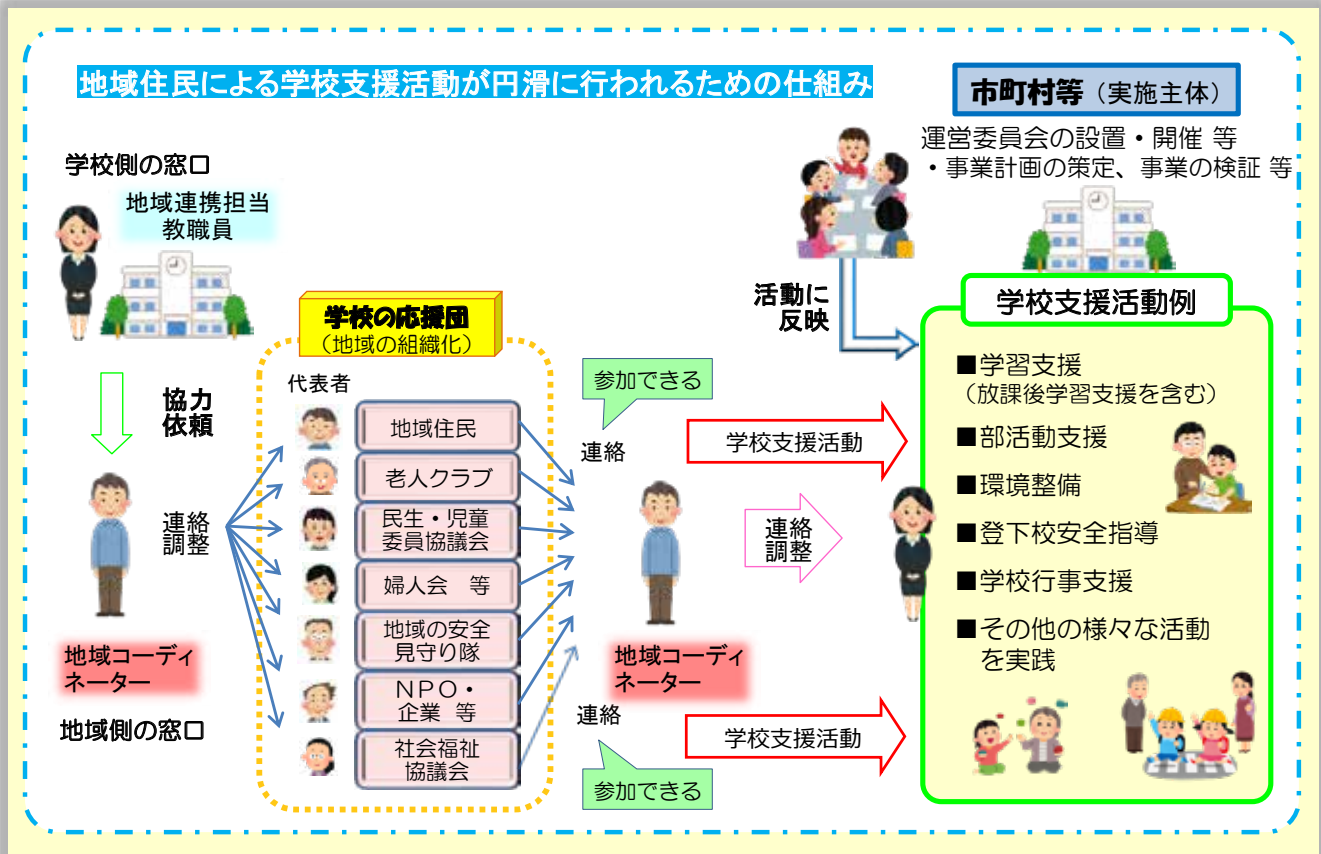
1 学校教育の充実

- 地域の様々な大人が学校の活動に関わる
 - ▶ **子ども** 子どもたちに多様な体験・経験の機会が増える
規範意識や自尊感情、コミュニケーション力の向上につながる
- 多くの大人が子どもたちを見守る
 - ▶ **子ども** 子どもたちの学力や生活面での問題の背景を把握し、一人ひとりの状況に応じたよりきめ細かな教育ができる
 - ▶ **学校**
- 地域住民の協力を得る
 - ▶ **学校** 教員が、教育活動により一層力を注ぐことができる

2 地域の教育力の向上

- 地域住民が、自らの経験や知識を子どもたちの教育に生かす
 - ▶ **地域** 生涯学習の成果を生かす場が広がるとともに、地域住民の自己実現や生きがいづくりにもつながる
- 地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が強まる
 - ▶ **地域** 地域の活性化や、学校を核とした地域づくりにもつながる

学校支援地域本部の組織モデル



現在、県内小中学校、義務教育学校の約6割に学校支援地域本部が設置され、地域住民の協力を得て様々な支援活動が行われていますが、「学力向上」「生徒指導上の諸問題の解決」「教員の部活動の負担軽減」等学校が抱える様々な課題の解決に向けては、**これまで以上に地域住民の協力を得て、より多くの住民に学校の活動に主体的に関わっていただき、子どもたちを日常的に見守っていただくことが不可欠です。**

このため、下記の3つの要件を備える学校支援地域本部を「高知県版地域学校協働本部」と捉え、より多くの地域本部の活動を充実させ、**学校と地域が対等なパートナーとして協働する地域学校協働本部の活動へと転換を図っていくことが必要と考えました。**

「高知県版地域学校協働本部」の要件

1 充実した学校支援活動の実施

現在の活動の拡充

◆ 4種類以上の学校支援活動を、年間累計100日以上実施

⇒なかでも特に、以下のような「チーム学校の構築」「厳しい環境にある子どもたちへの支援」「地域との連携強化」につながる活動の実施を推奨

- ①学習支援：プリント採点等の学習支援、家庭科や地域学習等の専門知識を要する授業の補助、放課後の学習支援等
- ②部活動支援：地域の経験者による部活動の指導、地域のスポーツクラブや文化活動と融合した学校の部活動等
- ③見守り活動：学校の環境整備や交通安全指導等、子どもたちと日常的に挨拶し合う関係づくりにつながる活動等
- ④地域活動：地域と合同で実施する防災訓練、地域に伝わる歴史文化学習や伝統芸能の伝承等

2 学校と地域との定期的な協議の場の確保

新たな取組

◆ 学校の実情や子どもたちが置かれている状況等、学校と地域が「学力面」「生徒指導上の諸問題」「部活動」等における課題を情報共有し、定期的に話し合う場を確保

○年度はじめ及び学期末毎等、年間概ね4回以上の開催

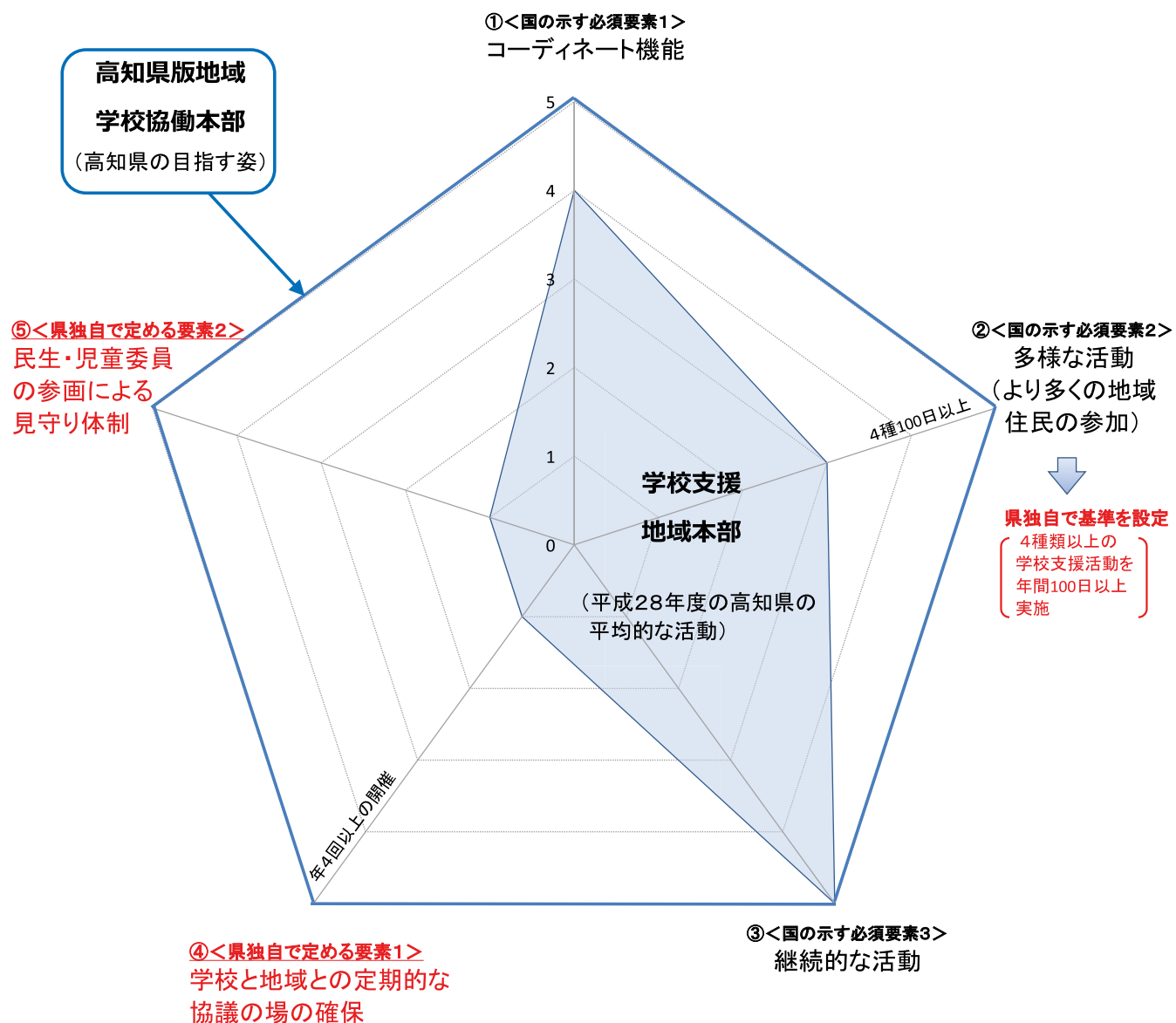
3 民生・児童委員の参画による見守り体制の強化

新たな取組

◆ 民生・児童委員又は主任児童委員が参画し、厳しい環境に置かれている子どもたちを学校と連携して地域で見守る体制を構築

○学校との個別の情報交換会等を概ね毎月1回程度開催

○高知県版地域学校協働本部の5つの要件（国の示す必須3要素+県独自で定める2つの要素）

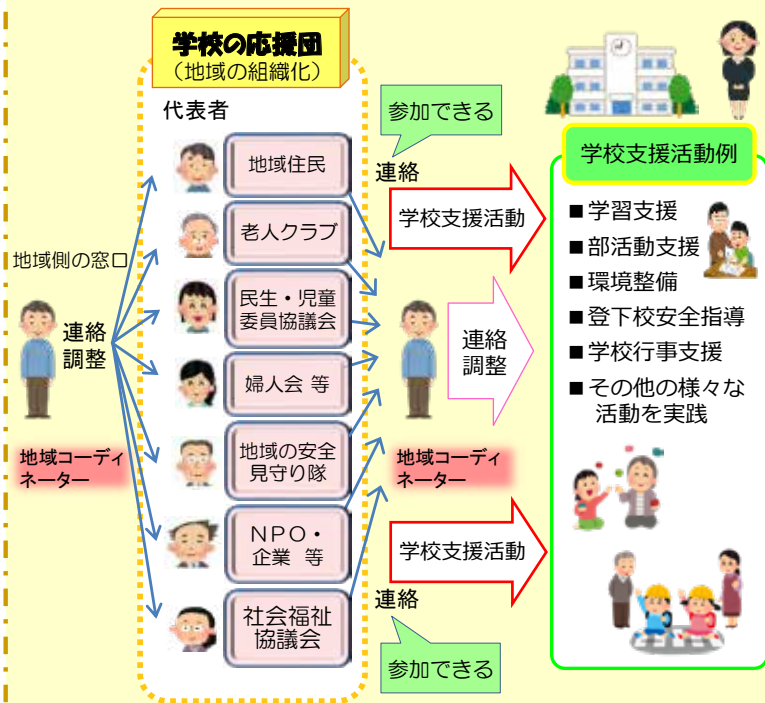


厳しい環境にある子どもたちへの学校・地域の見守りの推進

～学校支援地域本部（地域学校協働本部）事業を通じた地域の見守り体制について～

学校支援地域本部

地域住民による学校支援活動が円滑に行われるための仕組み



○モデル7校での見守りの仕組みづくり（ボランティア、民生・児童委員）

○一般ボランティアは、支援（連携・協働）活動の中で、気になる子どもの情報を学校へ必ず伝えてもらう。

見守り体制1 ⇒ 7・8ページ参照

（そのための学校の手だて）

- ・学校全体のいじめや虐待の状況を伝える場を持ち、現状を理解してもらう場を持つ
- ・情報を学校へ伝えるための窓口や手順を作成し、周知しておく

○民生・児童委員は、厳しい環境にある子どもの情報を学校と共有し、学校内と地域（家庭）で見守りを行う。

見守り体制2 ⇒ 9・10ページ参照

（そのための学校の手だて）

- ・民生・児童委員に、校長が具体的な対応をお願いする
- ・民生・児童委員との課題の共有・理解と人間関係づくり

具体

「学校支援地域本部」から
「高知県版 地域学校協働本部」への展開

高知県版 地域学校協働本部の3要件

1. 充実した学校支援活動の実施 (現在の活動の拡充)

◆4種類以上の学校支援活動を、年間累計100日以上実施
⇒なかでも特に、以下のような「チーム学校の構築」「厳しい環境にある子どもたちへの支援」「地域との連携強化」につながる活動の実施を推奨

- ①学習支援(授業の補助、放課後の学習支援等)
- ②部活動支援(地域の経験者による部活動の指導等)
- ③見守り活動(学校の環境整備や交通安全指導等)
- ④地域活動(地域と合同で実施する防災訓練等)

(新たな取組)

2. 学校と地域との定期的な協議の場の確保

◆学校の実情や子どもたちが置かれている状況等、学校と地域が「学力」「生徒指導上の諸問題」「部活動」等の課題を情報共有し、定期的に話し合う場を確保

- 既存の会議を発展させる等により設置
- 年度はじめ及び学期末毎等、年間概ね4回以上の開催

(新たな取組)

3. 民生・児童委員の参画による見守り体制の強化

◆民生・児童委員又は主任児童委員が参画し、厳しい環境に置かれている子どもたちを学校と連携して地域で見守る体制を構築

○ 高知県版地域学校協働本部モデル校での学校と地域による見守りの手順等について

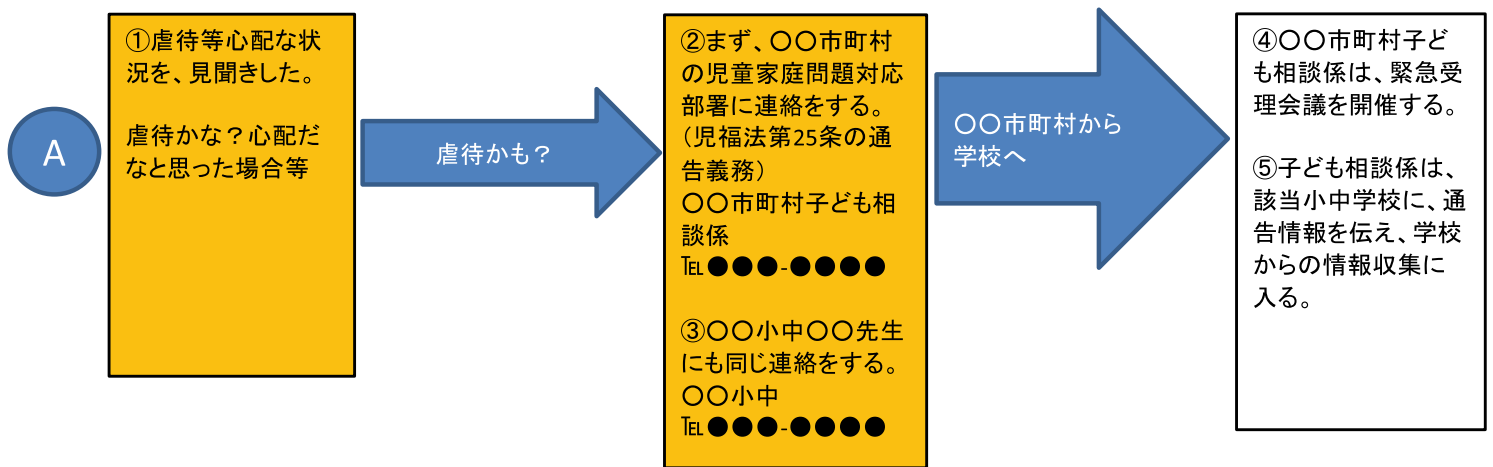
(いじめや児童虐待対応で押さえておく基本事項)

○いじめの担当(支援責任者)は、学校である。

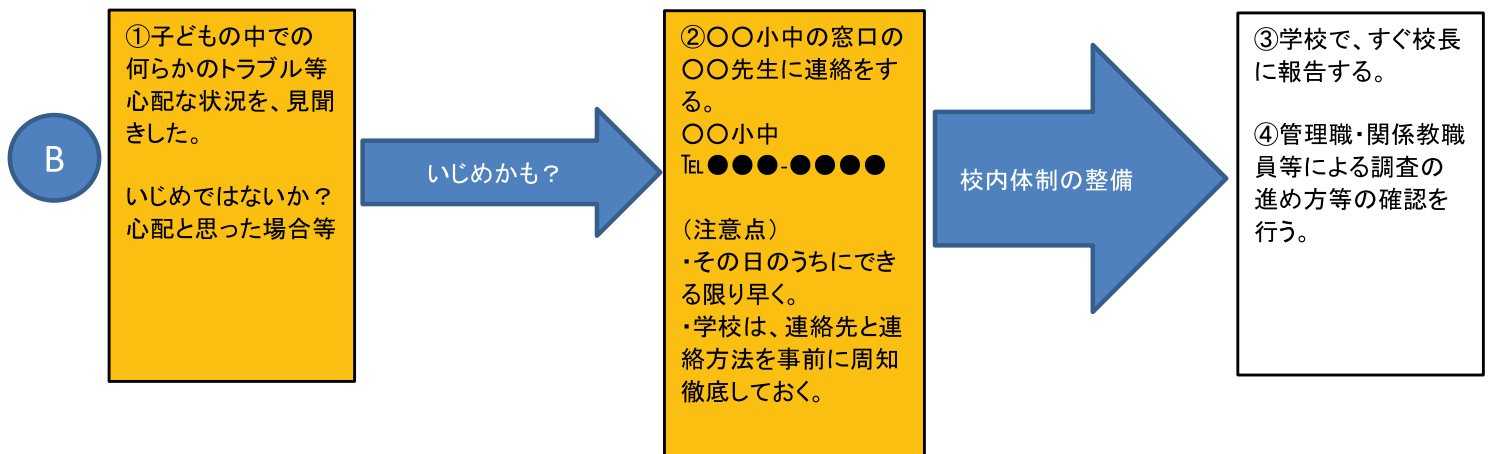
○児童虐待など要保護児童問題の担当(調整機関)は、市町村児童家庭相談担当部署(福祉事務所)

1. 【見守り体制1】地域の方々による普段の活動の中での見守り(地域学校協働本部の一般ボランティア)

(1) 虐待かも?と心配する等の要保護児童ケース(〇〇市町村が調整機関)



(2) いじめかも?と心配するケース(〇〇小中が支援責任者)



○この取組をスタートする前段の準備として、学校支援地域本部の活動に参加している一

- ①学校の現状を説明(全体的ないじめ、虐待、不登校、暴力行為等問題行動等の状況)
- ②子どもたちへの関わり方(話の聞き方・声かけの仕方)・子どものサインへの気づき方
- ③発見から対応までの流れの説明(いじめへの対応とそれ以外の対応の違いを説明)
- ④対応の心得を説明

※P7,8,9,10は、これを基準に、それぞれの市町村、学校のやり方にあったものに修正して、活用可。

と児童相談所である。

ア・地域コーディネーター)

○ここからは、民生・児童委員による見守りを行う次のステージとなる。

○○市町村で調査認定へ

⑥○○市町村主導で、虐待かどうかの調査・認定等、ケース対応が進む。
⑦○○市町村の援助方針会議で行政として虐待と認定するか判断する。

○○市町村から民生・児童委員へ見守り等の依頼へ

⑧○○市町村が個別ケース検討会議を開催。(○○小中と○○市町村が選定した民生・児童委員にも参加要請する)
⑨その中で、学校と民生・児童委員にやって欲しいこと(見守りの具体)を依頼する。

学校で調査認定へ

⑤○○小中校内支援会で、いじめかどうかの調査・認定等、ケース対応を進める。
⑥学校としていじめと認定するか判断する。

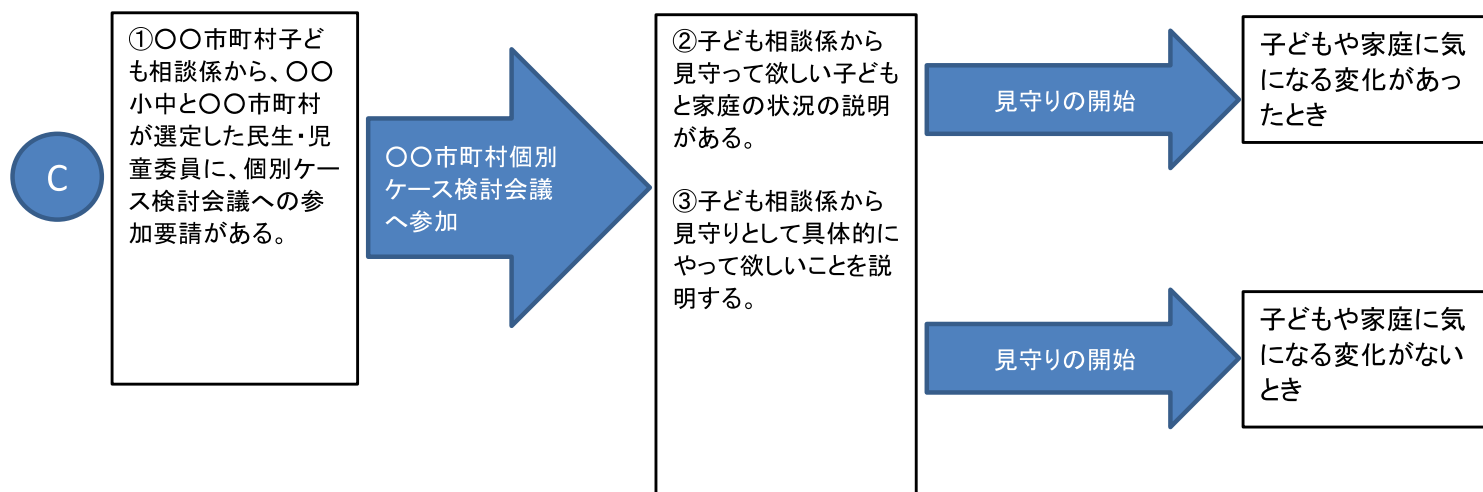
学校から民生・児童委員への見守り等の依頼へ

⑦校内支援会を開催。(○○小中で選定した民生・児童委員に参加要請する)
⑧その中で、民生・児童委員にやって欲しいこと(見守りの具体)を依頼する。

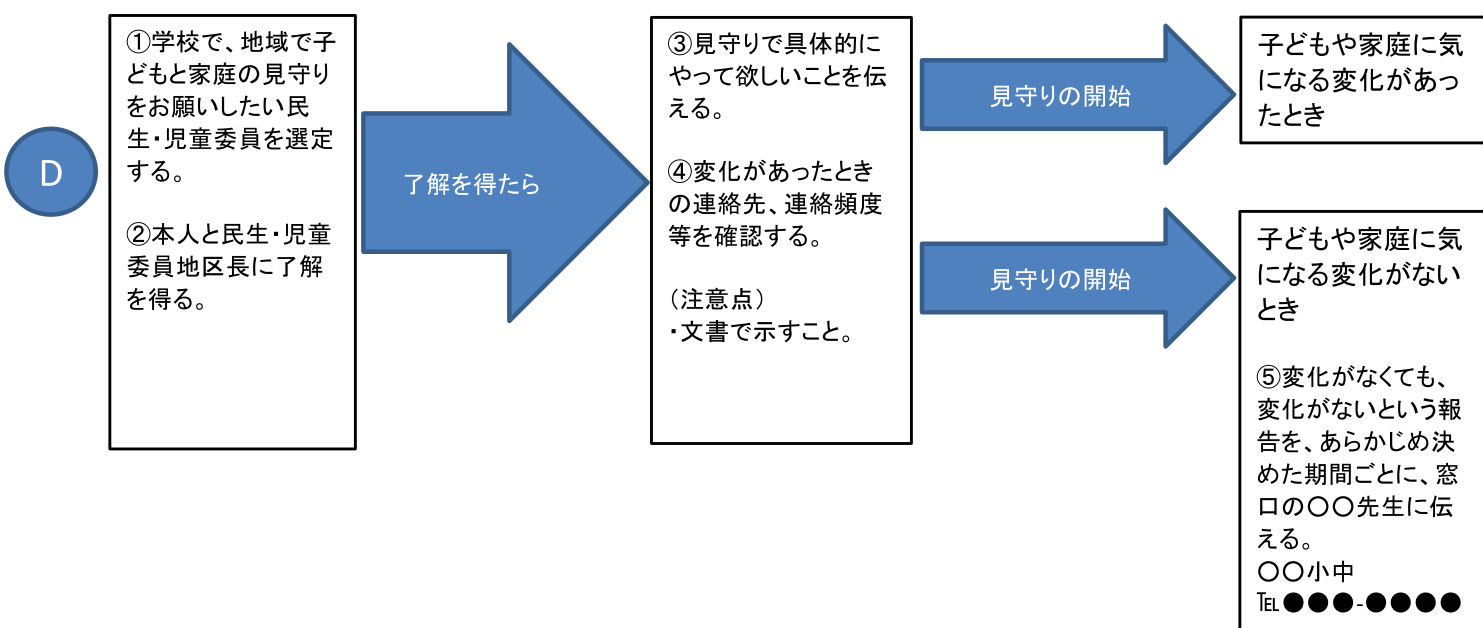
般ボランティアと地域コーディネーター、教員に学習会(説明)が必要。(P74参照)

2. 【見守り体制2】民生・児童委員(主任児童委員)の方々による見守り

(1) 児童虐待と認定された要保護児童ケース(〇〇市町村が調整機関)



(2) いじめの事案など地域で見守ってもらいたい「いじめのケース」(〇〇小中が支援責任者)



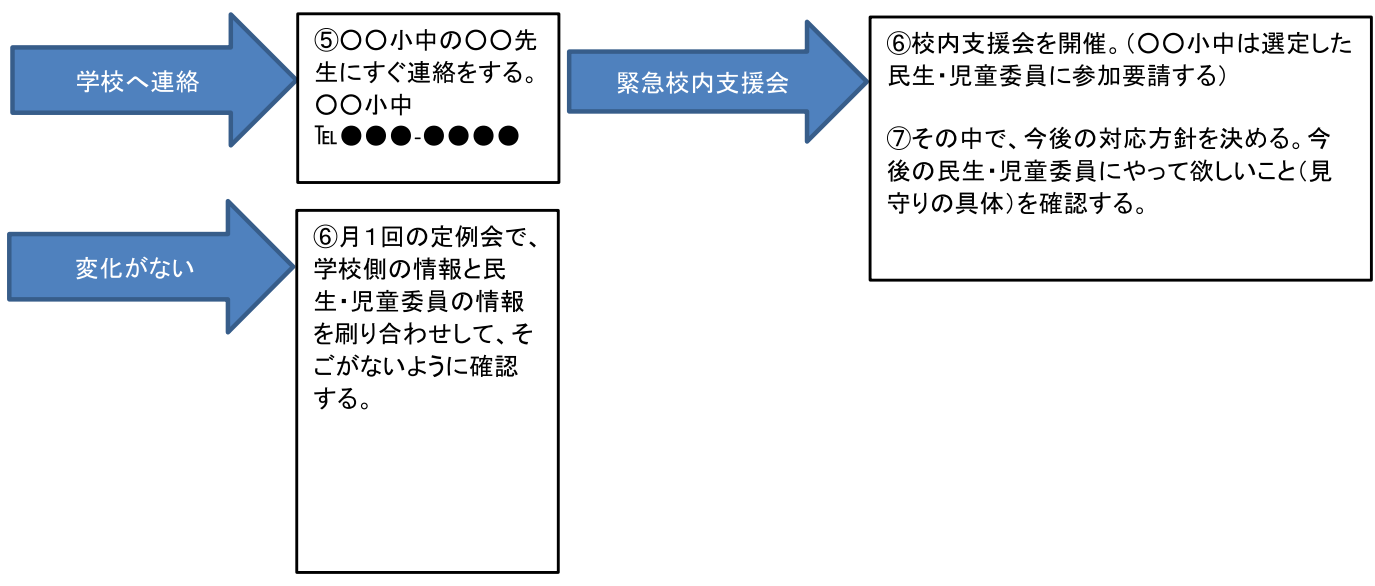
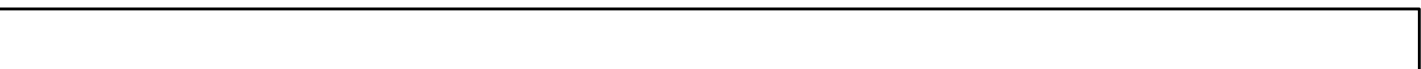
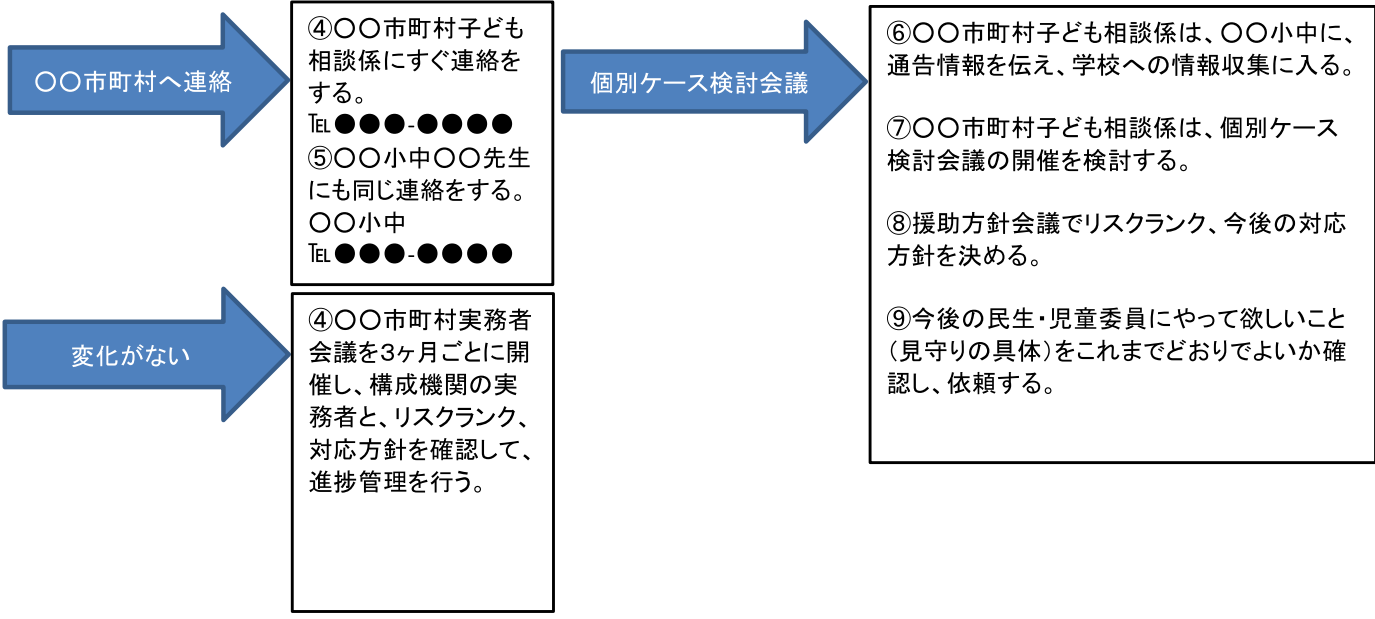
○この取組をスタートする前段の準備として、学校支援地域本部の活動に参加している民

- ①学校の現状を説明(全体的ないじめ、虐待、不登校、暴力行為等問題行動等の状況)
 - ②子どもたちへの関わり方(話の聞き方・声かけの仕方)・子どものサインへの気づき方
 - ③発見から対応までの流れの説明(いじめへの対応とそれ以外の対応の違いを説明)
 - ④対応の心得を説明
- (3項目の学習内容の追加)

⑤見守り活動について

⑥個人情報の取扱いについて

⑦守秘義務の遵守について



生・児童委員（主任児童委員）と教員に学習会（説明）が必要。（P74参照）

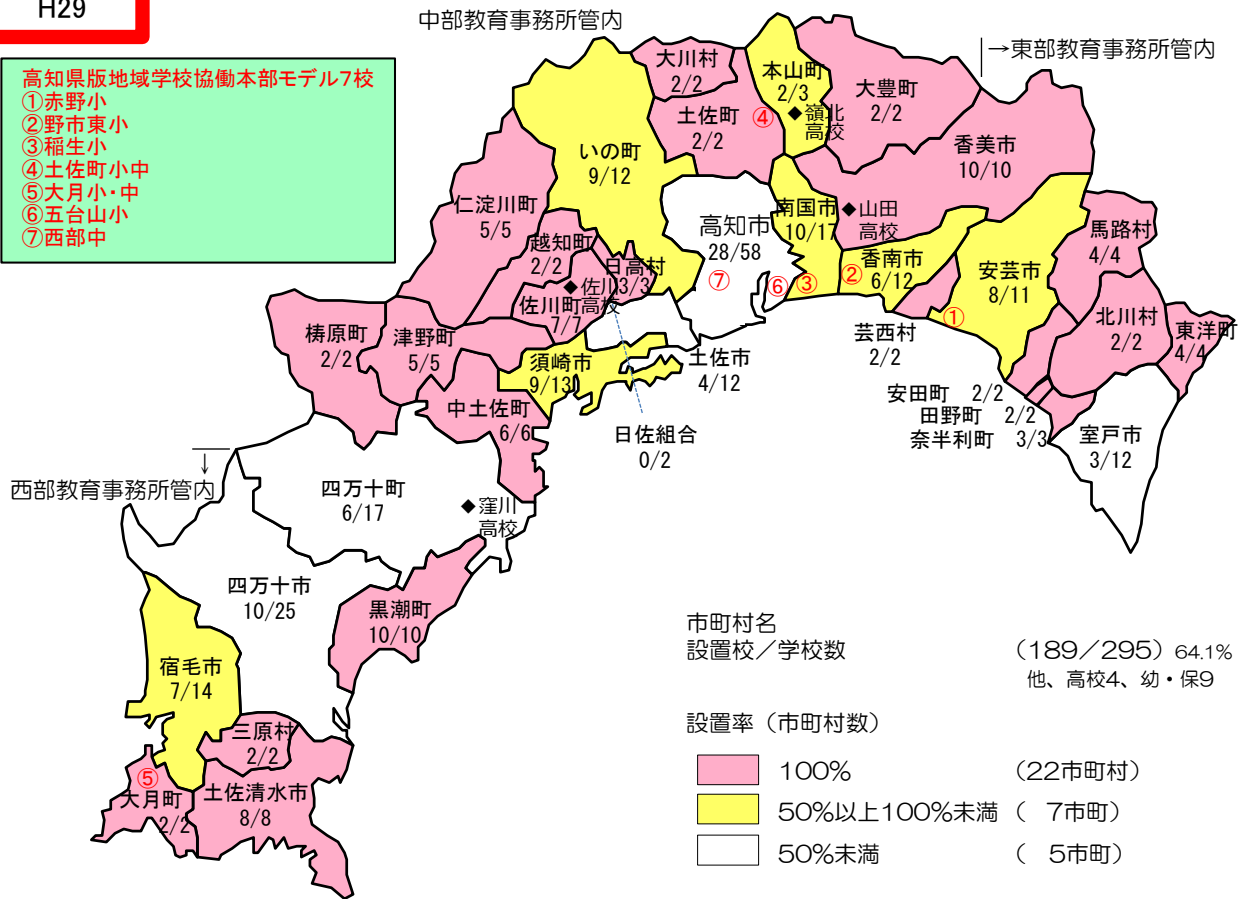
学校支援地域本部の設置状況一覧（平成29年度・平成30年度市町村別比較）

H30.2 現在

H29

高知県版地域学校協働本部モデル7校

- ①赤野小
- ②野市東小
- ③稲生小
- ④土佐町小中
- ⑤大月小・中
- ⑥五台山小
- ⑦西部中



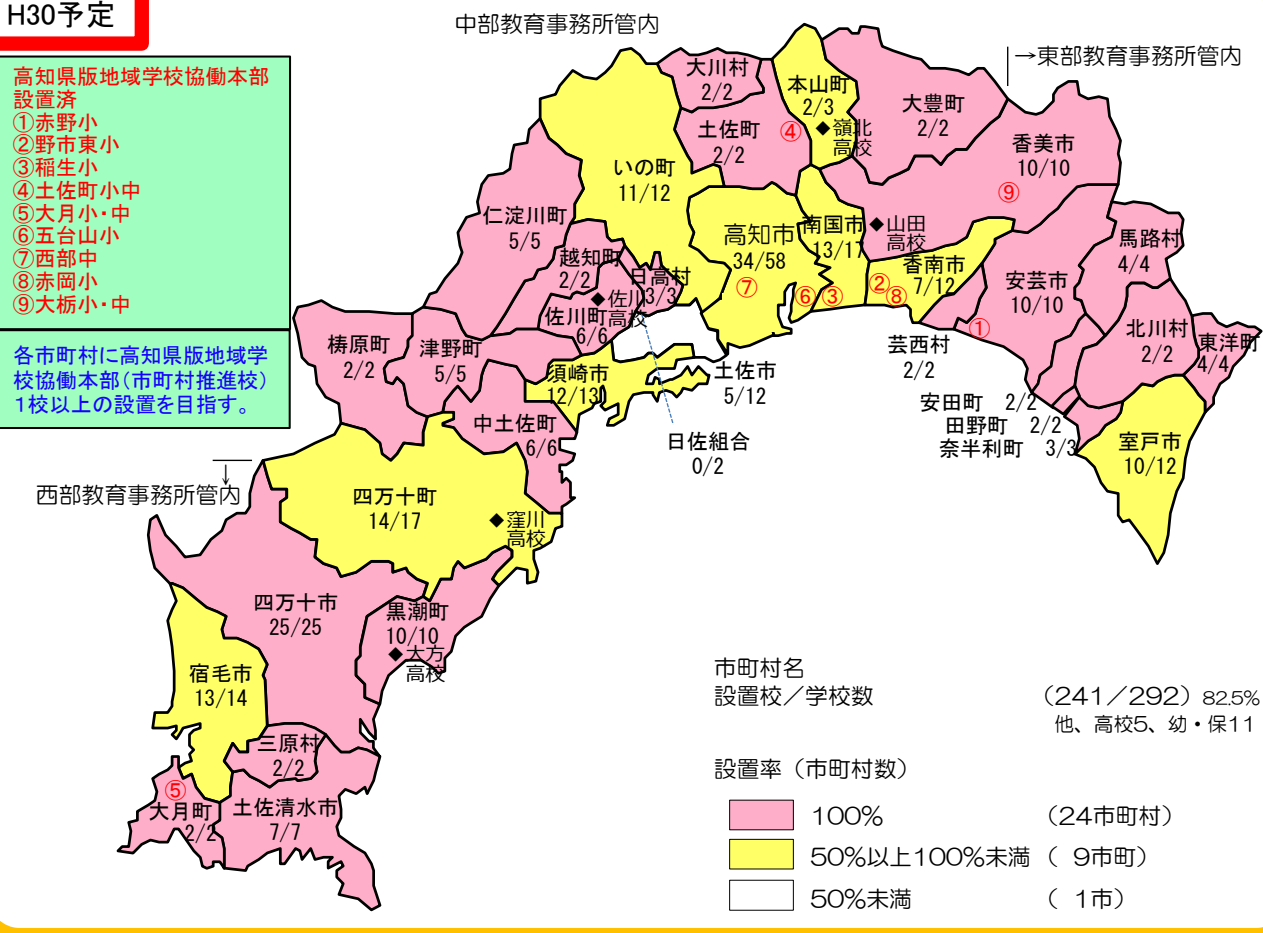
H30.2 現在

H30 予定

高知県版地域学校協働本部

- 設置済
- ①赤野小
 - ②野市東小
 - ③稲生小
 - ④土佐町小中
 - ⑤大月小・中
 - ⑥五台山小
 - ⑦西部中
 - ⑧赤岡小
 - ⑨大橋小・中

各市町村に高知県版地域学校協働本部(市町村推進校)1校以上の設置を目指す。



学校支援地域本部の更なる深化の今後の展開

～「学校支援地域本部」から「高知県版地域学校協働本部」への展開～

H29モデル7校の取組

- モデル7校 赤野小（安芸市）、野市東小（香南市）、稻生小（南国市）、土佐町小中（土佐町）、大月小・中（大月町）、五台山小（高知市）、西部中（高知市）



高知県版 地域学校協働本部の3要件

1. 充実した学校支援活動の実施（現在の活動の拡充） ☆4種類・累計100日以上 of 学校支援活動
2. 学校と地域との定期的な協議の場の確保 ☆学校と地域が学校の課題を共有し定期的に話し合う場を確保
3. 民生・児童委員の参画による見守り体制の強化 ☆見守りの仕組みづくり（4つの見守り体制）
☆チーム学習会の実施

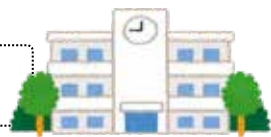
※モデル7校それぞれに、高知県版の趣旨に沿った特色ある仕組みや工夫した取組を実施。（7つの形・工夫がある）
※7校それぞれが取組を推進した際のノウハウをまとめたモデル事例集を作成し、全小中学校・義務教育学校に配布。

H30市町村推進校の取組

- 各市町村でまず1校から、モデル校の様々な形を参考に、高知県版地域学校協働本部（市町村推進校）の設置に取り組む。
- （重要）各市町村の教育委員会・福祉部門、県の教育委員会、地域福祉部（児童相談所）、民生委員児童委員協議会等（5者）の協力により取り組む。

☆市町村の実情に応じ3要件の趣旨に沿った取組を実施

A校
(推進校)



※H30に取り組んだ経験を基に、5者でH31以降の設置計画を検討する(12月)。

H31～市町村内の他の小中学校・義務教育学校へ展開

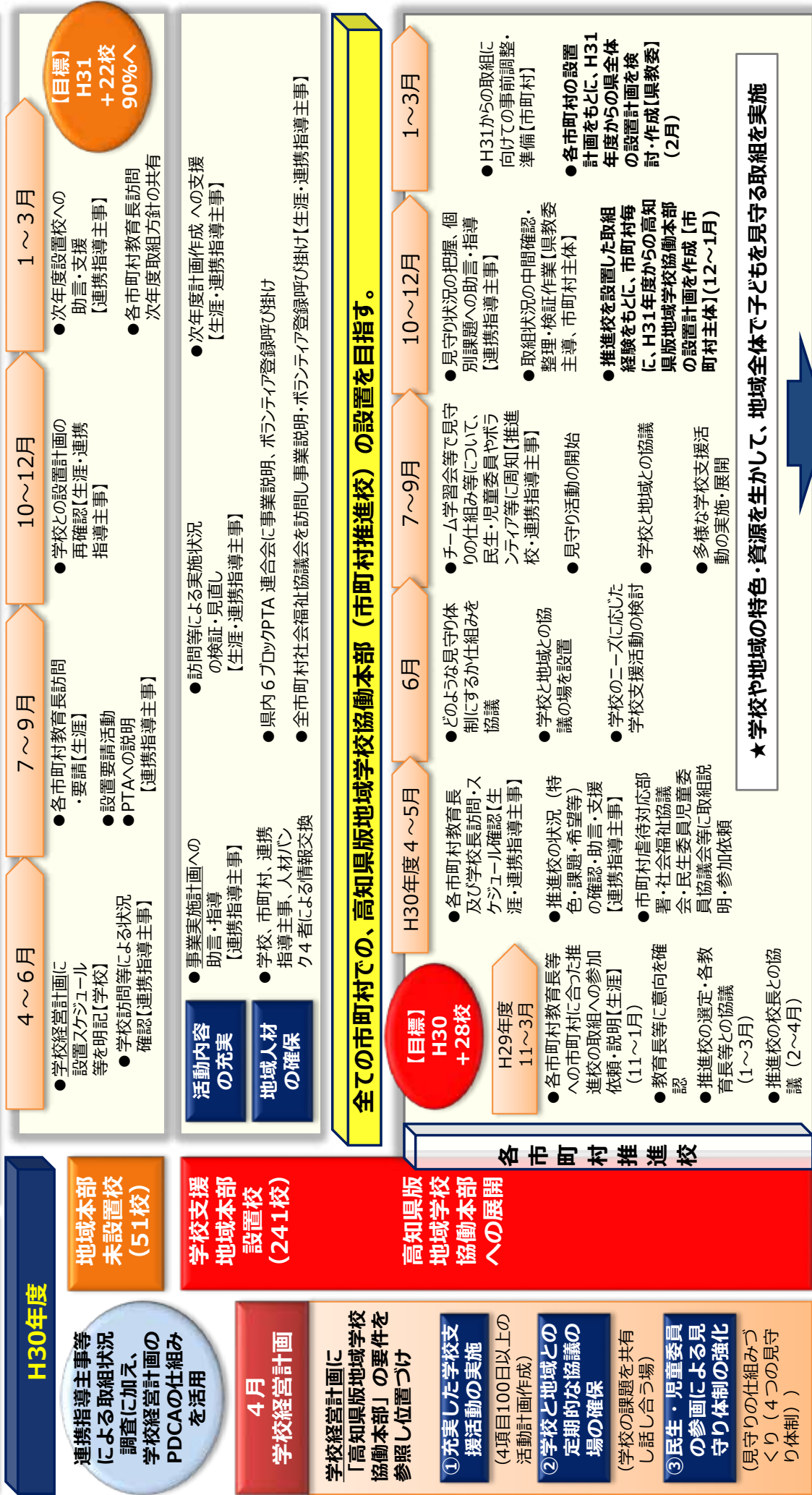
☆A校の取組を参考に、市町村内の他の学校へと取組を広げていく。



平成30年度の具体的な取組
～高知県版地域学校協働本部設置に向けたロードマップ～ モデル校の取組を踏まえて～

H30年度からの展開

全ての小中学校・義務教育学校に、高知県版地域学校協働本部の設置を目指す。



平成29年度 地域学校協働活動研修会より 主なメッセージ・キーワード紹介（抜粋）

研修対象 市町村担当者、学校関係者、市町村運営委員、地域コーディネーター、教育活動推進員、教育活動サポーター、放課後児童支援員、家庭教育支援員、民生・児童委員、社会教育関係者 等

○高知県地域学校協働活動研修会

参加者 99名 満足度 83%

日時：平成29年7月11日（火）13:00～16:25

場所：サンピアシリーズ（高知市高須）

主催：県教育委員会・県地域学校協働活動推進委員会

【基調講演】「これからの地域学校協働本部のあり方」（70分）

熊谷 慎之輔 氏（岡山大学大学院教育学研究科教授） 講演内容より

- ◎ 支援と協働の違い →学校にかかわる大人の「変容」（が不可欠）
- ◎ 地域づくりと学校づくりの循環
- ☆ 地域づくりと学校づくりは密接につながっており、両者は相互に関係し合う一連のシステム
- ◎ 連携と協働のファースト・ステップ：「組織づくり」→ 学校・家庭・地域の連携協力はいわば“漢方薬”
「学校を核にした地域づくり」は効果がでるのに時間を要する。だからこそ、意図的・積極的・継続的に
行っていくことが重要であり、推進母体となる組織（チーム）の必要性がクローズアップされてくる。
- ☆ 組織があっても、そこに学び（協議）がなければ！
→「チーム学習」の必要性 →「固定的で硬直した考え方」の変容
- ◎ 連携協働のセカンド・ステップ：活動の「質」
- ◎ 中学校区への着目 →中学生が地域で「見える」存在に
- ☆ 「あてにされる」関係の創造－「出番と役割と立場をつくる」こと
- ☆ 「学校」という場を核に、地域の間人関係の中に「あてにする－あてにされる」相互関係を生み出す
- ◎ 「つながりの質」 →「つながりの質」が学校学習への傾倒を要求しない場合もあり得る
→子どもの学力に結びつくような「つながり」
→「地域のなか、および学校内で、『しっかり勉強することの意義・尊さ』を子どもたちが実感できるような文化・価値観を形成すること」

○地域学校協働活動推進フォーラム in 南国市

参加者 148名

日時：平成30年1月28日（日）13:30～16:45

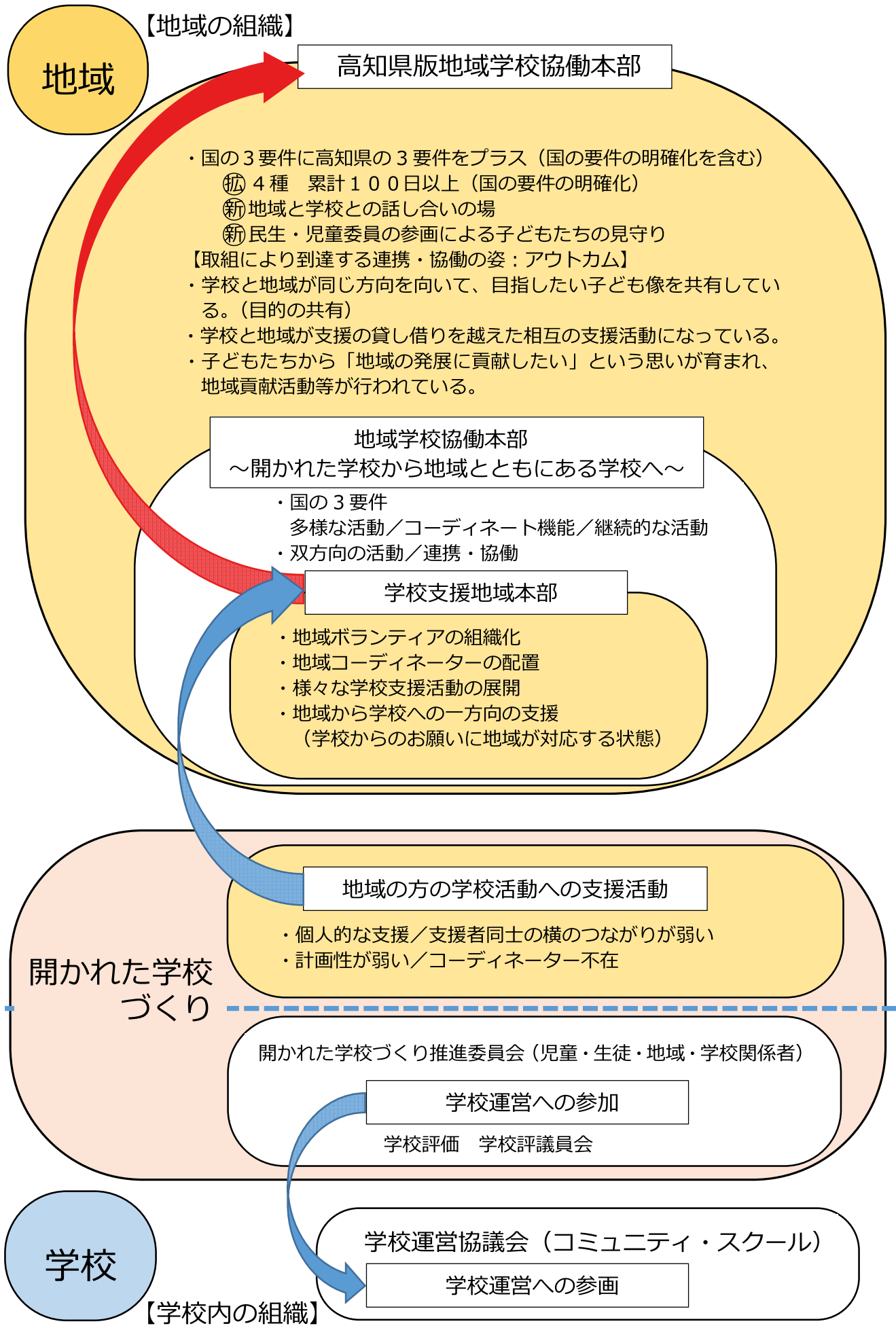
場所：南国市立稲生小学校（南国市稲生）

主催：文部科学省

【パネルディスカッション】「学校支援から地域学校協働活動へ！ 新たな教育の実現による学校と地域の協働を考える」（90分） パネリスト発言より

- 地域・学校の課題を解決する地域学校協働活動の現状
 - ・地域から学校への厳しい評価は学校経営に生きている
 - ・協働が適切な学校活動の維持に寄与
 - ・学校と地域が課題を話し合い、対等なパートナーとして取り組んでおり、チームワークが良い
- 転換をめざす“カギ”～協働の教育的価値について考える～まとめ
- ◎ 協働で子どもたちをどう育てていくのか（めざす子ども像）を共有
- ◎ より高次の教育目標を一緒に
- ◎ 子どもが自らできる活動であるよう思慮
- ◎ “開かれた学校”からさらに一歩踏み出し“地域とともにある学校”へ→学校・教員の意識変容が必要
- ◎ コミュニティ・スクール（CS）との連動 →学校運営に地域が主体的に関わるようになる
→学校と地域との連携・協働体制が組織的・継続的に確立でき、協働の基盤が確固たるものになる
- ☆ 学び合い、高め合う、対立を乗り越えていくところに価値あり
 - 大事なのはリフレクション（refrection=内省、振り返り）
 - 協働実践の中で自身を見つめ直すプロセスが重要
（自分の思いが相手を超えて自分に返ってくる）
 - 対立を乗り越えた先に協働の「質」が変化・協働の「質」が深化 →「Win-Win」
- ◎ 時代が変わっていく、これからの子どもたちの世界が大きく変わっていく、このことを、教員も地域も理解しておかないといけない
→変化のある面白い教育をつくっていく時代、まっすぐに向き合っていくには地域の勢いがある、一生懸命やっていく
- ◎ 協働活動は学校教育と社会教育の大連動、大融合
→学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちや地域のため、今を生きる自分たちの生きがいや愛する地域の将来のために、今から取組を始めましょう

「開かれた学校」から地域と学校との連携・協働の展開イメージ



開かれた学校

平成8年(1996)年4月 生涯学習審議会答申

平成10年(1998)年9月
第16期中教審答申→より具体的検討

学校運営

「学校評議員」の設置

教育モニター、教育アドバイザー等の活用
地域住民に対する積極的な情報提供

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

H16「地域とともにある学校づくり」を推進
地教法第47条の5に基づき仕組み

設置努力義務化へ

(地教法改正<第47条の6> H29・4・1施行)

平成8年(1996)年7月 第15期中教審答申

活動支援

ボランティアの受け入れ体制整備

学校支援地域本部

H18教育基本法改正「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設。具体化する方策の柱としてH20より委託事業として開始

「次世代の学校・地域」創生プラン～学校と地域の一体改革による地域創生～H28・1・25文部科学大臣決定

【H27・12・21 中教審3つの答申(「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」等)の具体化を強かに推進】

地域学校協働活動へ(社会教育法改正 H29・4・1施行)

高知県版地域学校協働本部モデル7校の取組 (P 19~57)

○赤野小学校地域学校協働本部（安芸市）	19
○野市東小学校地域学校協働本部（香南市）	24
○稲生地域学校協働本部（南国市）	29
○土佐町学校応援団推進本部（土佐町）	35
○大月町学校支援地域本部（大月町）	40
○五台山小学校支援地域本部（高知市）	47
○西部中学校地域学校協働本部（高知市）	53

赤野の未来を見つめて

～地域とともに育つ教育～

赤野小学校地域学校協働本部（安芸市）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 赤野小学校（全校児童数25名）
- 設置年度 : 平成28年度
- 協議会
名称 : 赤野小学校地域学校協働本部
- 委員数 : 13名
- 委員構成 : 校長(1)、教頭(1)、地域コーディネーター(1)、PTA関係(1)、民生・児童委員(1)、地域ボランティア(1)、赤野子ども獅子舞保存会代表(1)、赤野地区社会福祉協議会長(1)、公民館長(1)、赤野地区消防団(1)、赤野地区高齢者クラブ代表(1)、安芸市教育委員会(1)、安芸市教育研究所(1)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター1名
- ボランティア登録者数 : 40名
- 地域連携担当教職員 : 無（管理職が対応）
- 支援日数 : 年間約110日
- 民生・児童委員の参画 : 4名
(校区内民生・児童委員4名)



<読み聞かせ>



<算数チャレンジ>

■本部設置までの経緯

赤野小学校では、平成26・27年度にコミュニティ・スクールとして導入の促進を進め、推進校として視察研修を実施し、学校と地域の連携や取組についても熟議を重ねました。

平成28年度より学校運営協議会を設置してコミュニティ・スクールとして活動を始めると同時に、赤野小学校支援地域本部を設置し、本年度地域学校協働本部に移行しました。

■主な支援内容

- 学習支援 : 全学年対象に毎週水曜日の昼休み後に算数チャレンジ 年35日
- 交流参観日 : 11月に実施
- 総合学習支援 : 田植えと収穫
- 生活科 : ザリガニの生態について
- クラブ支援 : 年4日
- 環境整備 : 5月、8月に児童保護者と共に行う他年間10日
- 読み聞かせ : 全学年対象に毎週水曜日朝の時間帯に実施 年35日
- 地域活動 : 地域との合同防災学習 年1日
- 研修活動 : 年間5回
- 登校見守り : 毎月1回挨拶活動

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・開かれた学校づくり推進委員会（年2回）
- ・学校支援地域本部協議会（年2回）
- ・学校運営協議会（年6回）
年間計画や学校全体の状況や課題等の取組を推進するにあたり十分な時間を確保できるかが課題だった。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・学校支援地域本部協議会に民生・児童委員が1名参加しており、学校に週1回以上は訪れ必要な児童の情報は即座に学校に伝わる体制となっはいたが、更なる体制の強化が不可欠だった。

課題に対しての取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- 4月：学校運営協議会で学校の状況と本年度の学校経営方針の承認。開かれた学校づくりにおける重点項目の説明と質疑応答
- 6月：学校運営協議会で児童の学校生活並びに学習面における意識調査の結果の確認と課題に対する意見交換。学校行事と日程の確認
- 9月：学校運営協議会で一学期の児童の生活面における課題の確認
学校運営協議会に稲田CS（コミュニティ・スクール）マイスターを講師に迎えて講話と研修
2学期の運営について
- 11月：学校運営協議会に稲田CSマイスターを迎えて学習会
学校の現状報告

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- 4月：学校運営協議会で学校の状況説明
- 6月：学校運営協議会で児童の学校生活並びに学習面における報告と対応における質疑応答
- 9月：学校運営協議会で意識調査の結果の確認と課題に対する意見交換
- 10月：県教委・心の教育センターによる「子どもたちとの関わりについて」の研修
参加者：民生・児童委員、安芸市教育委員会、安芸市福祉事務所、安芸市社会福祉協議会、地域コーディネーター、ボランティア
- 11月：県教委人権教育課による「いじめの定義について」の研修 参加者：同上
毎月第3木曜日：登校児童の安全見守りとあいさつ運動

取組後の状況

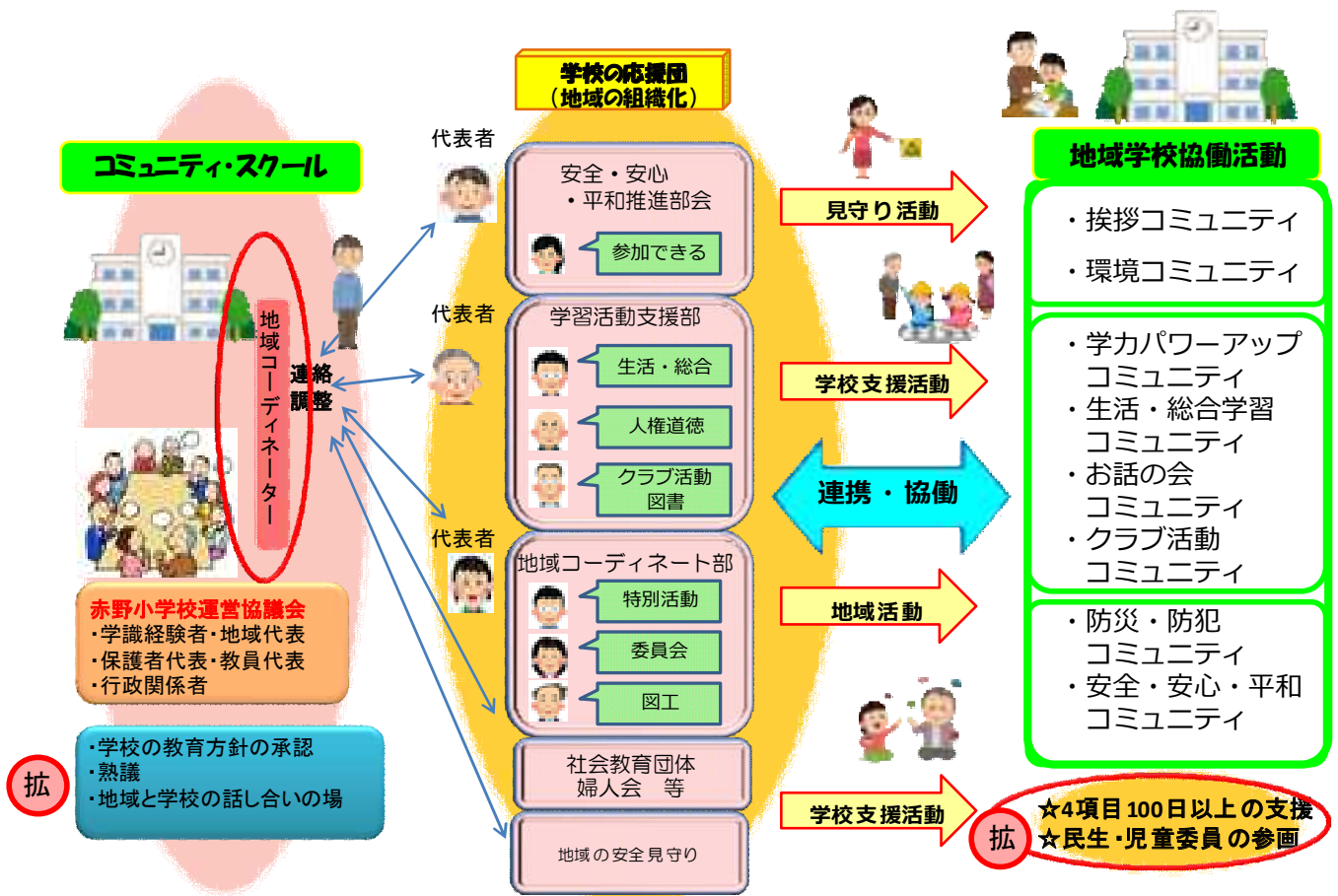
□学校と地域との定期的な協議の場

- ・児童の課題解決に向けて学校としての方針や取組を伝える体制が整った。
- ・研修により児童間のトラブルに対して学校と地域の相互理解を深めることができた。
- ・学校外の児童の行動や情報を得ることができた。また、児童への素早い対応を行う体制が整った。
- ・学校と地域との連携・協働体制が整ってきた。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・民生・児童委員からの情報を教職員で共有して、声かけや見守りを行い、家庭から学校への信頼が強くなった。
- ・民生・児童委員に対して児童が相談したり話を聞いてもらったりすることで、相談窓口が増えた。
- ・民生・児童委員があらゆる場面で声をかけてくれるので、児童が安心して生活を送れるようになった。

■特色ある取組～運営の仕組み～



■地域コーディネーターの活動

- ・支援活動計画により、担当教員と短時間に打合せを行う。ボランティアに連絡して日程調整を行う。活動を確認して終了した後は、振り返りを行い次への活動の修正ポイントとしている。また普段から、CS（コミュニティ・スクール）レターを戸別に手渡し、日程の周知等に努めている。

(例)地域コーディネーターのある一日

8:30～	読み聞かせボランティアの確認 算数チャレンジの準備 CSレター作成
13:25～	算数チャレンジボランティア確認
13:50～	算数チャレンジ進路の点検と補充印刷
14:20～	行事とボランティアの調整 連絡
15:00	終了

【活動場所】

赤野小学校地域学校協働本部では、地域コーディネーターの机が、職員室に配置されており、教職員や管理職等、学校との連携がスムーズに進むようにしています。



<職員室内の専用の机>

【活動内容】

週1回、1回あたり約5時間活動しています。地域コーディネーターの他、学習支援員も兼務しており、地域との連携活動等、多岐にわたっています。



<学習支援>

■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター】

2年連続で地域コーディネーターを依頼しています。地域の方なので、地域を知り地域からの信頼が厚く児童のことをしっかり考えて地域や関係機関と連携をしてくれています。

【ボランティア】

4年前にコミュニティ・スクールとして導入を始めた時からの参加者に加えて、募集による新たな参加もあり、支援の輪が広がりました。

【講師】

得意分野を持たれる方を把握しており、地域コーディネーターからの連絡で講師として児童に関わっていただいています。



<協議会の様子>

■イベントカレンダー

- 4月 第1回 協議会開催
- 5月 田植え、プール掃除
- 6月 授業参観・意見交流
- 7月 環境整備
- 8月 稲刈り、教育環境整備
- 9月 避難訓練
- 10月 運動会
- 11月 取組発表、交流学习
- 1月 人権参観日
- 第2回 協議会開催
- 3月 学習会

【その他】

- ・全学年対象に毎週水曜日、昼休み後に算数チャレンジ
- ・全学年対象に毎週水曜日、朝の時間帯に読み聞かせ
- ・毎月第3木曜日の登校時に挨拶見守り運動

【支援団体】

PTA 及び地域に依頼し、プールの清掃、校舎や校庭の整備、庭木の剪定をしてもらっています。

児童は地域の独居老人宅を訪問して、地域の方により整備されたグラウンドで行う運動会等の招待状を手渡しています。



<教育環境整備>

【講師】

交流学习会では、1・2年生は餅つき、3・4年生はわら縄づくり、5・6年生は火おこしを地域の方を講師に学習しました。

また、地域の方を招待して、ふれあい会食を行いました。



<協働本部の取組発表>

☆企画・運営のポイント

行事予定はおおむね決まっているので、児童の実態に合った運営をしています。

■広報活動

・おたより配布

月に一度、コミュニティ・スクールレターを発行して、活動報告・月別計画表やボランティア募集を呼びかけています。赤野の全ての世帯に配布しています。



＜広報誌：コミュニティ・スクールレター＞

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

「算数チャレンジ」や「読み聞かせ」等の定期学習支援はボランティアが行うことが定着し順調に実施されています。

田植え等の各種行事も児童・保護者・地域の方々との協働作業で活気あふれる充実した時間となっています。

また、学習発表や文化講演会では地域の方を招待し、児童の成長を喜んでもらったり、講演会を楽しまれたりしている様子から地域活性化の輪が少しずつ広がっているように感じています。

民生・児童委員、地域の方等

協働本部に登録してあるので、地域コーディネーターの要請により自分に対応できる事について協力しています。

子どもを知り、子どもに会えば何でも声を掛けることができます。

ただ、登録メンバーが少ないので同じ人に頼ることになっています。

登録メンバーを増やすことが課題です。



子どもたち

読み聞かせではいろいろな本を教えてくれたり、長い文を読んでくれたりしてありがとうございます。私たちに、いろいろな本を知ってもらいたいことや、分かりやすく読み聞かせてくださっていることが分かります。本を読むと知識が増えます。本を読むことが好きになりました。

算数で暗算や式が分かりました。計算がしやすく解けるようになったり、暗算ができるようになったりしました。算数を好きになり計算等が早くなりました。算数の良さや楽しさを知りました。

学校長

地域の方が学校にいらっしゃることが自然で、児童も地域の方もお互いに挨拶を交わし会話をしています。ボランティアして下さる方から、児童への愛情に溢れる声掛けや指導をいただき常に温かく見守っていただいています。児童の安全・学力保障・生活面等全てにおいて学校と足並みをそろえて児童の成長を支援していただきます。

校長初年度ということで不安はありましたが、地域コーディネーター、役員、地域の方々の迅速な動きで4月には一気に消されていました。

できる時に できる人が できることを

～東の子ども応援隊～

野市東小学校地域学校協働本部（香南市）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 野市東小学校（全校児童数265名）
- 設置年度 : 平成28年度
- 協議会
 - 名称 : 学校支援地域本部事業運営委員会（年3回開催）
 - 委員数 : 11名
 - 委員構成 : 学識経験者(1)、PTA会長(1)、学校代表(3)、地域コーディネーター(1)、民生・児童委員(3)、行政関係者・教委担当(2)
- コーディネーター : 1名（主任児童委員）
- ボランティア登録者数 : 42名（年間延べ人数598名）
- 地域連携担当教職員 : 有
- 支援日数 : 年間161日
- 民生・児童委員の参画 : 9名（校区内民生・児童委員9名）



<朝の学習丸付け>



<ふれあい下校>



<地域クリーンアップ>



<草刈り作業>

■本部設置までの経緯

- 平成28年度の学校支援地域本部の反省
 - ・何をしてもらいたいかを明確化する
 - ・協力していただく方の目線に立つ
 - ・お互いに無理しない継続できる取組にする
- 平成29年度の学校支援地域本部の基本的取組
 - ・朝の学習丸付け補助を基本
 - ・家庭科の実習補助、クラブ活動支援
 - ・環境整備（グラウンド整備等）
 - ・安全指導（集団下校、遠足や持久走大会等）
 - ・各行事への協力（昔遊び、地域クリーンアップ作戦等）
- 高知県版地域学校協働本部に向けて
 - ・充実した学校支援活動（4種類以上、年100日以上）
 - ・学校と地域との定期的な協議の場（年4回以上）
 - ・見守り体制の強化（情報交換会を月1回程度）

■主な支援内容

- 学習支援（137日）
 - ・朝の学習丸付け支援（100日）
週4日（1日あたり15分）
1学期1～2年生、2学期以降1～6年生
 - ・授業補助（37日）
5、6年生の家庭科学習補助
- 地域活動（5日）
 - ・地域クリーンアップ作戦
 - ・昔遊び
 - ・地域学習等
- クラブ活動支援（8日）
 - ・クラブ活動の補助
- 学校周辺環境整備（3日）
 - ・愛校作業、グラウンド整備（草刈り）
- 登下校安全指導・学校行事支援等（8日）
 - ・1年生とのふれあい下校
 - ・遠足や持久走大会等の安全管理・交通指導

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・学校評議員会（年2回）
- ・学校支援地域本部事業運営委員会（年2回）
- ・年間計画や学校全体の状況については説明しているが、課題等についての具体的な状況については共有できていない。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・学校支援地域本部事業運営委員会に主任児童委員が1名入っている。
- ・要対協で民生・児童委員、社会福祉協議会、SSW、管理職で2ヶ月に1回程度情報共有している。



課題に対しての取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- 4月：学校の状況（特色や課題等）を確認
- 6月：学校評議員会や学校支援地域本部事業運営委員会等に民生・児童委員や主任児童委員を加え、地域学校協働本部の目的に沿って組織を整理し、「地域学校協働委員会」への移行準備
- 7月：学校支援地域本部事業運営委員会を年3回の開催にして、進捗状況や改善事項を検討するとともに、地域学校協働本部の目的等を説明し、地域学校協働委員会へ移行
- 12月：運営委員や支援ボランティア、保護者と、学校の実情や子どもたちが置かれている状況や課題を情報共有し、さらなる見守り協力を要請

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- 4月：学校の状況（特色や課題等）を確認
1年生と集団下校をしてもらい、声掛けや子どもの把握を依頼(年5日)
- 6月：社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、市の福祉事務所（要対協の事務局）等に地域学校協働本部の取組を説明し、協力を依頼
学校とどのような見守り体制にするか等について協議
- 7月：民生・児童委員との連絡会を開催
- 8月：民生・児童委員による見守り活動開始
- 9月：1年生との集団下校(ふれあい下校)
- 10月：月ごとの連絡会で、厳しい環境にある子どもたちの情報を共有
- 1月：1年生との集団下校(ふれあい下校)



取組後の状況

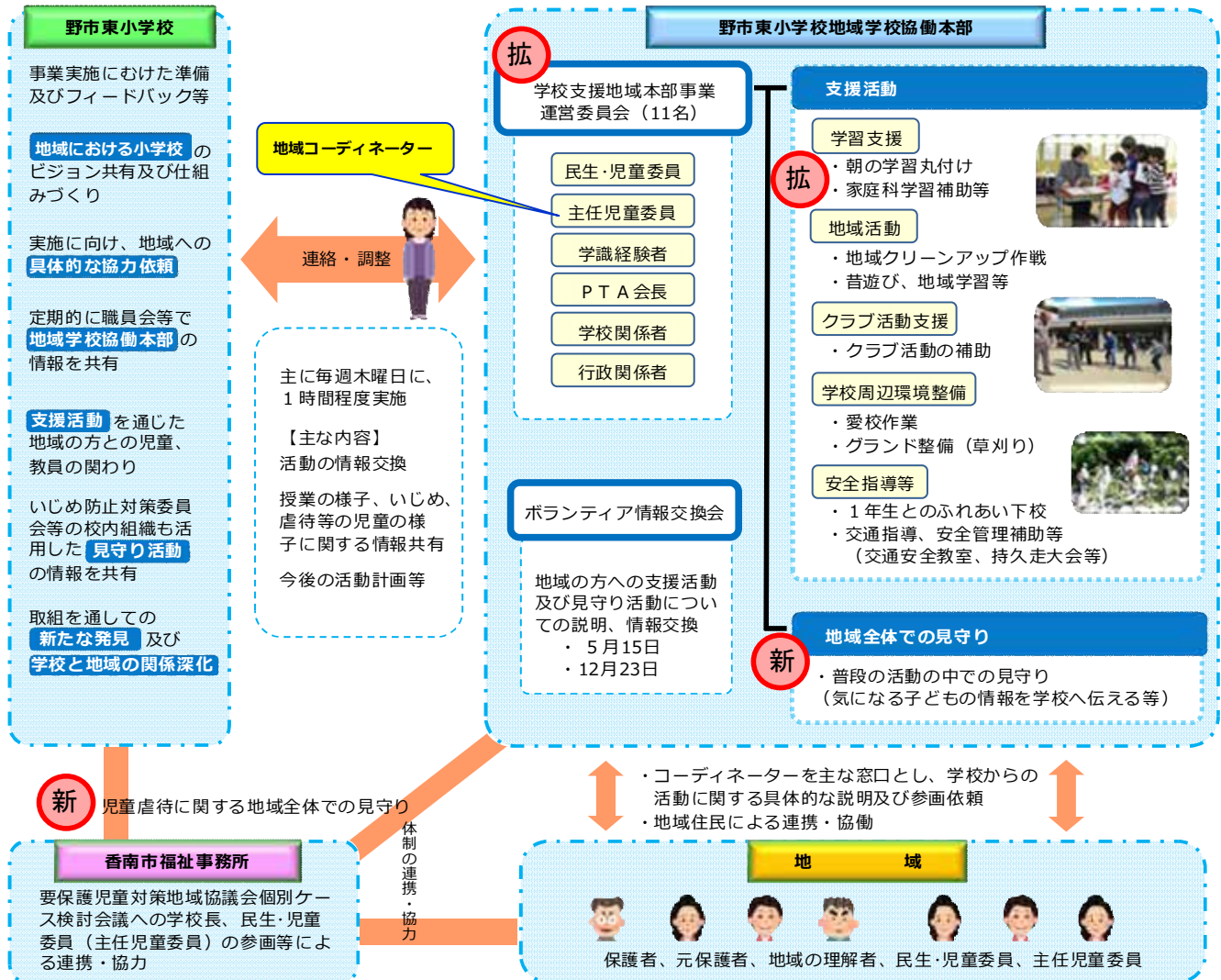
□学校と地域との定期的な協議の場

- ・地域の方々が学校の実情や子どもたちの状況等を知ったことにより、学校が支援してほしいことに対して、より協力してくれるようになった。
- ・学校では把握できていなかった子どもたちの情報を得るとともに、子どもたちや家庭への対応のヒントを得ることができた。
- ・学校と地域との連携・協働体制が整ってきた。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・民生・児童委員が厳しい環境にある家庭の様子を学校に情報提供し、親子に対して学校と地域が、声かけや見守りをしたことで、保護者の精神的な安定や子どもたちの安心感につながった。
- ・学校では把握できていない厳しい環境にある子どもの家庭での頑張りや状況を知ることができたので、子ども理解が深まり、対応につなげることができた。

■特色ある取組～運営の仕組み～



■ **新** 地域全体で子どもを見守り育てるために

野市東小学校地域学校協働本部では、地域コーディネーターである主任児童委員のネットワークを生かし、香南地区民生・児童委員と情報交換を行っている。また、この他、普段の学校支援活動に参加いただいた方へ、ボランティア情報交換会等で見守り活動に関する説明を行う等、地域で見守る体制づくりに取り組んでいる。

■ 民生・児童委員地区会における情報交換（2ヶ月に1度）

- 地区会での研修会終了後、野市東小学校区担当の民生・児童委員による部会を実施。
- 主任児童委員である地域コーディネーターも参加し、必要に応じて学校や児童に関する情報を共有する。

■ 地区の民生・児童委員による学校授業訪問及び情報交換会

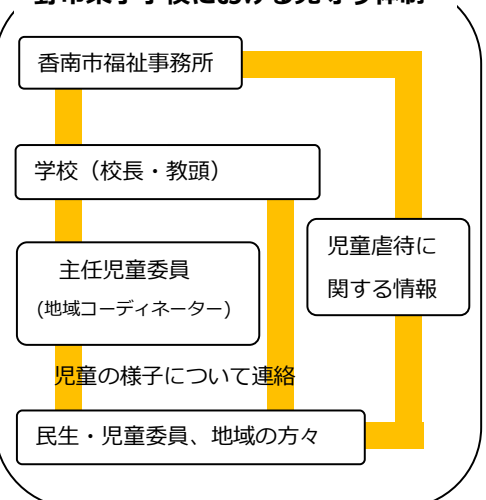
- 実施日 9月25日（月）※年2回予定、次回は3月
- 参加人数 6人（民生・児童委員5人、主任児童委員1人）
- スケジュール

10:30～10:50	開会、事前説明
10:50～11:35	授業参観（全学年）
11:35～12:00	学校との情報交換

・情報交換では、学校の状況や地域における見守り体制についての説明の他、丸付けに参加して気になる児童や、学校の様子についての意見が出た。

■ 特に厳しい環境にある児童には、香南市福祉事務所主催の要保護児童対策地域協議会個別ケース検討会議へも、地区の主任児童委員等が参加し、地域全体で連携した取組も行っている。

野市東小学校における見守り体制



■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター】

活動に関する打合せを学校と行うほか、地域や関係機関との橋渡し役となり、活動に関する周知や活動に参画いただける地域住民の募集等を中心に活動している。また、スタッフとしても、朝の学習丸付けや読み聞かせ活動、家庭科学習補助にも参加している。

【ボランティア】

民生・児童委員さんを中心に、地域の方も参加してくれており、保護者の中からも協力していただける方が増えてきた。

活動に参加していただく中で、地域の方同士や、保護者同士、地域の方と保護者の交流へとつながり、子育てなどの悩みについて話す機会も多くなってきた。

＜地域コーディネーターのある一日＞

【木曜日】

- 8:15～ 8:25 本の読み聞かせ
- 8:25～ 8:40 朝の学習丸付け
- 8:40～10:00 学校との情報交換
 - ・当面の計画や行事について
 - ・子ども等の様子について

■イベントカレンダー

- 4月 1年生とのふれあい下校
第1回 委員会開催
- 5月 遠足での交通指導
支援ボランティア説明会
グラウンド整備(草刈り)・運動会
- 6月 評議委員会
- 7月 第2回 委員会開催・懇親会
- 8月 グラウンド整備(草刈り)
- 9月 1年生とのふれあい下校
民生・児童委員学校訪問
地域クリーンアップ作戦
- 10月 PTAバザー(人権参観日)
- 11月 グラウンド整備(草刈り)・懇親会
- 12月 情報交換会・懇親会
- 1月 1年生とのふれあい下校
- 2月 昔遊び体験
- 3月 第3回 委員会開催・懇親会

【その他】

- ・朝の学習(月、火、木、金)丸付け
- ・1～3年生対象に毎週木曜日、朝の時間帯に読み聞かせ



＜朝の学習の予定表と名札＞

【予定表】

朝の学習丸付けに来てくださる方の名札やマグネットを用意し、都合のつく日を自分自身で選択して予定表に貼るようなボードを準備した。

【懇親会】

委員会やグラウンド整備等の後、適宜懇親会を催すと、教職員や保護者の方も参加してくれて話が盛り上がり、さらに交流や親睦を深めている。



＜支援ボランティア忘年会＞



＜昔遊び体験＞

【講師】

地域のお年寄りやボランティアの方々が来校してくれて、低学年に昔の遊び方を紹介し、一緒に子どもたちと遊んで、交流を深めている。



＜朝の読み聞かせ＞

【講師】

のいち子ども図書館クラブの方を中心に、保護者や地域の方が、朝の時間帯に本の読み聞かせを行っている。

☆企画・運営のポイント

- ・何をしてもらいたいかを焦点化する
- ・協力いただける方の目線に立つこと
- ・お互いに無理をしないような準備や方法

■広報活動

- ・ボランティア募集のお便り配布
- ・ポスター作成
- ・学校だよりででの呼びかけ（適宜）
- ・ホームページ作成



＜ボランティア募集のお便り＞



＜ポスター＞

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

野市東小学校の朝、8時25分から15分間、地域、民生・児童委員、保護者ボランティアの人たちが丸付けに来てくれて、とても活気のあるものになっています。他にも、家庭科実習支援、本の読み聞かせ、環境整備、登下校の見守りや昔遊び等、たくさんのボランティアが活躍していますが、子どもたちと触れ合うことが本当に嬉しそうです。学校や子どもを取り巻く環境は大きく変わりましたが、周りの大人たちが子どもに手を差し伸べていくことができるように小さな支援でも大切にしていきたいです。

民生・児童委員、地域の方

- ・地域の子どもの顔をなかなか覚えられないのですが、丸付けに参加して、子どもたちに先に覚えてもらい、私も少しずつ顔を覚えてよかったですと思います。正直、子どもと対応するのが苦手で、どうなるか心配でしたが、何度か子どもに教えてもらうこともあって、続けられています。
- ・朝いちの丸付けは、一日が有効に使えるので参加しやすし、予定表も自分で調整できるので分かりやすくいいと思います。若いお母さんたちや地区の子どもさんたちと触れ合えて、いろんな話ができて、よかったですと思います。散歩中に、「丸付けの人や！」と声を掛けられ、覚えていてくれたんだと嬉しかったです。
- ・学校が身近に感じられるようになり、先生方との交流もできてよかったです。

保護者の方

- ・地域の方が、子どもと関わってくれることで、登下校や地域活動の中でも、子どもたちに目が届くようで、関わりを持ってもらえることが大変ありがたいです。
- ・子どもが丸付けでお世話になっている地域の人と親しくさせていただき、日頃遊んでいる時も声を掛けてもらえるので、喜んでます。先生と違う立場の人に見てもらえることに、やりがいを感じているようです。時間が短いので、字が丁寧に書けないことを気にしている時もあったようですが、その時々に応じて使い分けることができるようになり、良い経験だと思えます。
- ・丸付けに参加して、学校での子どもの様子がよく分かって嬉しいです。自分の子どもだけでなく、他の子どもが頑張っている姿が見られるので、今後も続けたいと思います。

子どもたちの感想

- ・間違っているところを優しく教えてくれるので、これからも来てほしいです。
- ・明るく話しかけてくれるので、朝の学習のプリントが楽しくできます。
- ・何人も来てくれて丸付けしてくれるので、待つ時間が短くなって、どんどん進めていけるので嬉しいです。
- ・地域の方から話しかけてもらって、交流できるから朝の時間が楽しいです。
- ・毎朝来てくれて、間違えているところは優しく教えてくれるので、嬉しいです。

学校長より

本校に赴任してずっと考えていたのが、「もっと地域や保護者の方々とつながりを深めたい。」ということでした。そして、学校支援地域本部事業のお話をいただいた時、「やってみよう。」と思いました。学校に入ってきている方が既にいたので、その流れでうまくいこうと思っていました。でも、1年目にはうまく回りませんでした。なぜだろうと考えた時、私達が「学校目線」で物事を考えていることに気づきました。2年目にはその反省に立って、「何月何日のこの時間にこんなことを何人くらいの方にお願いしたい。」というように、より具体的をお願いをしました。それにより、この活動が回り始めました。「学校に協力したい。」と考えている方はたくさんいます。その方々が気持ちよくやりがいを感じてお手伝いしていただける関係づくり(Win-Win)が成功の鍵だと思います。また、本年度は、厳しい環境にある児童の見守りの一環として、香南市福祉事務所主催の要保護児童個別ケース検討会議へ地区の主任児童委員等に参加していただきました。学校と地域での情報が共有でき、よりきめ細かな見守りの体制ができたように感じました。これからも地域全体で連携した取組を行っていきたいです。

稲生で育つ子どもたち

～学校と地域は友に～

稲生地域学校協働本部（南国市）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 稲生小学校（全校児童数84名）
- 設置年度 : 平成20年度
- 協議会 : ※以下の2つの会をもってあてる
 - 名称 : 開かれた学校づくり推進委員会（年間2回）＜意見交換会＞
 - 委員数 : 22名
 - 委員構成 : 校長(1)・教頭(1)・主任児童委員(1)・民生・児童委員(6)・公民館長(1)・社会福祉協議会長(1)・学識経験者(2)・PTCA関係(3)・チーム稲生(地域コーディネーター1)・地域(5)
- 名称 : 地域学校意見交換会（学期2回 本年度9月より開始：読み合い活動後）
- 委員数 : 15名
- 委員構成 : 校長(1)・主任児童委員(1)・民生・児童委員(6)・地域(6)・チーム稲生(地域コーディネーター1)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター3名（うちチーム稲生2名）
- ボランティア登録者数 : 24名
- 地域連携担当教職員 : 無（管理職が対応）
- 支援日数 : 年間約220日
- 民生・児童委員の参画 : 7名（校区内民生・児童委員7名）



＜毎週月曜日のラジオ体操＞

■本部設置までの経緯

- 平成18年 PTA総会にてPTCA化議決
校門へPTCA看板設置
運動会へPTCA競技導入
- 平成19年 1/2成人式へ地域の方参加
週明けのラジオ体操へ地域の方参加
- 平成20年 地域の方PTCA役員へ就任
文部科学省「学校支援地域本部事業」
開始
- 平成22年 地域の方との絵本の読み合い開始
- 平成26年 集落活動センター「チーム稲生」発足
- 平成28年 高知大学地域協働学部との活動連携開始
- 平成29年 文部科学省主催 地域学校協働活動推進
フォーラム in 南国市開催会場
(事例発表)

■主な支援内容

- 学習支援 絵本の読み合い（低学年・学期2回）
- スポーツ支援 サッカー 野球 フットサル
バスケットボール／各週2回
- 見守り活動 登下校（授業日 年間約200日）
夏休みプール監視（約20日）
- 環境活動 8月資源回収愛校作業、1月資源回収
- 地域活動 6月合同防災訓練 7月防災キャンプ
- 生産活動 米づくり・ロング巻きずしづくり
玉ねぎづくりと販売 芋づくり
- 栽培活動 花づくり（季節ごと）水やり草取り
- その他 ラジオ体操（週明け）

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・開かれた学校づくり推進委員会（年2回）
児童の学習発表の場であり、児童と委員の意見交換の場である。また、学校と委員の情報交換を行っていたが年間を通じた協議の場が少ない。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・それぞれの協議には主任児童委員と民生・児童委員が全員入っている。
- ・学校との情報共有が十分でない。



課題に対する取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- 5月：開かれた学校づくり推進委員会
5年生児童の発表、児童と委員の意見交換、学校より経営方針、年間計画等の説明と質疑
- 9月：地域学校意見交換会を初めて開催
開催の目的説明
- 11月：地域学校意見交換会
県教委より他地域の取組例紹介
行事への協力依頼 学校や児童の様子
- 1月：開かれた学校づくり推進委員会
6年生児童の発表、児童と委員の意見交換、学校よりこれまでの経過報告
：地域学校意見交換会 行事への協力要請 学校や児童の様子
- 3月：地域学校意見交換会 今年度のまとめと来年度の課題共有

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- 7月：県教委より学校、地域コーディネーター、公民館関係者等へ見守り体制について説明
- 8月：学校と県教委で今後の見守り体制について確認
：市こども相談係、市教委、児相、民児連等と見守り体制について確認
- 9月：県教委より公民館関係者、民生・児童委員、地域ボランティア等へ見守り体制や手順、守秘義務等について説明（学習会）
：地域学校意見交換会を初めて開催
開催の目的説明
：個別ケース検討会議の開催
- 11月：地域学校意見交換会
県教委より他地域の取組例紹介
行事への協力依頼 学校や児童の様子
- 1月：地域学校意見交換会 行事への協力要請 学校や児童の様子
- 3月：地域学校意見交換会 今年度のまとめと来年度の課題共有



取組後の状況

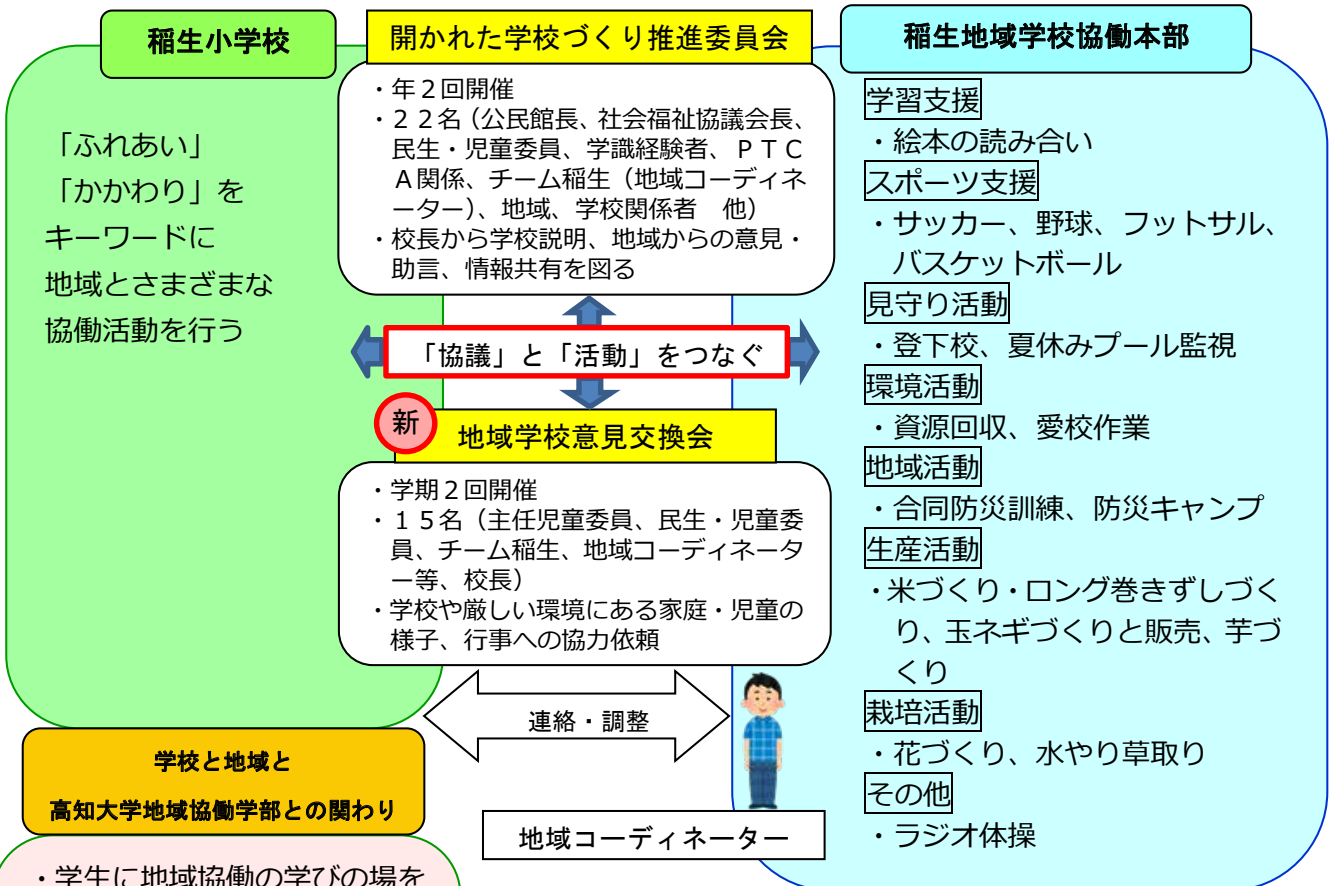
□学校と地域との定期的な協議の場

- ・地域の方々に学校の実情や児童の状況を更に知ってもらい、学校が支援してほしいことを明確にして具現化している。
- ・地域の方々から、より良い学校にしていくための前向きな意見が出され、ともに考えることで、より良い方向に進み、一体感が深まったと感じている。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・南国市こども相談係や児童相談所も参加した個別ケース検討会議を学校で開催し、学校で把握できない児童の情報を得ることで、児童や家庭への対応に生かしている。
- ・主任児童委員や民生・児童委員が厳しい環境にある家庭を熟知し、声かけや見守りを行うことで、保護者や児童の精神的な安定や安心感につながっている。
- ・学校では把握できない厳しい環境にある児童や家庭の情報を得ることで、相互に連携した対応を行えている。

■特色ある取組～運営の仕組み～



学校と地域と 高知大学地域協働学部との関わり

- ・学生に地域協働の学びの場を提供
- ・地域は学生の意見をもらっている
- ・「防災訓練」「びわもも祭り」では大学生の話や6年生の発表を取り入れ、課題解決型で行っている

南国市福祉事務所子ども相談係

新 個別ケース検討会議で情報共有し、見守りを実施中

（南国市福祉事務所子ども相談係、南国市教委、中央児童相談所、学校、民生・児童委員、主任児童委員）

要保護児童対策地域協議会

新 学校と民生・児童委員による見守り体制

新 地域学校意見交換会

- 主任児童委員1名、民生・児童委員6名、地域6名、チーム稲生1名、校長
- ・学期2回開催（読み合い活動後）
 - ・厳しい環境にある家庭や児童を支援するための情報共有、行事への協力依頼
 - ・地域での見守り状況を情報共有

民生・児童委員
主任児童委員

学校（校長）

見守り活動

・普段の活動の中での見守り
⇒気になる子どもの情報を学校へ伝える

■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター】

地域活動活性化（チーム稲生）での取組だけでなく、学校行事をはじめとして、学校と地域のつなぎ役を果たしている。また、さまざまな形での指導、助言、支援を多数いただいている。

■ 民生・児童委員も大活躍

本校において民生・児童委員（主任児童委員）の存在は大きく、活動範囲も広い。福祉活動だけでなく地域行事はもとより学校行事への協力もあり、いわば地域と学校のパイプ役になっている。

【読み合い】 学期に2回実施。1年生と2年生が交互にふれあう。月曜日の全校朝会后図書室にて行う。交互に読み合うことで親睦が深まり児童の国語力向上にもつながっている。



【食育】 ロング巻きずしづくりは地産地消が基本となっている。主任児童委員の水田の一角をお借りし、田植えから稲刈り、精米までを児童とともにいき、社会教育団体である「ひまわり会」が巻きずしづくりの計画・準備・調理を行っている。以前は具材もすべて地元産野菜を使っていた。また、調理の当日には米づくりをしていただいた主任児童委員や民生・児童委員をはじめ地域の方々が多数参加している。平成28年度からは高知大学地域協働学部の学生も参加している。その他に玉ネギの植付け、収穫、袋詰め、量販店での販売活動、またサツマイモの植付け、収穫にも深く関わり、児童の主催する『おいもパーティー』には来賓として参加している。



【花育】 花や樹木を植栽し育てることから生命や個性を考える活動も学校から地域全体へ広がっている。これまで地域の方のお世話や指導で皇帝ダリアや皇帝ひまわり、チューリップ・ユリなどたくさんの花が学校を飾った。また、剪定や草刈り、草引きなども随時行われている。これらにも民生・児童委員が深く関わっている。



■イベントカレンダー(平成 29 年度)

- 4月 入学式 **PTCA総会**
保護者、教職員、地域の代表者が参加
1年間の方針を決定する
- 5月 開かれた学校づくり推進委員会開催
 玉ネギ収穫・販売 田植え
- 6月 いも植付け **びわも祭り** 合同避難訓練(幼小地域) コスモス植え
地域おこしのイベントと夏祭りが合体し、今年度で4年目を迎える
毎年6年生が地域活性化に向けた学習内容を発表
- 7月 防災キャンプ
- 8月 プール監視 稲刈り 愛校作業 資源回収
- 9月 運動会
- 10月 地区民運動会 和歌づくり
- 11月 いも掘り 玉ネギ苗植え 学習発表会 稲生ふれあい文化祭
- 12月 いもパーティー 精米 ロング巻きずしづくり 奉納絵馬づくり
- 1月 **ふれあい参観日** 開かれた学校づくり推進委員会開催 資源回収
地域の人材を活用し、その知識・技術を児童・保護者が学び、
絆を深める
- 2月 **1/2成人式**(4年生)
地域の方々が来賓として出席し、児童・保護者とともに喜び
を共にする
- 3月 卒業式・茶話会

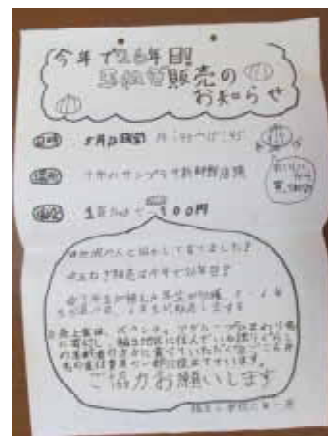


【その他】

- ・全校児童とのラジオ体操(毎週月曜日)
- ・1、2年生対象の読み合い(学期に2回;年間6回)
 ※読み合い後に地域学校意見交換会実施
- ・授業日の登下校時の見守り(交通安全+防犯対応)

■広報活動

- ・校長室便り(保護者+地域+関係機関)
- ・学級便り(保護者+関係機関)
- ・イベントチラシ
- ・ホームページ
- ・チーム稲生のフェイスブック



<イベントチラシ>

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

稲生小学校では、平成17(2005)年にPTCAの組織づくりを始める等、地域住民による学校との協働が活発に行われてきました。また、各団体が地区公民館を中心に活動しているため、学校と公民館が連携を密にすることにより、支援体制も円滑に行えています。

昨年度より地域で活動を始めた高知大生や、多世代交流等で保護者世代との活動を行いながら、今後も持続可能な協働活動を展開していきたいです。

(チーム稲生)

民生・児童委員

「できるときに、できることを、できるだけ」という気持ちで、学校の行事には積極的に参加するようにしています。「食育」や「花育」「本の読み合い」等いろいろな行事に関わることで、学校での子どもたちの状況を知ることができ、学校の先生、保護者、地域の方々との交流も図れます。このような活動を通じて、地域の方々とも気軽に話せるようになってきました。子どもたちとも顔見知りになって、出会った時に元気な声で「こんにちは」「おはようございます」とあいさつをしてくれます。うれしいですね。子どもたちの成長を楽しみにしています。

また、今後、必要があれば個別ケース検討会議に出席して、家庭の情報を共有し、ともに取り組んでいきたいと思えます。

子どもたち

今日は楽しみにしていたおいもパーティーでした。お手紙を出したら地域の方がたくさん来てくれました。学校にいつも来てくれる人ばかりだったから知っていました。始まりの5分前にはほとんどの人が来てくれました。パーティーではクイズや手品をしました。私たちが作ったおやつも食べました。私はおやつの係だったから慎重に落とさないように持って行きました。おいものメニューはいもドーナツといもけんぴといもようかんといもトリフと桜クッキーでした。みんなおいしいと言ってくれたので、楽しくて地域の人に喜んでもらえるパーティーができたと思います。いつもお世話になっている地域の人に感謝の気持ちが伝えられたと思います。私たちはたくさんの地域の人に見守ってもらえるから、安心して学校に行けるのでうれしいです。

(3年生児童)

学校長

赴任する以前から、本校と地域の絆の深さは折りにふれて耳にしていました。地域の皆さんが心から学校の事を我がことのように気にかけて、温かく時には厳しく物心両面にわたりご支援くださることに改めて感謝したいと思います。

様々な行事、食育、花育を通し子どもたちに人と関わることの大切さ、地域への帰属意識、そして何より健全で美しい心が育っています。

特に晴雨に関わらず登下校時の「見守り」活動には頭の下がる思いです。これからも本校と地域が一枚岩となり、稲生地域の活性化がさらに進むよう願ってやみません。

みんなで育てる町の宝

～できる時に、できる人が、できる事を（ムリをせずに）～

土佐町学校応援団推進本部（土佐町）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 土佐町小中学校（全校児童生徒数223名）
- 設置年度 : 平成20年度
- 協議会
名称 : 土佐町学校応援団推進本部実行委員会
委員数 : 13名
委員構成 : 校長(1)・教頭(2)・地域コーディネーター(2)・PTA関係(3)・
民生・児童委員(2)・地域ボランティア(3)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター2名、教育活動推進員37名、
教育活動サポーター7名、学習支援員3名
- ボランティア登録者数 : 181名
- 地域連携担当教職員 : 有
- 支援日数 : 年間延べ658日
- 民生・児童委員の参画 : 28名
(校区内民生・児童委員28名)



<民生・児童委員と顔合わせ>



<情報交換会の様子>

■本部設置までの経緯

- H20年度・開設当初から「学校支援地域本部事業」と「放課後子ども教室推進事業」を組み合わせ「複合経営」を実施
- H21年度・小学校統合と併せ同居型小中連携校としてスタート。名称も「土佐町学校応援団推進本部」に変更。事務所を学校内に設置し、地域コーディネーターと町教委主監職員が常駐
- H22年度・実行委員会と社会教育委員会を統合
- H23年度・学校評議員制度・コミュニティ・スクールを開始

■主な支援内容

- 学習支援(授業の補助):週5日(1日あたり6時間)
1～6年生の授業補助 年195日
- 放課後子ども教室:1～6年生対象に週5日
2.5時間実施 年190日
- 放課後子ども教室:1～6年生対象に長期休業期間
7時間実施 年43日
- 家庭科実習・総合授業支援:ミシンによる裁縫実習・調理実習補助・総合授業の補助・学校行事
- 部活、クラブ支援:Ⓜ野球部 年30日・小 年8日
- 環境整備:4～11月 毎月 校庭及び校舎回りの
草引き・草刈り・庭木の剪定を実施 年7日
- 登下校の見守り:毎日 月曜日～金曜日 年180日
- 読み聞かせ:全学年対象に毎週水曜日
朝の時間帯に実施 年28日
- 中学校体育武道必修講師:剣道 年5日

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・主任児童委員が学校運営協議会に2名入っている。
- ・民生・児童委員と関わる取組はできているが、学校の取組や児童生徒の実態を共有することはできていない。
- ・民生・児童委員が学校や児童生徒の課題を把握していないため、具体的な見守り活動にはならない。
- ・民生・児童委員が要保護児童対策地域協議会個別ケース検討会議に必要に応じて参加をする。



課題に対する取組

□民生・児童委員の参画による見守り体制

6～7月

：民生・児童委員との関わりについて状況を確認し、今後の見守り体制について検討

8月：社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、町健康福祉課（要対協の事務局）、町教委等に高知県版地域学校協働本部の取組を説明し、協力を依頼
民生・児童委員と学校との関わり方や児童生徒の見守り体制等について協議

9月：学校応援団推進本部実行委員会で、町教委より見守りの手順等について説明

11月：学校長が民生・児童委員定例会に参加して学校や児童生徒の実態を説明し、見守り体制及び児童生徒の情報提供の協力依頼

民生委員児童委員協議会会長と社会福祉協議会事務局より、民生・児童委員に見守りの手順等について説明

12月：学校応援団便りと併せて、見守りの手順等を学校応援団員に配布して周知

3月：民生委員児童委員協議会定例会に学校応援団も参加し、いじめの定義や個人情報取扱い、子どもたちとの関わり、見守りの手順等について研修を実施



取組後の状況

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・学校や児童生徒の実態が民生・児童委員に理解されることにより、児童生徒への関わり方が積極的になり、見守り体制の強化に繋がっている。
- ・民生・児童委員との見守りの協力体制が整ったことにより、地域と連携した見守り体制や相談体制が充実した。

■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター】

町広報誌で募集し、面接により採用。

【教育活動推進員等】

退職された知り合いの先生方や地域の方に積極的に声掛けをし、協力いただいている。

【ボランティア】

退職されて家庭にいる方や知人に、一人ひとり声掛けをして、できる時にできることで協力して欲しいことを伝え、まず、見学し協力してもらってから、団員になっていただいている。知人からの紹介もある。

【講師】

高知県生涯学習支援センターにお願いしたり、地域の方で特技を持っている方の情報を把握したりしておき、必要な時にお願いしている。



＜民生・児童委員定例会の様子＞

■イベントカレンダー

- 4月 小中合同春の遠足
田植え
救急法講習会
- 6月 環境整備 ←
- 社会見学
- 7月 防災学習・避難訓練（嶺北消防）
- 8月 防犯教室
サマースクール in 石原
エコ学習と紙漉き体験教室
食育（れいほく八菜のピザづくり）
- 9月 愛校作業・運動会
山の学習（間伐体験）
防災学習（町内）
- 10月 農園作業・芋ほり・稲刈り
文化発表会（和太鼓演奏） ←
- 11月 地域学習（秋探し）
焼き芋パーティー
- 12月 マラソン大会
総合学習（フラワーアレンジメント）
クリスマス会
- 1月 昔遊び体験
縄ない体験
- 2月 昔の暮らし体験
- 3月 日赤応急手当講習会

【支援団体】

PTA 及び地域の老人クラブに依頼し、庭木の剪定をしてもらう。また、PTA 会長を中心に、役員に声掛けをしていただき、協力してもらっている。



＜庭木の剪定＞



＜太鼓の練習＞

【講師】

小学3年生による、さめうら太鼓の練習。

10月の文化発表会で地域の方を招待し、披露している。

★特色ある取り組み

- * 生涯学習学校（ボランティアが児童生徒と一緒に教室に入り、学習をする）
- * 学校応援団員は路線バスに無料で乗車
- * 行政職員も支援活動に参加

■広報活動

- ・ 応援団便り配布
- ・ 町広報誌に掲載
- ・ ホームページ作成



<広報誌>



<応援団便り>

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

校舎内に学校応援団事務所、放課後子ども教室があるので、先生方との連絡も取りやすく、学校側の窓口も一つであり、地域コーディネーターとして動きやすさ、やりやすさを実感しています。

地域ボランティアの方も毎日「できる時に できる人が できることを ムリせずに」をモットーに毎日が楽しいと感じながら協力してくださり、感謝しています。

これからも、「無理せず、力まず、気負わず、背伸びせず」、学校のニーズに応じて地域の方々がたくさんの学校支援を行い、協力しやすいよう学校と地域のパイプ役として努力していきたいと思います。

民生・児童委員、地域の方等

- ・ 子どもたちに、元気をもらっています。
- ・ 学校で子どもたちの元気な姿を見ると、ほのぼのと安らぎを感じます。私にとっては、学校に来ることが脳の活性化となっていると思います。これからも頑張ってきて来たいと思っています。楽しいです。
- ・ 楽しく参加させていただいております。子どもたちの成長を見るのは幸せです。
- ・ 活動を始めたばかりです。勉強させていただきます。
- ・ 県も子どもの食育に力を入れており、子どもへの波及を子どもから家族と一緒に考えようとしており、今後も応援していきたいです。

子どもたち

- ・ 子ども教室の先生、宿題や勉強を教えてください、雨や台風の日にもいてくれたりして、ありがとうございます。
- ・ 毎日学校応援団の方が、寒い日も通学路に立って挨拶してくれたり、帰りの見守りをしたりしてくれているおかげで、安心して通学することができます。
- ・ マラソン大会の見守りやクラブ活動で色々教えてくれてありがとうございます。

学校

- ・ 学習したいことに合わせて、その都度たくさんの方に協力いただき、とても助かっています。十分に地域のことを知らない立場ではできない事もできています。
- ・ 学校・地域・家庭が連続して子どもたちを見守る事ができ、子どもたちの変化を早めに気付き、対応も連携して行う事ができるようになっています。このことが子どもたちの安全・安心につながっています。
- ・ 地域の人との出会いがあり、子どもたちが地域の人を知る機会が多くなりました。

みんなで育てる大月の子ども

～生きる力を持った大月っ子の育成～

大月町学校支援地域本部（大月町）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 大月小学校（全校児童数185名）
: 大月中学校（全校生徒数105名）
- 設置年度 : 平成28年度
- 運営委員会
名称 : 大月町学校支援地域本部運営委員会
委員数 : 10名
委員構成 : 校長(2)、地域コーディネーター(1)、PTA関係(1)、民生・児童委員(1)、学識経験者(1)、NPO法人(1)、教育委員会(2)、老人クラブ(1)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター1名、教育活動推進員38名、
教育活動サポーター30名、学習支援員1名
- ボランティア登録者数 : 70名
- 地域連携担当教職員 : 無（管理職が対応）
- 支援日数 : 年間約延べ400日
- 民生・児童委員の参画 : 29名
(校区内民生・児童委員29名)



<大月中学校>



<大月小学校>

■本部設置までの経緯

- 平成21年度に町内9校の小学校が統合し現在の大月小学校が開校となった。スクールバスがあるため、放課後の居場所づくりとして放課後子ども教室を立ち上げた。
- 総合学習のイベントや、環境整備、読み聞かせ等地域の方の支援をいただいていた。これらの活動の発展を考え、県からの勧めもあり、平成28年度に学校支援地域本部を設置。更なる地域連携を目指した体制をスタートさせた。

■主な支援内容

- 学習支援(1年加力学習) : 週2日(1日あたり1時間)×80回
- 地域未来塾(放課後加力) : 中学生対象
夏休み等 10日【1日2～3時間】
- 家庭科実習支援 : 裁縫実習 10日
- 夏休みプール監視 : 27日
- 環境整備 : 7月に斜面の草刈り、剪定 年3回
- 登校の見守り : 月～金 年200日
- 読み聞かせ : 全学年対象に月曜日
朝の時間帯に実施 年17日
- 地域活動 : 地域との合同防災訓練、
地域の文化・自然学習 年約20日
- 行事支援 : 大月小フェス、体育祭等 年約20日

大月小・中学校と地域とのつながり



平成13年4月1日 大月町内5中学校が統合して、大月町立大月中学校として開校



平成20年3月25日 大月町要保護児童対策地域協議会設置（町民福祉課担当）

毎年、年に1回以上代表者会と実務者会を開き、要保護児童に関してケース検討を行い関係機関を集めて、不登校・家庭での療養環境について協議をしている。

町民福祉課、教育委員会、保健介護課、人権擁護委員、大月町社会福祉協議会、民生・児童委員、少年育成センター、幡多児童相談所、幡多福祉事務所、宿毛警察署、西部教育事務所、大月小学校、大月中学校 その他関係学校関係者



平成21年4月1日 大月町内9小学校が統合して、大月町立大月小学校として開校。

遠方からスクールバス通学する児童のため、放課後の安全な居場所が必要となる。放課後子ども教室実行委員会に委託をして、各地区民生・児童委員や、教員OB・役場OB、婦人会等のメンバー20数名で小学校の多目的教室、体育館を使用して放課後子ども教室を立ち上げる。現在も民生・児童委員数名が加入している。



平成22年2月から大月町社会福祉協議会が旧弘見小学校を再利用し、総合的福祉施設（ほっとセンター）運用開始。高齢者や児童生徒の憩いの場として活用されている。

平成28年度から、民生・児童委員婦人部による夏休み民ちゃん食堂（子ども食堂）を開始。

■自然豊かな大月町

大月町は統合前から、開かれた学校づくりが盛んで、子ども達はNPO法人黒潮実感センターの皆さんや、黒潮生物研究所、遍路先達の山下正樹さん等たくさんの人たちに支えられ、柏島や西泊の海、大浦のへんろ道等の自然に囲まれ、生きる力を身に付けていけるよう様々な体験をしています。



<西泊地区・海の生き物観察>



<大浦地区・遍路札かけ>



<柏島地区・アサギマダラマーキング>

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・開かれた学校づくり推進委員会（年3回）
 - ・学校支援地域本部協議会（年3回）
- 年間計画や学校全体の状況については説明しているが、課題等についての具体的な状況については共有できていない。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・学校支援地域本部運営委員会に民生・児童委員が1名、放課後子ども教室にも数名入っている。
- ・年に1回ずつ（大月小・大月中）民生・児童委員全員による学校訪問を実施。



課題に対する取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- 5月：学校の状況（特色や課題等）を確認
6月：開かれた学校づくり推進委員会や学校支援地域本部協議会等に民生・児童委員や主任児童委員を加え、地域学校協働本部の目的に沿って組織を整理し、「地域学校協働委員会／協議会」への移行準備
8月：学校支援地域本部協議会等で以下を承認
- ・活動種別毎の班編成（5班体制、支援・協働班を設け見守り機能強化）
 - ・子どもの見守り体制の再確認
- 10月：開かれた学校づくり推進委員会や学校支援地域本部協議会等を開催し、地域学校協働本部の目的等を説明し、研修会を開催する。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- 5月：社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、市町村の福祉課（要対協の事務局）等に地域学校協働本部の取組を説明し、協力を依頼。民生委員児童委員協議会の定例会に時間をいただき、ボランティア登録の依頼をする。
6月：保育所長、小学校長、中学校長が民生・児童委員の定例会に参加し、それぞれの学校経営計画を伝え、児童生徒の様子について情報交換を行う。
7～8月
：民生・児童委員による夏休み民ちゃん食堂での児童生徒の様子の情報を収集する。
12月：民生・児童委員が中学校・小学校を訪問し授業視察をした後、各校の校長より児童生徒の様子を伝え、情報共有を行う。
※必要に応じて、学校と民生・児童委員で情報共有を行う。

◎要対協の個別ケース検討会議は、以前から学校と民生・児童委員が参画している

◎主な研修内容 子どもたちとの関わり、いじめの定義、個人情報の取扱い、情報共有の仕組み等



取組後の状況

□学校と地域との定期的な協議の場

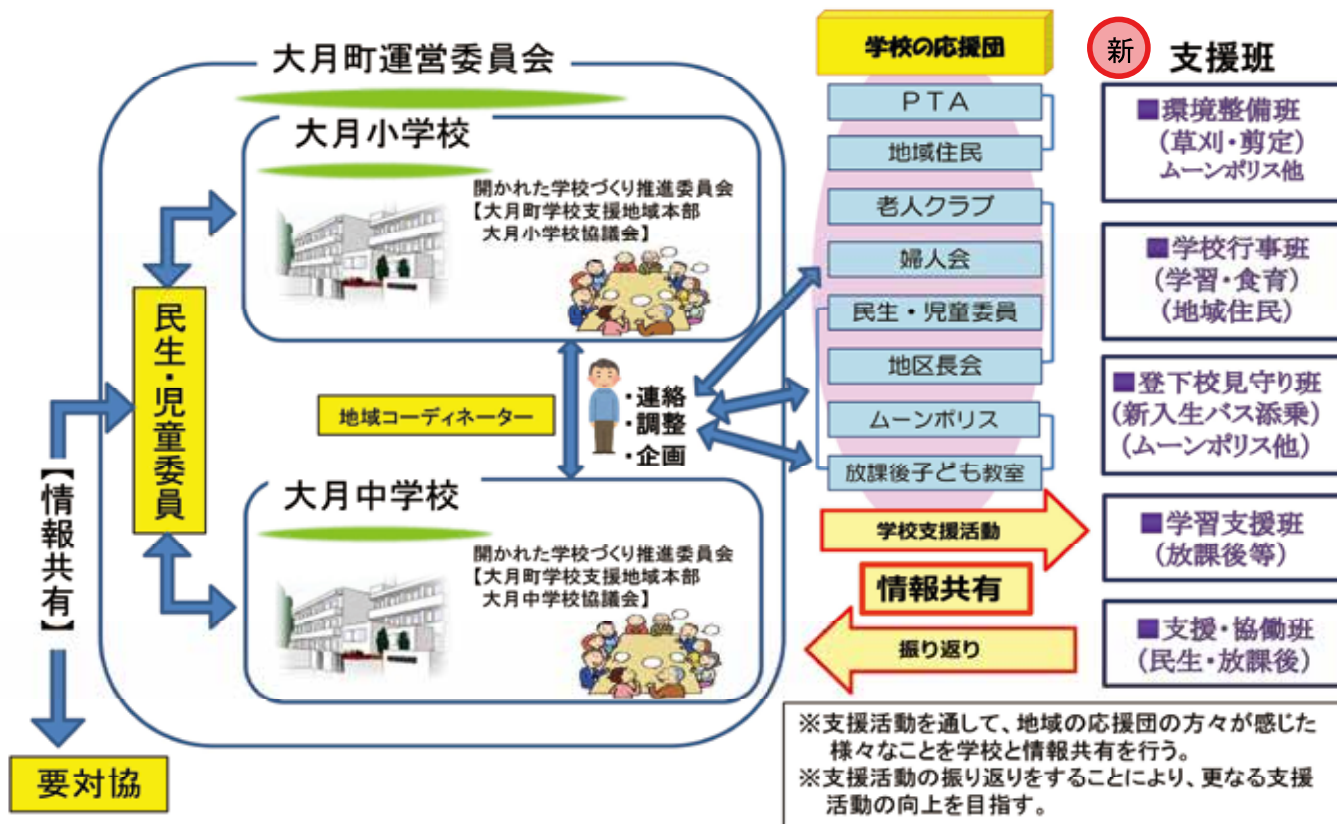
- ・地域の方々が学校の実情や子どもたちの状況等を知ったことにより、学校が支援してほしいことに対してより協力してくれた。
- ・学校では把握できていなかった子どもたちの情報を得るとともに、学校での児童への対応のヒントを得ることができた。
- ・学校と地域との連携・協働体制が整ってきた。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・民生・児童委員が行っている民ちゃん食堂やホットセンターでのイベント等で、参加する児童生徒の様子や気になる点等があれば、学校や教育委員会に情報提供してもらう。
- ・学校での把握が難しい厳しい環境にある子どもの情報や、学校以外での様子等を知ることができた。

■特色ある取組 ～運営の仕組み～

大月町学校支援地域本部図



■地域コーディネーターの活動

・年間行事予定表を見ながら、当月分の予定や計画・要望について地域連携担当者（管理職）や担任と打合せを行う。活動が終了した後は、振り返りを行い協力者との打合せや反省点等を話し合い、教育委員会に報告、新たなボランティア確保等にも努めている。

(例) 地域コーディネーターのある一日

- 8：30～ 地域連携担当者・担任との打合せ（目標・要望・日時・支援員数等の確認）
- 9：00～ 1年生の学習支援
- 13：00～ 教育委員会での学校支援事務、学校の要望を教育委員会に伝え、人員の確保・連絡
- 15：00～ 教育委員会において支払事務、広報事務、連絡調整
- 17：00 終了



【活動場所】

大月小学校において、担当教員との打合せを行う。学校の要望を聞き地域と教育委員会に連絡している。



【活動内容】

毎日、1日あたり約4時間活動している。地域コーディネーターの他、学習支援員も兼務しており、1日を通して子どものために活動をしている。

■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター】

パソコンが使い、子どもが好きでやる気のある方を職安で募集。現在は2年目であり、先を見通して行事に参加し、サポートをしている。

【教育活動推進員等】

放課後子ども教室のサポーターや、民生・児童委員、地区の方等高齢の方が多い。新規活動員を募集中。

【ボランティア】

ムーンポリスや地区のボランティア、民生・児童委員に声をかけている。

【講師】

NPO法人や、自営農業各方面の専門の方をお願いしている。



<研修会の様子>



<ムーンポリスの方々の草刈り風景>

【支援団体】

ムーンポリス（地域見守り隊）や地域のボランティアに依頼し、斜面の草刈り、庭木の剪定をしてもらう。

学習支援は放課後子ども教室のメンバーや民生・児童委員等に依頼。

講師としては、地域の農業従事者の方に、田植え、とうもろこし、芋さし等の協力をお願いしている。



<太刀踊りと赤太鼓の練習風景>

- 4月 小学校新1年生バス添乗見守り
- 5月 第一回 運営委員会開催
トウモロコシ植え、田植え
海辺のレストラン
- 6月 芋さし、柏島宿泊学習
- 7月 環境整備、トウモロコシ収穫
- 8月 プール監視、地域未来塾（中学校）
第二回 運営委員会開催
- 10月 文化祭郷土芸能伝承指導
遍路道札かけ、事前学習
アサギマダラの観察
- 11月 地域学習（炭焼き）、昔遊び
- 12月 ひがしやま作り
- 3月 卒業式
第三回 運営委員会
- 【その他】郷土料理作り

【講師】

郷土芸能伝承保存会の方々を招聘し、総合的な学習の時間等を使い、地域に伝わる赤太鼓や太刀踊りを学び、文化祭で披露できるように、メンバー何人かに手分けして教えてもらっている。

学校は郷土文化を生徒に教えてもらうことができ、地域の人にも新しい担い手の育成ができる。

☆企画・運営のポイント

学校の要望を聞き、できるだけ教師の負担を減らすことができるように、地域のボランティアの協力を得て学校を拠点とした学校と地域の活性化を図る。

■広報活動

- ・町広報誌掲載
- ・今後の予定のご案内
- ・ホームページ作成
- ・学校通信での行事紹介



<町広報>



<学校通信>

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

学校行事・体験学習・登下校見守り等、幅広く地域の方々に関わっていただいています。「大月の子は大月全体で育てよう！」の心のもとに、子どもたちはいつも温かく見守られています。学校だけでは学べない事や貴重な体験学習に感動し、それが子どもたちから感謝の言葉と成長という形で返ってきます。

地域と学校のつながりは、とても大切であり、価値のあるものだと感じています。

そのお手伝いできて嬉しく思います。

民生・児童委員

夏休みに民ちゃん食堂を開催しましたが、大盛況で予定人数よりたくさんのお子どもたちが来てくれました。

地域の方からお米や野菜等の寄付をいただきながら、頑張っています。

今年で2年目になりますが、安い金額に設定して、みんなが気軽に食べに来られるようにしています。学校以外での様子や気がついた点について、学校の先生にも知らせるようにしています。



<柏島宿泊学習シュノーケリング>



<民ちゃん食堂の様子>

中学校生徒

踊りを教えて下さった皆さんへ (文化祭での太刀踊り指導者に対して)

分からないところを一生懸命教えて下さりありがとうございました。

本番は、少しミスをしてしまったけど、練習したことを出せたので嬉しかったです。

産業祭での太刀踊りは皆さん、かつこ良かったです。本当に有り難うございました。(中学1年)

小学校児童

田植え、稲刈りの振り返り

ぼくは田植え、稲刈りをしてみんなと協力することが大切だと思ったし、米農家さんがいかに大変なのかが、やってみてよく分かりました。

これを毎年やっている米農家さんはすごいなあと思いました。

だから、米を食べる時は、味わってよくかんで食べようと思います。(小学5年)



<文化祭（赤太鼓）>

中学校校長

ふるさと学習や体験活動等を通じて、地域の方々から地域の素晴らしい自然や歴史、伝統、地域への熱い思いを学ぶことによって、生徒たちの郷土に対する愛着と誇りが高まっているように感じます。地域の方に講師をしていただいたり、登下校の安全指導や、環境整備をしていただいたりすることで教師の負担軽減になり、子どもと向き合う時間の確保にもなっています。



<田植え（保育園・小学校合同）>

小学校校長

子どもたちは、地域の方々とのふれあいや学習を通して、教科書だけでは学ぶことができないことを五感で感じ感謝の気持ちとともに、自然豊かな大月町への誇りと、愛着を強く持つことができているように思います。

今後も、学校、地域双方がWIN-WINの関係を築きながら、地域の活性化にも結びついていってほしいと願っています。

教育委員会

高知県版地域学校協働本部の取組を進めました。その中で、要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議への民生・児童委員参加（以前から参加）やいじめ・虐待が起きたときの対応の仕方について、改めて考えることができました。これからも、共通認識のもと「みんなで育てる大月の子ども～生きる力を持った大月っ子の育成～」を目標に進めていきたいと考えています。



<食育学習（カツオのたたきづくり）>



<月山神社訪問>



<遍路札かけ>

子どもたちの未来を地域とともに

～民生・児童委員、高知市教育シニア・ネットワーク、地域の皆さんとの協働～

五台山小学校支援地域本部（高知市）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 五台山小学校
(全校児童数90名)
- 設置年度 : 平成28年度
- 協議会
名称 : 民生・児童委員定例会
委員数 : 14名
委員構成 : 校長(1)・民生・児童委員(13)
協議会の持ち方 : 民生・児童委員定例会が、五台山ふれあいセンターにおいて、月1回行われるので、相談や依頼などの必要が生じた場合に、学校長が定例会に出席し、民生・児童委員に相談や依頼を行う。
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター1名
- ボランティア登録者数 : 15名
- 地域連携担当教職員 : 無(管理職が対応)
- 支援日数 : 年間約延べ300日
- 民生・児童委員の参画 : 13名
(校区内民生・児童委員13名)



<民生・児童委員定例会の様子>



<民生・児童委員の新入児健康診断での挨拶>

■本部設置までの経緯

五台山小学校は教職員数が少なく、いろいろな教育活動を行う際や児童の安全確保を図る際に、困難な場合があり、何とか支援の人員が必要であると考えていた。そこに、学校支援地域本部事業の紹介があり、五台山小学校の課題解決には最善の事業であると判断し、事業を行うこととした。

■主な支援内容

- 総合的な学習等支援(学期に5～6回)
 - ・春探し、秋探し(1、2年生)の場所の選定、引率補助、安全確保
 - ・サツマイモの植え付け(1、2年生)等の栽培活動の支援
 - ・校区探検(3年生)の引率補助、安全確保
 - ・田植え、稲刈り、餅つき(5、6年生)の活動支援
- 学習支援(1年を通して)
 - ・低学年を中心に学習・児童支援
- 環境整備(学期に2～3回)
 - ・美化委員会による花の苗の植え付け等の栽培活動の支援
 - ・野菜の栽培活動(5、6年生)の支援
- 登下校の見守りや児童の安全確保(1年を通して)
 - ・山越え道を登下校する児童に付き添っての安全確保
 - ・生活が心配な児童と家庭の地域での見守り
 - ・新入生の下校の付き添い(1学期を中心に)
- 郷土学習
 - ・竹の学習(4年生)の指導、活動支援

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

- 学校の教職員だけでは十分な教育活動ができない
 - ・五台山小学校には、学級担任と管理職しかおらず、校外活動や栽培活動等を行う際には人員が十分ではない。
 - ・学校の教職員だけでは、春探しや秋探しに適した場所、サツマイモや大根の栽培方法、五台山地区のよさを知る、といった活動における知識や技術が十分ではない。

- 学校の教職員だけでは十分な安全確保ができない
 - ・校区の特性上、登下校時の山越え道の安全確保、不審者対策、交通安全指導等において、学校の教職員だけでは児童の安全確保が難しい。
 - ・児童及び保護者で、家庭や地域での生活が心配される場合、学校の教職員だけでは対応しきれない場合がある。

課題に対する取組

- 学校の教職員だけでは十分な教育活動ができないため、民生・児童委員や高知市教育シニア・ネットワーク会員の方々に以下の教育活動の支援を依頼
 - ・1、2年生の春探し、秋探しに適した場所の選定や引率補助、サツマイモや大根の栽培活動の支援
 - ・3年生の校区探検の引率補助
 - ・4年生の「竹の学習」での竹を使った製作活動の支援と五台山地区の人材や歴史、地区のよさの教授
 - ・5、6年生のプランターでの野菜栽培活動、田植え、稲刈り、餅つき等の活動の支援
 - ・美化委員会の活動（花の苗の植え付け等）の支援
 - ・特に、4月から9月における民生・児童委員(サポーター)による学習・児童支援(必ず毎日民生・児童委員が学校にいるように割り当て表を作成し、授業補助や学習支援を行った。)
 - ・総合的な学習や校外学習等への協力依頼については、担任からの要望を様式に記入し、要請する。要請したことについては協力していただける体制がある。

- 学校の教職員だけでは十分な安全確保ができないため、民生・児童委員や高知市教育シニア・ネットワーク会員の方々に以下の見守り活動を依頼
 - ・山越え道を使って登下校する地区の児童に付き添って、ハチ・ヘビ・野犬等から児童を守る安全確保
 - ・校区で不審者情報があつた場合に、児童の登下校を見守る安全確保
 - ・児童の登下校時の交通安全確保
 - ・家庭で、保護者による児童に対する暴力等の不適切な対応があつた場合の、児童の安全確保のための見守りや保護者・家庭への支援
 - ・8月：民生委員会長に事業説明と挨拶
 - ・9月：民生・児童委員定例会にて県・市教委・校長とで挨拶、見守り活動協力依頼
 - ・10月：高知市教育シニア・ネットワーク全体研修(東ブロック)での見守り活動協力依頼
 - ・12月：開かれた学校づくり推進委員会での見守り活動支援依頼

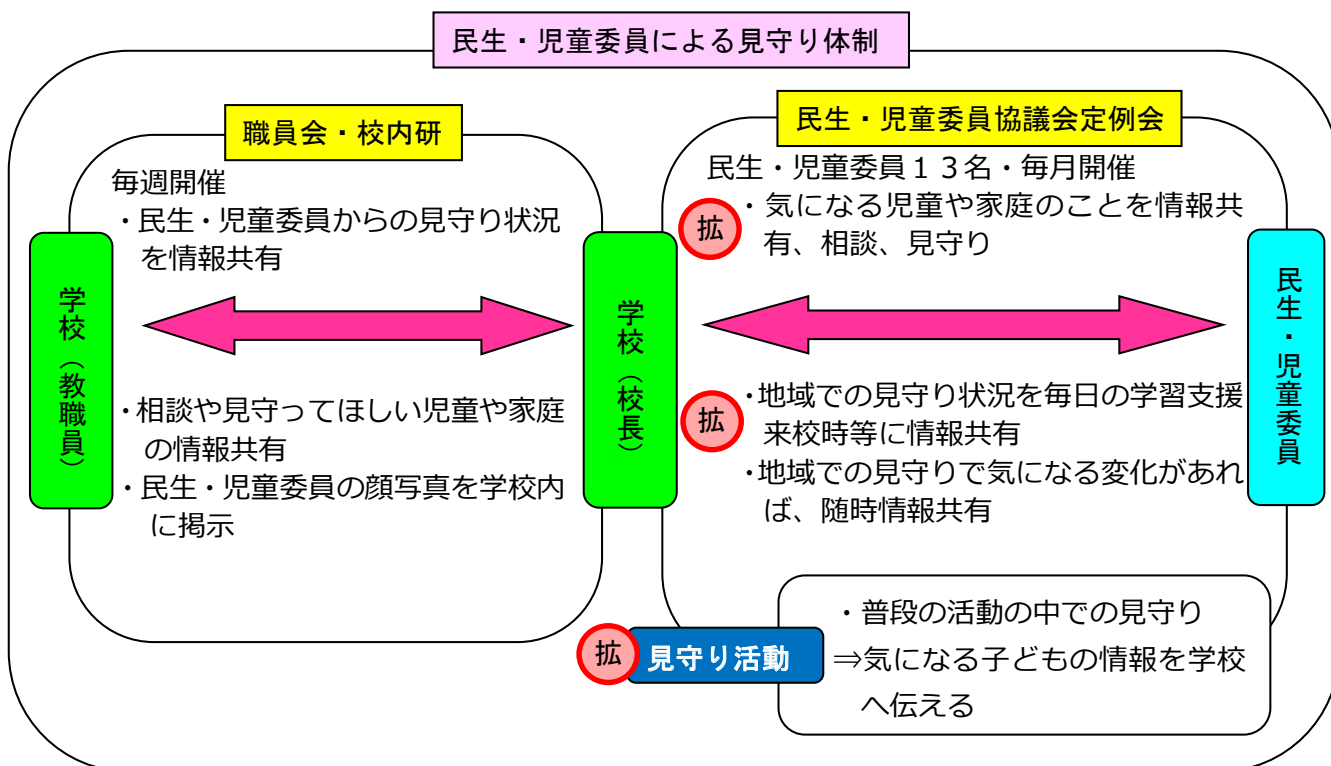
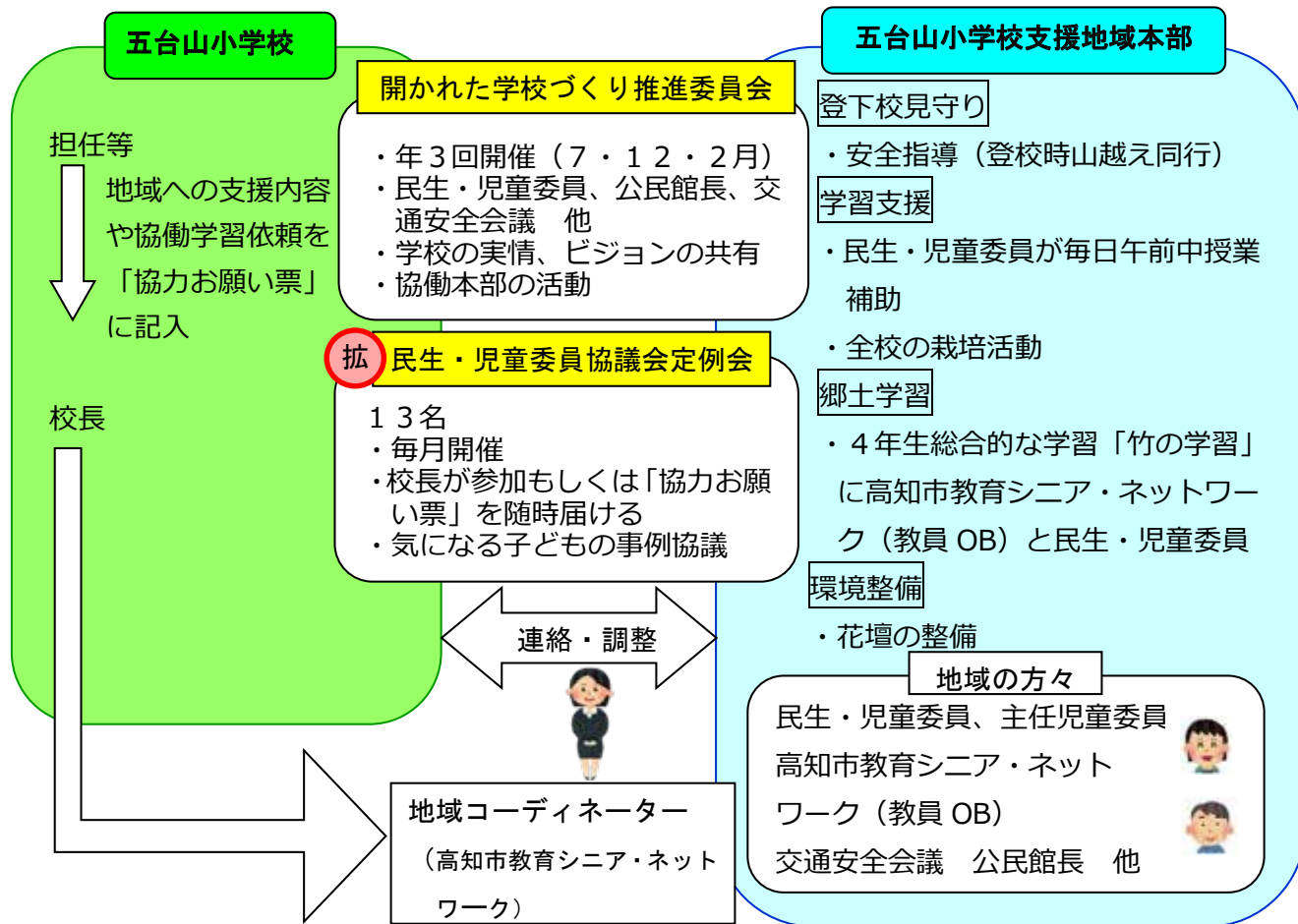
取組後の状況

- 民生・児童委員や高知市教育シニア・ネットワーク会員、地域の方々による教育活動支援
 - ・当初は、民生・児童委員の定例会に学校の教員が出席し、依頼内容を伝えるようしていたが、途中からは、民生・児童委員の方々からの申し入れもあり、依頼内容を文書で届けるようにした。文書を受け取った民生・児童委員の方々は、定例会において日程や人数調整を行い、学校の教育活動の支援を行ってくれるようになった。
 - ・4年生の月に1回行われる「竹の学習」では、竹を使った製作を行うとともに、毎回「五台山歴史コーナー」を設け、五台山地区において著名な功績を残した人物や五台山地区の歴史を紹介してくれている。
 - ・学習支援サポーターとして毎日地域の方(民生・児童委員)が関わってくださったことで、気になる児童の様子等について日常的に情報共有ができた。

- 民生・児童委員や高知市教育シニア・ネットワーク会員、地域の方々による見守り活動
 - ・地域の方が、山越え道を使って登下校する地区の児童に付き添うことで児童の安全確保ができています。また、地域の方の都合により児童への付き添いができない場合は、学校に連絡があるので学校の教員が付き添い安全確保するようになっています。
 - ・民生・児童委員が心配される家庭を見守るとともに、保護者に対して声かけをすることで保護者との信頼関係が生まれ、保護者が民生・児童委員を頼ったり、児童を民生・児童委員に預かってもらったりする関係ができ、保護者の精神的な安定につながった。

■特色ある取組～運営の仕組み～

高知市立五台山小学校



■地域コーディネーターの活動

地域コーディネーターら地域の方6名が、4年生の総合的な学習の一つとして、「竹の学習」を平成19年度から始めた。これは、五台山地区に多くある竹を使った工作をすることにより、子どもたちに山に興味をもたせる活動である。

また、竹の学習の始めには、五台山地区の歴史や五台山出身の著名な人物の話をする「五台山ミニ歴史コーナー」を設け、子どもたちが五台山の地域や五台山にゆかりのある人物に興味や関心をもてるようにしている。

また、地域コーディネーターは、学校の要望に応じて、栽培活動の支援等も行っている。



<五台山ミニ歴史コーナー>

<竹の工作>

平成29年度「竹の学習」年間計画

「 」は竹の工作、()はミニ歴史の内容

6月8日(木)(シイタケを広めた人)

「水鉄砲を作ろう」

7月13日(木)(濱口 雄幸)

「竹のけん玉で遊ぼう」

10月12日(木)(牧野 富太郎)

「竹の箸とコップ」

11月30日(木)(野中 兼山)

「里山へ行こう(森林センター)」

12月14日(木)(竹林寺)

「ムクロジで遊ぼう」

1月11日(木)

「七草粥を食べよう」

2月8日(木)

「お花炭を作ろう」



<竹の弓矢作り(里山へ行こう)> <野菜の植え付け>

■活動を支える人材確保

【民生・児童委員 13名】

- 総合的な学習等支援(学期に5~6回)
 - ・春探し、秋探し(1、2年生)
 - ・サツマイモの植え付け等の栽培活動の支援(1、2年生)
 - ・校区探検(3年生)の引率補助、安全確保
 - ・田植え、稲刈り、餅つき(5、6年生)の活動支援
- 学習支援(1年を通して)
 - ・低学年を中心に学習・児童支援
- 環境整備(学期に2~3回)
 - ・美化委員会による花の苗の植え付け等の栽培活動の支援
 - ・野菜の栽培活動(5、6年生)の支援
- 登下校の見守りと安全確保(1年を通して)
 - ・山越え道を登下校する児童に付き添っての安全確保
 - ・新入生の下校の付き添い(1学期を中心に)

【高知市教育シニア・ネットワーク会員6名】

- 総合的な学習等支援
 - ・サツマイモの植え付け等の栽培活動の支援(1、2年生)
 - ・田植え、稲刈り、餅つき(5、6年生)の活動支援
- 郷土学習「竹の学習」の支援(年間7回)
 - ・竹を使った工作
 - ・五台山ミニ歴史コーナー
- 環境整備(学期に2~3回)
 - ・美化委員会による花の苗の植え付け等の栽培活動の支援
 - ・野菜の栽培活動(5、6年生)の支援

■イベントカレンダー

- 4月 新入生の下校の付き添い
校外学習での春見つけ
- 5月 田植え
サツマイモの植え付け
校区探検
花の苗の植え付け
- 6月 野菜のプランターへの植え付け
夏野菜の支柱立て、肥料やり
- 9月 稲刈り
花の苗の植え付け
- 10月 冬野菜のプランターへの植え付け
- 11月 秋見つけ
- 12月 餅つき
- 1月 昔遊び
- 2月 花の苗の植え付け

【年間を通して】

- ・山越え児童の登下校時の安全確保
- ・竹の学習
- ・低学年を中心とした学習支援、児童支援

【校区探検】

3年生が社会科の学習で校区探検をするときに、担任1人では安全確保が難しいので、民生・児童委員の方に支援してもらっている。



<吸江地区の探検>

【山越えの登下校】

五台山の北側にある長江地区から通う児童は、五台山の山越え道を登下校している。ハチ、ヘビ、野犬などの危険があるため、地域の方が毎日登下校の付き添いをして下さっている。



<山越えの登下校>

☆企画・運営のポイント

- ・学校と地域が、互いに無理することなく、できる範囲で交流・支援を行うことが、継続する企画・運営のポイントであるとする。
- ・地域は学校を支援し、学校は地域から信頼される学校づくりに努める、といった、互いに恩恵を感じられる活動を行うことが、継続する企画・運営のポイントであるとする。
- ・日頃から地域の方とのコミュニケーション(挨拶、地域内の清掃活動)を大事にして信頼関係を構築する。

■広報活動

- ・民生・児童委員、シニア・ネットワーク会員、地域の方々の活動を学校通信に写真を添えて掲載し、学校の全家庭に配付している。
- ・学校通信を拡大し、学校の掲示板に掲示することにより、来校した保護者や地域の方々に見てもらえるようにしている。



<学校通信>



<学校通信の掲示板>

協力お願い票

平成29年4月19日

学年 担任

日 時	場 所	希望人数	協力依頼内容
4月18日(火) 15:15~16:50	1年生畑場	2人	野菜の苗の植え付けのための土作り(4月18日の朝晩(18:15~18:50)に)
4月21日(金) 9:45~11:35	2年生畑場 2年生ペラダ	2人	野菜の苗(トマト、トウモロコシ、サツマイモ)の花壇への植え付け(4月21日の2朝晩に) 野菜の苗(キュウリ、ピーマン、パプリカ)のプランターへの植え付け(4月21日の2朝晩に)

【留意事項】

○毎月10日までに、票まで提出してください。

○希望日時に協力が得られない場合は、日時の変更をお願いする場合があります。なお、変更の提案、協力を得られない場合もあります。

五台山地区民生委員児童委員協議会

会 長 横田 彰 彦

高崎市立五台山小学校

校 長 森 一 正

五台山小学校の教育活動への支援・協力をお願い

うえのことについて、下記の内容について支援・協力いただきたくお願いいたします。

記

日 時	場 所	希望人数	対象学年	協力依頼内容
4月28日(金) 10:00~11:30	牧野緑地園	2人	1、2年	校外学習の安全確保と春みつけの支援 ・牧野緑地園までの登り道の安全確保 ・子どもたちの見守り ・草花の名前や遊び方を教えてくれる

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

五台山には、学校を支援する地域の組織がいくつかあり、それぞれの組織が独自に活動しています。組織が独自に活動しているという、学校が支援を希望する内容によって依頼する組織を検討するといった手間が必要になると思われますが、実際には、支援内容によって学校が依頼する組織を選択していますので、学校と組織間のコーディネートの作業の必要はあまりありません。そのため、もっぱら学校を支援することに専念しています。

学校を支援し、学校の子どもたちと一緒に活動することは本当に楽しく、やりがいもあります。

それは、人員の高齢化という課題で、どの組織にも共通しています。課題の解決は容易ではありませんが、今後もできる限りの支援を続けていきたいと思っています。

民生・児童委員、地域の方等

春探しや校区探検といった学習の支援、花の植え付けや野菜の栽培といった環境の整備、登下校の付き添いや児童の見守りといった子どもたちの安全確保等で、学校のお手伝いをするのにやりがいを感じています。

こうした活動を続け、子どもたちや先生方と顔を合わせ話をするうちに、以前は少し入りづらかった学校にも自然と行けるようになりました。そして、顔見知りになった子どもたちや先生方から、あいさつや声かけをしてもらって、こちらも嬉しいです。

今後も、このような学校との関係を続けていきたいと考えています。

また、よく学校便りが発行されているうえに、学校の様子や子どもの活動の様子が写真等で載せられていて学校のことがよくわかります。

子どもたち

【1・2・3年生】

春の校外学習やサツマイモの植え付け等で、春の草花やお芋の植え方等、いろいろ教えてくれてありがとうございました。

【4年生】

竹の学習では、五台山のことを教えてくれたり、工作を手伝ってくれたりして、ありがとうございました。森林研修センターでの勉強も、とてもおもしろかったです。

【5・6年】

田植えや稲刈り、餅つきや野菜の栽培といういろいろなことでお世話になっています。山越えの登下校でも、毎日付き添ってくれてありがとうございました。自分たちだけでは、犬や八手が怖いけど、一緒に歩いてくれるので、安心していきます。

学校長

本校は教職員数が少なく、児童の安全を確保したり、教育的な支援を十分に行ったりすることが難しいという課題がありました。そこで、学校支援地域本部事業を活用し、地域の組織や地域の方々に支援をお願いしたところ、学校の教育活動をいろいろな場面で助けていただけようになりました。その他にも、生活が心配な児童や山越えの登下校について相談をしたところ、地域で児童と家庭の見守りや山越えの登下校の付き添い等もしてくださるようになりました。これらの支援に心から感謝しています。

これらの支援に対し、学校としては、地域から信頼される学校づくりが一番のお返しであると考えていますので、今後も、地域との良好な関係を保ちつつ、地域から信頼される学校づくりに努めていきたいです。

一人ひとりの笑顔のために

～生徒個々への支援を地域とともに～

西部中学校地域学校協働本部（高知市）

■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 西部中学校（全校生徒数529名）
- 設置年度 : 平成28年度
- 協議会
名称 : 学校ボランティア定例会（学校支援地域本部）
委員数 : 20名
委員構成 : 校長(1)・教頭(2)・地域コーディネーター(1)・PTA関係(2)・民生・児童委員(1)・地域ボランティア(13)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター1名・教育活動サポーター3名
- ボランティア登録者数 : 17名
- 地域連携担当教職員 : 無（管理職が対応）
- 支援日数 : 年間延べ400日
- 民生・児童委員の参画 : 2名（※その他校区内の民生・児童委員の協力体制あり）



<民生・児童委員との顔合わせ>



<ボランティア定例会の様子>



■本部設置までの経緯

厳しい家庭状況にある生徒や学習に意欲を持ってない等生徒指導上に課題をもっている生徒一人ひとりに寄り添い、学習支援や少しでも話し相手になれるなら何か協力したいと地域の方から声かけがあったことで学習・生徒支援を計画した。また、ここ数年学力の二極化が顕著であり、特に低学力の生徒の層が増えている。原因は様々であるが、中でも苦手意識の強い数学や英語等では最初から自分は無理と決め付けている生徒や取り掛かってはすぐにあきらめる生徒を丁寧に関わっていくことで改善が見られるとの思いで、生徒個々への支援という観点で地域の方の力を借りたいと考えた。教職員は異動して入れ替わりがあることから、地域の方々自身に学校のことや生徒のことを見て、知ってほしいという思いもあり、本部設置をし、仕組みを構築することとした。

■主な支援内容

- 学習支援(放課後加力)
 - ・週5日（1日あたり1時間程度）
全学年 放課後1時間程度
 - ・夏季休業中 加力10日間1時間30分から1時間50分(3年生は15日間)
全学年実施
- 部活動支援 クラブ支援(テニス等)
- 環境整備
 - ・校舎の床磨き、塗装等、花植え、花壇の整備
- 登校の見守り：毎日
- 地域活動
 - ・鏡川一斉清掃年2回 合同防災訓練、地域のイベント参加

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

学校に関わっていただいている各組織とは、学校全体の状況については説明しているが、日常の中の個々への支援や対応については、団体や組織で年間通して実施するのは難しい。そこで学習支援や生徒支援をどのようにしていくか、安心して学校生活を送るためには何が必要で、どうすればいいか、また、放課後学習をし、学習意欲を高める生徒を増やしていくことをどのように進めていけばいいのか検討していた。校区が広いこと等もあり、地域に様々な団体とは別に「学校の応援団」的な方たちと直接協議できる場があれば・・・と考えていた。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・厳しい家庭の状況下にいる児童生徒について民生・児童委員が校区の小学校で朝ごはんを食べさせる取組を行い、地域で育てる基礎を作ってきた。
- ・民生・児童委員の情報により学校が、関係機関に要請し、その家庭や児童・生徒について校内支援会を実施している。
- ・中学校単独で校内支援会を行うときは、生徒指導上の課題について協議する場がほとんどであるため、民生・児童委員に支援会に入ってもらうことはない。



課題に対しての取組

□学校と地域との定期的な協議の場

4月：学校の状況（特色や課題等）を確認するなか、子どもを取り巻く環境や、教育現場の現状や学校からの支援の内容を提示する。月1回の定例会のなかで情報交換を行い、その都度、協議していく。また、参加人数を増やしていくことや学習を継続させることについても協議しながら進めていく。

5月：学校内の様子や生徒の授業参観をしていただき、知ってもらうことにした。その後、地域での気になる様子等について協議した。

9月：子どもの発達における特性や課題について情報共有をし、子どもと接する際の注意点等について学習した。



□民生・児童委員の参画による見守り体制

民生委員児童委員協議会が小学校に積極的に関わっている。厳しい家庭状況の生徒を地域で育てていく取組に学校とどのような関わりや協力があるかを協議する。また、学校と連携し、地域の中で気になる家庭についての支援を随時行っているが、小学校での関わりを中学校に引き継げる体制を構築する。対応の必要な状況が出てきた際には、情報交換をして、ケース会を計画して各関係機関に要請するなど支援体制をつくる。

主任児童委員が活動の中で気になる生徒に何となく接触してくれたり、関わってくれたりすることで生徒の様子を見守ってくれている。また、ボランティア定例会の中で日頃の経験をもとに子どもとの関わり方について助言してくれている。

9月：鴨田地区民生・児童委員会長と懇談し、校内支援会を開く際の協力を要請した。

また、何か子どものことで気になることがあれば民生・児童委員だけでなく、中学校区毎に高知市教育長が委嘱している、地区補導委員にも協力要請する体制を整えている。（市教委が4月には、地区補導委員総合全体研修会で事業説明と児童生徒に接する際の心構え等については、研修を行った。）



取組後の状況

□学校と地域との定期的な協議の場

・地域の方々が学校の実情や子どもたちの状況等を知ってくれたことにより、学校が支援してほしいことに対してより協力してくれた。

・学校と地域ボランティアの関わりが密になり、子どもを大切にすることを地域と学校が一緒になって取り組んでいる。また、子どもたちや家庭への対応のヒントを得ることができた。

・学校と地域との連携・協働体制が整ってきた。

・ボランティア同士で悩みを解決したり、自身の子育ての日頃の悩みを打ち明けたりして横のつながりもできつつある。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

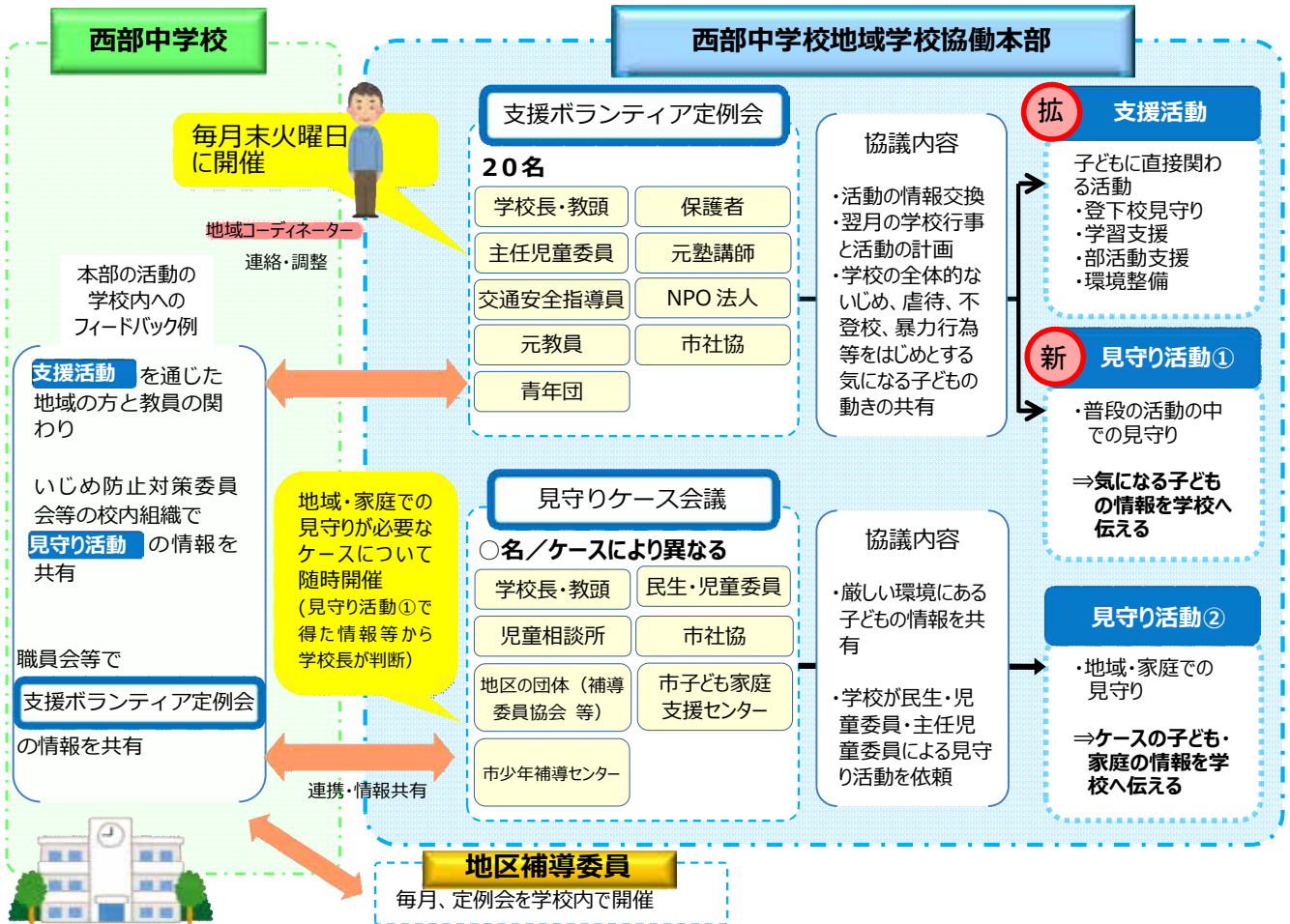
・民生・児童委員が厳しい環境にある家庭を訪ねて、親子に対して声かけや見守りをしたことで、保護者の精神的な安定や子どもたちの安心感につながった。

・学校では把握できていない厳しい環境にある子どもの家庭での頑張りや状況を知ることができたので、子ども理解が深まり、対応につなげることができた。

・見守り体制についてこの機会に仕組み等も見直した。地区補導委員の力も借りながら、子どもたちの健全育成と安心・安全な見守り体制を更に強化していきたい。

■特色ある取組～運営の仕組み～

高知市立西部中学校 ～「地域に愛され地域と共に創る学校」に向けた取組～



■地域コーディネーターの活動

支援活動内容を確認していく中で、地域連携担当教員との連絡調整を行う。活動が終了した後は、振り返りを行い、次への活動の修正ポイントとしている。また普段から、日々の放課後学習支援にも関わる等して生徒理解にも努めていただき、情報共有を行っている。また、ボランティア確保等に努めている。

(例)地域コーディネーターのある一日

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 14:00～ | 地域連携担当教員との打合せ（目標・要望・日時・支援員数等の確認） |
| 14:40～ | ボランティアの方等へのコーディネート |
| 15:00～ | ボランティアと共に環境整備 |
| 16:00～ | 学習支援員として、加力支援 |
| 17:00 | 終了 |

【活動場所】

学校支援地域本部では、地域コーディネーターの机が、職員室に配置されており、地域連携担当教員や管理職の先生等、学校との打合せもスムーズに進んでいる。



<学校支援地域本部室>



<学習支援>

【活動内容】

週5回、1回あたり約1時間活動している。地域コーディネーターの他、学習支援員も兼務しており、加力指導に参加して学習支援を行っている。

■活動を支える人材確保

【地域コーディネーター（教員OB）】

【学校支援ボランティア】

- ・学習支援ボランティア
- ・環境整備支援ボランティア
- ・生徒支援ボランティア

○部会に分けるのではなく、個人として「学校ボランティア」として登録している方で「やれるときに、やれる人が、やれることを」を活動のモットーとしており、学校と定期的に協議しながら活動内容を決定し、実施している。

○現保護者も学校ボランティア登録しており、「地域の大人」として学校をサポートしている。

○社会福祉協議会のメンバーも定例会等には参加しており、地域の活動と結びつけてコーディネートしてくれており、活動も人脈も広がりを見せている。

○学習支援ボランティアとして数名の方が、放課後の加力学習にほぼ毎日顔を出してくれている。その際、生徒一人ひとりの力に沿って声をかけてくださり、気になる様子については学校にも情報をくださるので生徒に関する情報共有ができ、生徒理解に役立っている。

○大げさなことではなく、日頃の活動の中で生徒に声をかけてくださる方々ばかりで、生徒も構えることなく、地域の方との関わりを当たり前を受け取っている。



＜ボランティアによる
校内視察の様子＞



＜定例会の様子＞

■イベントカレンダー

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 第1回定例会開催 |
| 5月 | 第2回定例会開催
放課後加力学習 開始 |
| 6月 | 第3回定例会開催 |
| 7月 | 地域清掃活動（鏡川河川一斉清掃）
夏休み加力学習 |
| 8月 | 夏休み加力学習 |
| 9月 | 体育祭、第4回定例会開催
中学校説明会（鴨田小、神田小） |
| 10月 | 文化発表会、第5回定例会開催
テニスボール加工作業 |
| 11月 | テニスボール加工作業
第6回定例会開催
チューリップ球根、花植え |
| 12月 | 冬休み加力学習 |
| 1月 | 入試面接練習、第7回定例会開催 |
| 2月 | 入試面接練習、第8回定例会開催 |

【その他】

- ・毎朝、校区において交通安全見守り
- ・地域イベント参加

【環境整備】

授業等で班活動を多く取り入れているので、机・椅子を動かす場面がある。その際、大きな音が出るので生徒が落ち着いて学習するために消音させるには大きな効果がある。それに使用する5000個ものテニスボールの加工作業を支援していただいた。



＜ボールをとりつけた
机と椅子＞

【環境づくり】

生徒（園芸部）と一緒に放課後の時間を使って、チューリップの球根と、パンジーの花植えを行った。

入学式にチューリップやパンジーの色鮮やかな花で新入生を迎えたい。



＜花植えの様子＞

☆企画・運営のポイント

平成28年度に本部を立ち上げ、地域とともに学校づくりを推進している。毎月第4火曜日に「学校ボランティア定例会」を開催することで、定期的に地域の方と子どものことや学校行事等への支援協力について直接顔を合わせて行うことは効果的だと感じている。また、お互いにお互いを知ることは、学校・家庭・地域が協働するための第一歩であると考えている。

■広報活動

- ・学校通信の中で「学校支援地域本部事業」での活動の様子について掲載し、保護者にも知らせている。
- ・ボランティアの方たちが自分の身の周りの生活の中でも「学校支援本部事業」の活動について友人に話したり、仕事の中で紹介したりしてくれていることからクチコミでボランティアの輪が広がっている。



<学校通信>

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

西部中学校の学校ボランティアに登録していただいている方は、子どもを理解していこうとする支援者(ボランティア)の方ばかりで取組がよい方向に向かっていると感じています。また、子どもたちに、気軽に話しかけ大切に接していると感じています。このようなボランティアの方を増やしていけたらと思います。

夏に行われた県の研修に参加していましたが、その中でも学校と地域が協働していくことの大切さが話されていました。活動内容も工夫して我々も活動していけたらと思います。



ボランティアの方

- ・学校の状況や学校での子どもたちの状況も、見学と一緒に生活する中で見えてきました。
- ・私が、生徒さんたちに学習支援をすることで、受け入れてもらえるかとの不安がありましたが、「また、教えてね」「明日も来てくれる」とかの声をかけてもらい、やりがいを感じ、この出会いを大切にしていきたいと思いました。
- ・大きく目立った活動はできていなくてこのままでいいのだろうかと少し悩んでいたけれど、同じボランティアの方から「見守っている大人がいることが大事なのでは?できることでもいいのではないか?」と声をかけてもらい、自分のやることで協力していこうと思いました。



子どもたち

- ・数学で分からないところを丁寧に優しく教えてもらって、分かりやすく、話も聴いてくれて、すごく良かったです。とても楽しいです。毎日したいなと思いました。
- ・励ましてもらいながら学習ができました。やる気ができて、力がついてきているように思います。
- ・「先生」とは違うけど、「地域の先生」みたいな感じで話しやすいです。

学校長

地域の方が、生徒の力に何とかなりたいと思ってくださっていて、できることはやりたいとの気持ちを持っている方がボランティアとして集まってくれて、子どもたちにとっては本当に幸せなことと感じています。たくさんの方からの支援を受ける中で、教員以外の大人たちの関わりは、子どもたちの成長に大きな影響を与えていると実感しています。

また、以前から、地域の見守り体制ができていて、厳しい環境にある家庭や、気になることについては学校に来てくださった時に、情報を共有し、協力して地域で子どもを育てています。学校ボランティアとして地域の方々には地道に声をかけてくださったり、学習支援してくださったり、また、生徒支援で関わってくださることで一人ひとりの個々への支援がいきわたるようになって、落ち着いた学校生活が送れており、学校として大変大きな力となっていて、感謝しております。

高知県版地域学校協働本部の取組

(P 59~69)

○赤岡小学校区学校支援地域本部（香南市）	59
○物部地域学校協働本部（香美市）	64

みんなが高まる赤岡

～大人も子どもも高まる地域づくり～

赤岡小学校区学校支援地域本部（香南市）



■基本データ（平成29年度）

- 対象学校名 : 赤岡小学校（全校児童数93名）
- 設置年度 : 平成24年度
- 協議会
名称 : 学校支援地域本部運営委員会
委員数 : 13名
委員構成 : 校長(1)・教頭(1)・研究主任(1)・地域連携担当教員(1)・
地域コーディネーター(4)〈うち民生・児童委員(3)〉・PTA関係
(1)・地域ボランティア(2)・教育行政(2)
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター4名、教育活動推進員11名、学習支援員1名
- ボランティア登録者数 : 250名
- 地域連携担当教職員 : 有
- 支援日数 : 年間延べ446日
- 民生・児童委員の参画 : 16名
(校区内民生・児童委員16名)



〈避難訓練の様子〉



〈民生・児童委員と顔合わせ〉 〈情報交換会の様子〉

■本部設置までの経緯

- ・平成21・22年度に「目指せ！教育先進校応援事業」の県指定を受け、ボランティアによる子どもたちのプリントの丸付けを始め、指定終了後も継続。
- ・平成24年度に、地域ぐるみで子どもたちを育て、学校が地域の人々のコミュニケーションの場になり、地域の活性化にもつなげるというねらいのもと、「学校支援地域本部事業」の指定を受け、ボランティア組織「黒潮の子ども応援隊」を結成。

■主な支援内容

- 学習支援：
 - ・学習タイム 月～木（1日あたり15分）全学年算数
 - ・もくもくタイム（放課後加力） 火・水・木（各1時間）全学年算数
 - ・算数教室 月・水曜日
- 書写指導支援：ボランティアによる指導
- 環境整備：8・11月に、児童と共に行う不定期に花壇の手入れ等
- 登校の見守り：毎週月曜日
- 読み聞かせ：全学年対象に年間3回 朝の時間帯に実施1・2年生
- 地域学習：地域との合同防災訓練、地域学習全学年消防団による消火訓練等の少年防災クラブへの指導

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・学校（教職員）と地域（ボランティア）をつなぐ必要がある。
- ・開かれた学校づくり推進委員会（年2回）
- ・教職員の異動によって、地域ボランティアの事業に対する温度差がある。
- ・学校と地域をつなぐ地域連携担当教員の位置づけが必要である。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・学校支援地域本部運営委員会に民生・児童委員が3名入っている。
- ・厳しい環境にある子どもたちや支援を要する子どもたちへの関わりが必要である。

課題に対しての取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・平成22年度から地域協働の学校経営に取り組む。
- ・平成24年度から学校支援地域本部事業を開始し、学校支援地域本部運営委員会に民生・児童委員（主任児童委員）を加えて、組織を整理。校務分掌に地域連携担当教員を位置づけ、学校と地域をつなぐ企画や地域コーディネーターとの連絡調整を行う体制をつくる。
- ・平成25年度から幹事会、平成26年度から支援・協働班会を毎月1回実施。年間計画等は学校支援地域本部運営委員会で説明し、具体的な内容は幹事会や支援・協働班会で説明。
- ・平成27年度に新たな方向性（コミュニティ・スクール）の準備。
- ・平成28年度から年度初めの組織職員会にボランティア代表が参加して目標等を共有し、地域と協働した学校経営を推進。
- ・平成28・29年度にコミュニティ・スクール導入の指定を受け、学校運営協議会の立ち上げに向け準備。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・地域の民生・児童委員全員が黒潮の子ども応援隊員となり、活動や見守りを通して子どもたちを支援。
- ・平成25年度に黒潮の子ども応援隊の4つの隊の代表で取組に向けた細かい打合せをする幹事会を設置。
- ・平成26年度に課題であった厳しい環境にある子どもたちを支援していくために民生・児童委員による支援・協働班を設置。
- ・毎月の幹事会、支援・協働班会では民生・児童委員と管理職で、取組状況や厳しい環境にある子どもたちや家庭の情報を共有。
- ・学校支援地域本部運営委員会や幹事会で方向性等を共有。
- ・民生委員児童委員協議会等関係機関へ協働本部及びコミュニティ・スクールについて説明。

取組後の状況

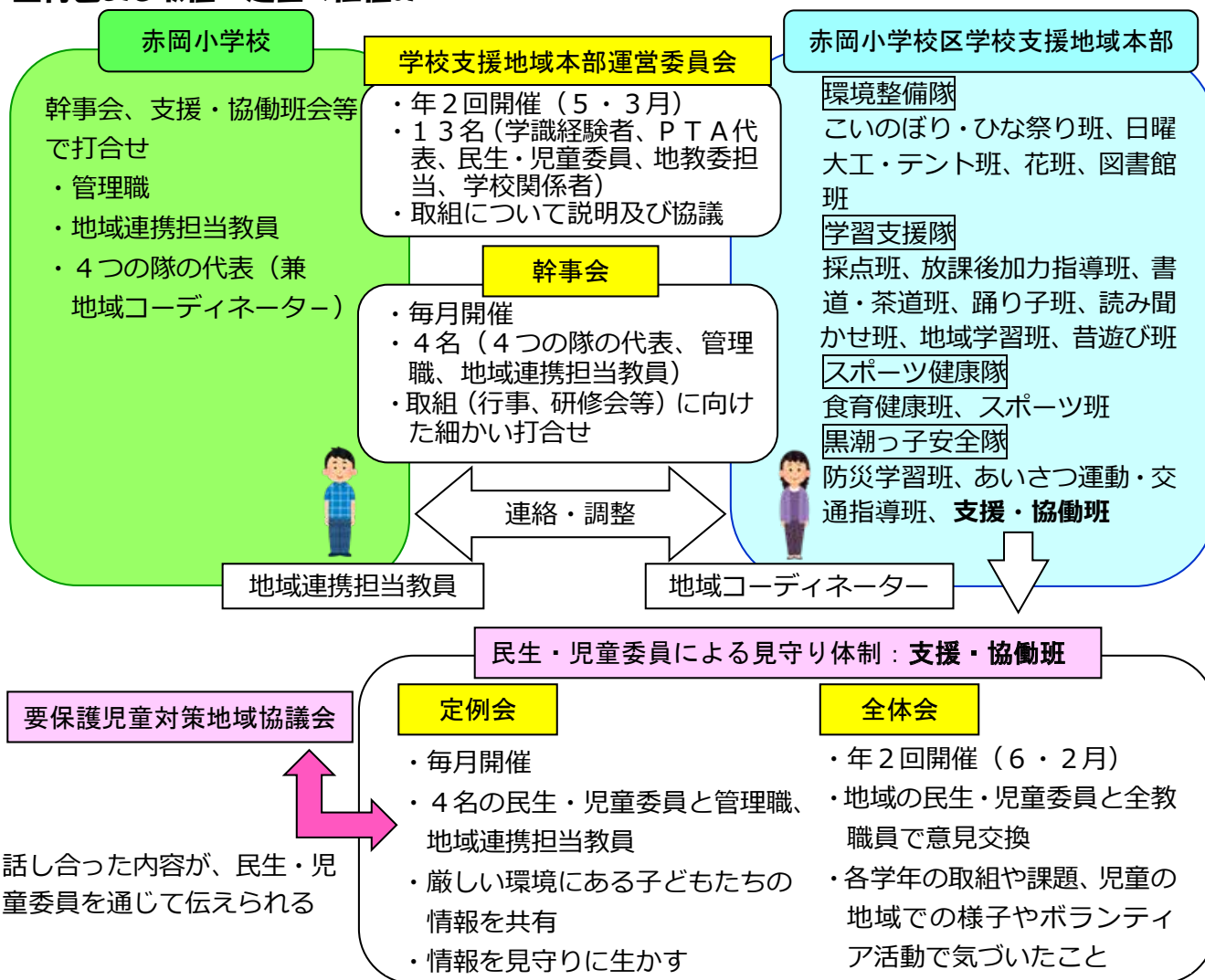
□学校と地域との定期的な協議の場

- ・地域の方々が学校の実情や子どもたちの状況等を知ったことにより、学校が支援してほしいことに対して、より協力してくれるようになった。
- ・学校では把握できていなかった子どもたちの情報を得るとともに、子どもたちや家庭への対応のヒントを得ることができた。
- ・地域連携担当教員が、管理職の指示のもと主体となり、学校と地域との連携・協働体制を構築できた。
- ・異動してきた教職員に、地域との連携・協働意識が浸透しやすくなった。
- ・今後の方向性が明確になり、新たな舵取りができています。

□民生・児童委員の参画による見守り体制

- ・支援・協働班（民生・児童委員）が厳しい環境にある家庭を訪ねて、親子に対して声かけや見守りをしたことで、保護者の精神的な安定や子どもたちの安心感につながった。
- ・学校では把握できていない厳しい環境にある子どもの家庭での頑張りや状況を知ることができたので、子ども理解が深まり、対応につなげることができた。
- ・支援・協働班で話し合われたことが、場合によっては、要保護児童対策地域協議会にも情報共有されるようになった。

■特色ある取組～運営の仕組み～



■地域コーディネーターの活動

- ・支援活動内容企画書を作成し、地域連携担当教員と用紙を見ながら打合せを行う。活動が終了した後は、振り返りを行い次への活動の修正ポイントとしている。また普段から、本部発行『あかっぴー』や学校だより等を配布し、学校の様子、ボランティア活動の様子の周知・啓発をしている。

(例)地域コーディネーターのある一日

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 13:00 | 地域連携担当教員との打合せ
(目標・要望・日時・支援員数等の確認) |
| 14:30 | ボランティアの方等へのコーディネート |
| 15:00 | 学習支援員として、算数教室に参加 |
| 16:00 | 月1回実施の朝食づくり教室の準備 |

【活動場所】

赤岡小学校の学校支援地域本部では、地域コーディネーターの部屋が配置されており、地域連携担当教員や管理職等、学校との打合せもスムーズに進みます。



<あかっぴーひろば>



<算数教室>

【活動内容】

ボランティアさんの要望で定期的な活動を位置付けていない。必要に応じて会の開催をしている。

■活動を支える人材確保

【ボランティア】

校長が地域へ出向き、家庭訪問をする中で学校経営について理解してもらい、地域協働の取組のためにボランティア活動を依頼してきた。20軒程度家庭訪問を行った。そこからは、地域と地域が繋がり、点から線、線から面と広がっていった。地域の人は、学校が大好きである。

【地域コーディネーター】

ボランティア活動を充実してくれた民生・児童委員を地域コーディネーターとして依頼した。

【教育活動推進員等】

学習支援に取り組む放課後加力指導については、教員免許所有の方が、個別指導に当たっている。依頼は、広くアンテナを張り、対象者を探した。



<幹事会の様子>

■黒潮の子ども応援隊の活動(4つの隊・16の班を編制)

□環境整備隊

- ・こいのぼり・ひな祭り班
- ・日曜大工・テント班
- ・花班
- ・図書館班

【こいのぼり・ひな祭り班】

児童、教職員、PTA 及びボランティアが協働して組み立てや竿立てを行い、日本の文化を学ぶ場の設定をしている。



<竿立て>

□学習支援隊

- ・採点班
- ・放課後加力指導班
- ・書道・茶道班
- ・踊り子班
- ・読み聞かせ班
- ・地域学習班
- ・昔遊び班



<学習タイム>

【学習タイム】

採点班の方々が、5時間目の前に取り組んでいる基礎学力の定着のための学習タイム。丸付けを協働することで、教師の負担が減り、個別指導に取り組むことができる。

□スポーツ健康隊

- ・食育健康班
- ・スポーツ班

【全校一斉朝食づくり】

児童が一年間学んできた食育について、朝食づくりで自立に向け取り組むことができた。



<朝食づくり>

□黒潮っ子安全隊

- ・防災学習班
- ・あいさつ運動・交通指導班
- ・支援・協働班

☆企画・運営のポイント

- 時間で縛らない。
- 無理な企画をしない。
- ボランティアの方には、無理なく！できる時に！できる範囲で！できることを！を合言葉に。

■広報活動



- ・おたより配布
- ・ポスター作成
- ・ホームページ作成



<ポスター>



<本部便り>

■ボイス(各関係者からご意見を集めました)

地域コーディネーター

支援者(ボランティア)の確保が難しいと思っていましたが、家々を回って事業理解を促したり、通信を校区全戸配布し、ポスターを貼って取組を周知したりする中で、地域の方々は、学校のことが気がりという方が多く、あっという間に人数が増えてきました。今では、支援者の方から、休日等に子どもたちに会っても、気軽に話しかけてくれるようになったことを聞くようになりました。

小さな駄菓子屋を営み、登下校の見守りを近所でしてくださる77歳の女性が、運動会には、毎年応援に駆け付けてくれます。嬉しいことです。

子どもたち

学習タイムや算数教室で丸付けをしてくれました。放課後の算数教室に行くと、近所の方が来てくれて、声掛けをしてくれます。他にも、ボランティアさんが小学生のころの勉強や遊んだこと等も話してくれました。とても楽しいです。こんな勉強なら毎日したいなと思いました。

地域の方がたくさんほめてくれたり、地域で会った時に声をかけてくれたりして、嬉しいです。

また、丸付けの時、たまには趣味の釣りの話をしてくれることもあります。そんな雰囲気が好きです。

僕は、将来、地域の中でボランティアを試してみたいです。

民生・児童委員、地域の方等

学校の状況や学校での子どもたちの状況が分かったうえで見守りをするのができ、学校に家庭での様子も定期的に伝えることができるので、いい仕組みができたと思います。

日曜大工が趣味の私が学校に行って、具体的に何の支援をしたらよいか不安がありました。工作教室に行って、のこぎりやカンナの使い方を子どもに教えていくうちに、子どもたちとの会話が増えてきました。今後、他の学年に工作の時間の支援にも入る予定になっており、今からとても楽しみにしています。

学校長

地域の方が、学校に対して関心があっても学校に来てくれることが少なかったのが現状でした。学校でしたいことを地域コーディネーターに相談していきました。私が知らなかった特技(防災、学力向上、食育、木工等)や子どもたちを好きという地域の方が学校支援に携わってくれるようになりました。支援を受ける中で、詳しい話を子どもたちにしてくださり、食育や防災、読書等に興味を持つ子どもたちが増えてきました。

地域の見守り体制ができてきて、いろいろな面で助かっています。

地域の方々が子どもをほめたり叱ったり(指導)できるまちづくりが大切だと考えています。そのためにも地域の方々が学校に気楽に入ってきて、地域の方々のコミュニケーションの場になるよう取り組んでいます。

地域総出

～よって たかって 地域が育てる教育～

物部地域学校協働本部（香美市）

■ 基本データ（平成29年度）

- 対象園・学校名 : 大柵保育園（全園児数17名）
大柵小学校（全校児童数49名）
大柵中学校（全校生徒数24名）
- 設置年度 : 平成25年度
- 協議会
名称 : 物部地域学校協働本部（物部っ子を育てる会）
委員数 : 55名
委員構成 : 校長(2)・教頭(2)・大柵小中コミュニティ担当(2)・大柵保育園長(1)・大柵保育園主任保育士(1)・大柵小地域コーディネーター(1)・大柵中地域コーディネーター(1)・市教育委員会物部分室長(1)・市役所物部支所長(1)・教育委員(1)・民生・児童委員物部地区会長(1)・主任児童委員(1)・PTA関係(3)・大柵保育園保護者会代表(1)・社会福祉協議会(1)・物部町自治会会長(1)・副会長(1)・消防団物部方面隊長(1)・学校関係評価委員(1)・子ども会連合会(1)・物部森林組合長(1)・大柵駐在所長(1)・JA物部支所長(1)・食生活改善推進協議会物部支部長(1)・物部婦人会会長(1)・市商工会物部地区長(1)・塩の道保存会会長(1)・物部地区公民館長(1)・大柵郵便局長(1)・四国銀行大柵代理店支店長(1)・地域代表の方々
- コーディネーター等 : 地域コーディネーター 小中各1名、学習支援員 5名、
教育活動サポーター 80～100名程度
- ボランティア登録者数: 120名（年間延べ2000名）
- 地域連携担当教職員 : 有
- 支援日数 : 大柵保育園 20日、大柵小学校 年間148日、
大柵中学校 年間196日
- 民生・児童委員の参画: 3名（※その他校区内民生・児童委員25名の協力体制あり）



■ 本部設置までの経緯

- ・平成25年度に「より広く学校を支援する」ことに活動の中心を置いた、「大柵小中学校支援地域本部」を設立した。
- ・平成27年度には、地域や保護者とともに「中学校卒業までの15年間を見通した物部がめざす子どもの姿」を定め、保育園を含めた「めざす姿」の実現に向けて協働することを確認した。これを受けて、平成28年度に、保小中をより具体的に支援する「大柵保小中学校支援地域本部」を発足させた。
- ・平成29年度に「学校を支援する」ことに加えて、「特色ある物部の町づくり」を含めた「地方創生」にも取り組む組織として「物部地域学校協働本部」を設立した。

■ 主な支援内容

- 【学校行事支援】
 - 火鎮祭相撲練習
 - 湖水祭（踊り、灯籠づくり、会場設営）
 - 合同運動会（地域種目、食堂、テント）
 - 物部っ子祭り（展示、即売、食堂支援）
- 【学習活動支援】
 - 読み聞かせ（毎月小学校2回、中学校1回）
 - 学習支援：週1日（小中各約1時間/日）
 - 昔遊びの指導、地域学習の講師、授業支援
 - 郷土料理活動（準備、指導、片付け）
 - 保小中合同講演会
- 【環境整備支援】
 - 塩の道体験活動支援、防災学習支援
 - プール清掃、愛校作業、道草刈
- 【安全パトロール支援】
 - 登下校の見守り マラソン大会街頭指導

■高知県版地域学校協働本部に向けての取組

当初の課題

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・開かれた学校づくり推進委員会（平成25年度まで年2回開催）
- ・学校の教育活動についての説明や行事への参加、協力を呼びかけるにとどまり、「組織的な支援」や「協働」という形にはなっていなかった。

□充実した学校支援活動の実施

- ・学校の教職員が、それぞれの行事において、支援をしていただける方に個別に声をかけていた。毎年、同じ人が同じことを支援したり、協力をいただいたりという形でPDCAを生かした「支援の充実」を図るには至っていなかった。

課題に対する取組

□学校と地域との定期的な協議の場

- ・平成26年度に大柁小中学校支援地域本部を設置し、定例会（年1回）で具体的な支援内容を明確にした。
- ・平成27年度に大柁小中学校支援地域本部協議会を年3回に増やし、支援内容の協議及び充実を図る。
- ・平成27年度にコミュニティ・スクール設置推進委員会を発足し、協議会を年7回行って、めざす子ども像を確立した。
- ・平成28年度に大柁保小中学校支援地域本部に拡大し、支援内容の充実を図るため4つの部会を設置して、子どもの成長を育むための多様な支援を図る。
- ・平成28年度にコミュニティ・スクール設置推進委員会の協議会を年8回行って、「地域とともにある学校づくり」の体制を確立した。

□充実した学校支援活動の実施

- ・平成26年度に、学校が各教育活動においてどういう支援が必要かを明確にし、具体的支援を呼びかけるようにした。
- ・平成27年度に、学校から依頼のあった活動の支援に加えて、学校を支援するためにはどういう活動ができるか主体的な協議が行われるようになった。また、地域とともにある学校づくりの意義を明確にし、そのために活動を展開することを確認した。
- ・平成28年度に、各部会において、教育活動の支援内容が組織的、計画的に話し合われ、継続的に多様な活動を展開するようになった。また、各部長を中心としたPDCAサイクルを確立し、活動内容が充実してきた。

取組後の状況

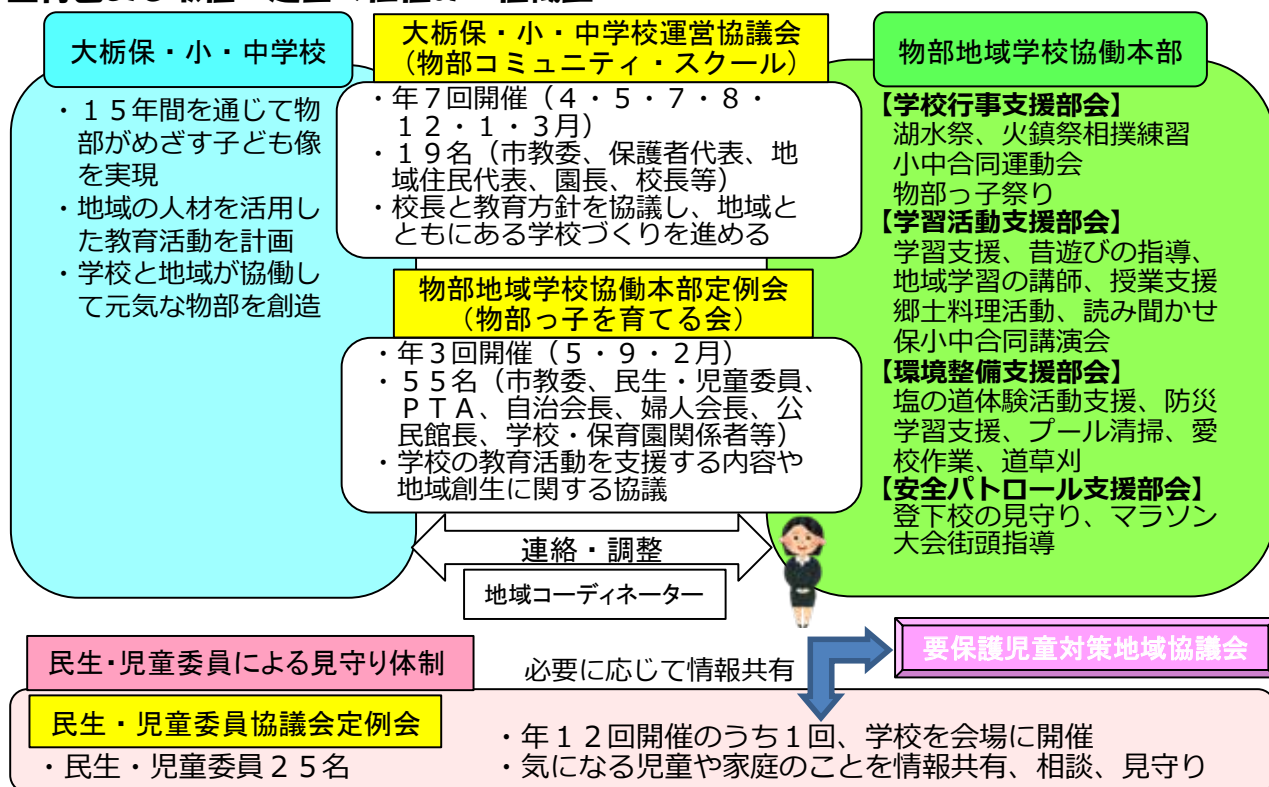
□学校と地域との定期的な協議の場

- ・平成29年度に大柁保・小・中学校運営協議会を発足し、年7回の定例会を実施して、保小中学校の教育活動をどう支援していくか、そして物部町をどう活性化していくか熟議を行っている。
- ・物部地域学校協働本部の定例会を年3回実施し、大柁保・小・中学校運営協議会での方針のもと、各部会を中心に「地域協働活動」が展開されている。
- ・物部地域学校協働本部の呼びかけに応じてたくさんのボランティア委員が参画している。

□充実した学校支援活動の実施

- ・4つの部会を中心に継続的に多様な活動が行われている。
- 【学校行事支援部会】
湖水祭りや運動会、物部っ子祭り等、地域と協働して行う行事を支援している
- 【環境整備支援部会】
愛校作業や地域清掃等の活動を支援している
- 【学習活動支援部会】
放課後学習支援、読み聞かせ、地域学習の充実を支援している
- 【安全パトロール支援部会】
交通安全指導やマラソン時における指導等をしている

■特色ある取組～運営の仕組み～組織図



■めざす姿実現のための取組 (アクションプラン)

テーマ・付けるべき力	保・小・中学校での取組	子どもの取組	家庭での取組	地域での取組
①郷土愛 地域愛をもち、物部の良さに気づき、地域に貢献することができる	○「湖水祭り」「生きがい教室」「物部っ子祭り」等の取組を保・小・中と地域との協働で定着、充実させる	○「湖水祭り」「生きがい教室」「物部っ子祭り」等に意欲的に取り組む ○地域と関わるときに積極的に質問や発言をする	○地域の行事に子どもたちと積極的に参加し、感想や思いを共有する ○地域の良さを子どもに伝える	○体験活動や地域行事を通じて、地域の良さを伝える ○地域での活動を積極的に支援する
②チャレンジ精神 主体的に何事にも挑戦し、粘り強く物事に取り組むことができる	○「総合的な学習の時間」「学校行事」及び授業の中で、「チャレンジタイム」を作る ○チャレンジに対して、肯定的評価を多くする	○失敗を恐れず、小さなことでも積極的にチャレンジする ○お互いのチャレンジを認め合い、相互評価する	○家庭での遊びや手伝い等の体験を評価する ○親も一緒にチャレンジする	○大人がチャレンジする姿を見せたり、チャレンジしている人の話をする ○チャレンジしたことを肯定的に評価する
③コミュニケーション力 生きた挨拶ができ、人の考えを聞き、自分の考えもしっかり伝えることができる	○挨拶を大切に ○授業でお互いに意見交換する場面を多く作る ○子どもが自分の気持ちや思いを全体に発表する機会を多く作る	○「挨拶」「感謝の言葉」「謝罪の言葉」を大切にする ○集会や発表会での発表を大切にする ○人の話をしっかり聞き自分の考えを人に伝える	○子どもとの対話を大切にする ○親が進んで挨拶をする	○大人が子どもに挨拶等の手本を示す ○子どもに積極的に話しかける
④自尊感情 自分や他人を大切にでき、自分自身に誇りをもつことができる	(しつける内容) ○「聴く・話す」態度、姿勢 ○場に応じた言葉づかい ○時間を守る (勇気づけのための手だて) ○感謝の気持ちを伝える ○タイムリーな評価を与える	○時間を意識して行動する ○「いいところを見つけよう」等仲間の良さを認める	○頑張りや良さを褒める ○感謝の気持ちを伝える ○家庭でのしつけやルールを決める	○子どもを褒め、感謝の気持ちを伝える ○子どもの頑張りや評価を学校に伝える ○地域で子どもの気になる言動は注意する
⑤学力向上 基礎的、基本的な知識や技能を身につけ、課題解決のために活用できる	○「大柘の授業スタンダード」の組織的な実践と質の向上をめざす ○授業においては、「めあて」の効果的な提示、「まとめ」の明確な提示、そして「振り返り」を定着させる	○話をよく聞き、わからないことがあったらそのままにしない ○宿題を忘れずにやり、時間のけじめをつけて家庭学習をする	○子どもが学習に集中できる環境 (学習時間・場所・テレビを消す、スマホのルール) を作る ○参観日や学校行事に積極的に参加し、授業参観を行う ○物部っ子生活リズム計画を意識する	○学習に関わる地域の人の協力を呼びかけ、授業や放課後学習に参加する人を増やしていく ○読み聞かせや昔遊びの実施

■ 「大柘保・小・中学校運営協議会」と「物部地域学校協働本部」との一体的取組

持続可能な組織づくり

- ・平成27年度、28年度の「コミュニティ・スクール設置推進委員会」での協議を踏まえて、平成29年度、「地域とともにある学校づくり」を推進するための組織として「大柘保・小・中学校運営協議会」（委員19名）及び「物部地域学校協働本部」（委員55名）を設立した。
- ・「大柘保・小・中学校運営協議会」で熟議し、確認した内容を「物部地域学校協働本部」が協働して取り組むという一体的促進が可能となり、「物部がめざす子どもの姿」実現のためのPDCAサイクルを確立し、「保小中」で学びを一貫させ、「地域との協働」で学びを広げ深める体制が整った。
- ・「物部地域学校協働本部」では「地域創生」を新たなテーマに加え、「学校支援」と「地域創生」を達成するための組織として①学校行事支援、②環境整備支援、③学習活動支援、④安全パトロール支援の4つの部会を設置し、各部が「多様な活動」、そして「継続的な活動」を展開している。
- ・「大柘保・小・中学校運営協議会」では、「物部がめざす子どもの姿」実現のための評価規準や「園・学校の取組」「子どもの取組」「家庭での取組」「地域での取組」をまとめた「カリキュラム・マネジメント」を確立した。

中学校卒業までの15年間を見通した「物部がめざす子どもの姿」

<テーマ> ★郷土愛 ★チャレンジ精神 ★コミュニケーション力 ★自尊感情 ★学力向上

- (1) 地域愛をもち、物部の良さに気づき、地域に貢献することができる。
- (2) 主体的に何事にも挑戦し、粘り強く物事に取り組むことができる。
- (3) 生きた挨拶ができ、人の考えを聞き、自分の考えもしっかり伝えることができる。
- (4) 自分や他人を大切にでき、自分自身に誇りを持つことができる。
- (5) 基礎的、基本的な知識や技能を身につけ、課題解決のために活用できる。

■ 地域コーディネーターの活動

- ・「支援活動内容」を作成し、管理職や地域連携担当教員と用紙を見ながら短時間で打合せを行う。活動が終了した後は振り返りを行い、次の活動の修正ポイントとしている。
- ・学校行事や学習支援等に協力してくださるボランティアの確保等に努めている。

(例) 地域コーディネーターのある一日

- 13:00～ 地域連携担当教員との打合せ
(目標・要望・日時・支援員数等の確認)
- 13:40～ ボランティアの方等への連絡
- 14:10～ ボランティアの方と打合せ
- 15:20～ ボランティアと共に、校内の環境整備
- 16:00～ 学習支援活動
- 17:00 終了

【活動場所】

各校には、「物部地域学校協働本部」が整備した「コミュニティ・ルーム」が設置されており、学校支援活動や打合せ場所、また地域の方が気軽に集える場所になっている。

また、裁縫等の作業場所として活用している。



【活動内容】

週1日、(1日あたり約3時間)活動している。地域コーディネーターは、「読み聞かせボランティア委員」も兼務しており、学習支援活動にも関わっている。支援内容を計画し、案内を配布する等活動が多様になっている。

■ 活動を支える人材の確保

【地域コーディネーター】

地域の行事・地域住民を知り、学校のために動いてくれる行動力のある方に学校がお願いし、年度末には、継続を依頼している。学校行事の時以外にも定期的に学校に来ていただき、要請に応じて学校と地域の橋渡し役をしていただいております、大変助かっています。

【ボランティア委員】

地域の子どもをよく知り、読み聞かせや学習支援、また地域で活躍していて、郷土料理教室等で関わってくださっている方を、いろんな方々に紹介していただき、ボランティア名簿に登録する等、幅広い人材の確保に努めている。



＜生きがい教室＞

■ イベントカレンダー

- 4月 春の遠足 (小)
- 5月 第一回定例会開催
プール清掃 (小・中)
- 7月 灯籠づくり (保・小・中)
七夕集会・夕涼み会 (保・小)
- 8月 湖水祭り、愛校作業 (小)
- 9月 第二回定例会開催
愛校作業 (中)
小中合同運動会
防災訓練 (小・中)
- 10月 運動会 (保)
「塩の道」学習 (小・中)
- 11月 いざなぎ舞神楽 (小)
生きがい教室 (保・小・中)
- 12月 地域清掃 (小)
物部っ子祭り (保・小・中)
- 1月 昔遊び (小)
人権参観日 (中)
- 2月 第三回定例会開催
学習発表会 (保・小)
- 3月 卒業式 (小・中)
- 【その他】 月3回 登校時見守り
月4回 学習支援

【地域創生】



＜湖水祭り＞

物部の大きな夏祭りである「湖水祭り」では保小中が一緒に「踊り・灯籠作成」等に取り組んでいる。中学生は当日の販売活動にも参画し、地域貢献活動として定着している。

物部の良さを町内外の方々に伝えるための発表会や、大柝商店街を拠点として、展示・即売を行っている。地域との協働で、元気な「物部の町づくり」を行っている。



＜物部っ子祭り＞

☆企画・運営のポイント

「大柝保・小・中学校運営協議会」で「熟議」し確認した内容に基づき、「物部地域学校協働本部」で「協働活動」を行い、園長、小中管理職、市教委、地域コーディネーターで構成する「物部の教育を考える会」で「マネジメント」することで、組織はPDCAを中心とした「持続可能な体制」になります。

■ 広報活動

七夕集会・夕涼み会や湖水祭りに向けてポスターやチラシを作成して、地域の方々に配布をしている。

他にもホームページや広報誌へも掲載して、家庭科の調理実習や環境整備活動へたくさんの方々のご協力をいただいている。



<郷土料理づくり>

<地域清掃>



■ ボイス（各関係者からのご意見を集めました）

地域コーディネーター

(小) 学校からの要請を受け、一人ひとりに声がけしながらボランティアの確保に努めています。地域の方には、大変協力的に活動に参加いただき、皆さんに助けられています。おかげでボランティアの内容が年々充実してきているように思います。

家庭科の裁縫の授業前にトラブルがあって、気が乗らない子どもに対して、ボランティアの方々が代わる代わる優しく声がけをしてくれて、その子がやる気をもつようになりました。その時、これが今学校に必要なんだと確信しました。

(中) 保小中が連携することで、園児・児童・生徒の交流が増えました。特に小学生は中学生の姿を見て、自分の未来の姿を想像しやすくなったのではないかと思います。地域との関わりも増え、自分たちが地域に見守られている安心感から、もっと自分や周りを高められる行動につながればよいと思います。

地域の方たち

行事の支援のため、小学校や中学校に出向く機会が増え喜んでいきます。子どもたちが真剣な眼差しで話を聞いたり、一生懸命に活動したりしている姿を見ていると、嬉しくなってきます。学校に行くたび、子どもたちからもらう「ありがとう」の言葉は、私たちにとって元気の薬をもらっているような気分になります。これからも学校への支援を続けていきたいと思っています。

子どもたち

(園) プールやマストを立ててくれて嬉しかったです。また、みんなで作ったお米でカレーパーティーをして楽しかったです。

(小) 地域の方が来てくださって、調理や裁縫の仕方等を教えてくださいました。皆さんとても優しく指導してくださり、「物部ツアー」や「物部っ子祭り」等楽しい思い出がたくさんできました。

(中) 地域の方のおかげで体験活動がとても充実し、いろんなことを学んでいます。学校は少ない人数ですが、ものすごく活気があるように感じています。

園長・学校長

(園) 地域の方々のご協力により、プール組みやマスト立て等の環境整備を支援していただき、子どもたちも大好きな遊びを楽しむことができます。また、畑では一年を通していろいろな作物を作っていただき、食育に大きく関わってくれています。

(小中) 子どもたちはたくさんの信頼される大人と関わることで大きく成長しています。持続可能で多様な活動により、子どもも地域も元気になることを実感します。

参考資料

(P 71～74)

- 学校支援地域本部事業状況調査票 参考例（2校抜粋） 71
- 地域との連携・協働の推進 赤岡小学校区学校支援地域本部の取組事例 73
（高知県教育委員会事務局生涯学習課作成）
- 高知県版地域学校協働本部モデル校におけるチーム学習会テーマ一覧 74

学校支援地域本部事業状況調査票

市町村名【 香南市 】

学校支援地域本部名	野市東小学校支援地域本部	設置年度	平成 28 年度
学校長	門田 満穂	児童・生徒数	265 名
地域コーディネーター (統括コーディネーター)	公文 美代子	学校教員	その他 1 主任児童委員
4月当初の学校の状況(課題は何か)	具体的な到達目標(目指す状態) ①年間2回の運営委員会、ボランティアの増員、朝学習の体制確立 ②スタートカリキュラムの実施、全学年保幼小交流活動、保幼小連携の実施 ③防災・安全教育において、防災の部分ではできてはいるが、不審者対応等の取組が不十分	設置年度	平成 28 年度
学校経営計画 記載事項	主な取組内容 ①朝学習への地域の方の参加 ②学校支援地域本部の取組の広がり	地域連携担当教員	柳川 幸彦
	取組内容の評価指標 ①朝学習への地域の方の参加を呼びかけ、年度当初15名程度のメンバーを増やそうにする。 ②学校支援地域本部の取組が広がるように、年間2回程度、町内会にもチラシを配布する。	教員OB	PTA役員関係者、活動ボランティア経験者
		行政職員	年度未検証(到達状況及び次年度に向けて)
		その他	有・無 (導入を含む)
		1学期	2学期
		3学期	3学期

ボランティア名簿	(有)・無	学校支援活動(上段日数)・(下段一日当たりの支援人数)					
ボランティア名簿登録人数	42 名	計	学習支援	地域活動	部活動指導(部活動支援)	学校周辺環境整備	その他(登下校安全特選(学校行事支援等))
年間のべ活動ボランティア数	598 名	日数	放課後	学びによるまらづくり	郷土学習(伝統芸能)	3	8
校区ごとの協議会	3 回/年 (4月、7月、3月)	人数	授業補助	その他	地域課題解決型学習	8	6
行政関係者	2 教育企画監担当者	37	5・6年家庭科実習の補助	朝の学習丸付け(月・火・木・金)	地域クリンアップ作戦	2	10
学校関係者	3 校長1教頭1教諭1	2			・地域学習や生活科の補助(芋植え、収穫、焼き芋)	・クラブ活動の補助	・愛校作業1日 ・グラウンド整備(草刈り2日)
PTA関係者	1 PTA会長						・1年生とのふれあい下校(年4日) ・交通安全教室の補助 ・持久走大会の監督 ・陸上記録会の交通指導
社会教育関係者							
学識経験者	1 元教員						
民生・児童委員(うち主任児童委員)	4 (1)						
その他							
計	11						
協議会の構成員(人)							
特記事項							

地域との連携・協働の推進

赤岡小学校区学校支援地域本部の取組事例

平成24年度に学校支援地域本部「黒潮の子ども応援隊」を設置し、学校支援活動に取り組んでいる赤岡小学校（児童数93名）では、下記の組織により幅広い活動に地域住民や保護者が参画し、地域ぐるみで子どもたちを育むため、先進的な取組も含め様々な活動を実施しています。

「黒潮の子ども応援隊」

～ 延べ388名（実人員231名）のボランティア組織 ～ ※H28.10月現在

学習支援隊

◆採点班 38名

- ・昼の学習タイム
- ・算数教室、夏休み算数教室

【学校診断アンケート】 H23 H27
算数の勉強は好きだ 73.8% → 86.5%

◆読み聞かせ班 26名

【学校診断アンケート】 H23 H27
本を読むことは好きだ 80.3% → 94.4%

◆地域学習班 53名

◆昔遊び班 67名

◆踊り子班 7名

- ・伝統芸能「どろめ網曳唄」の指導

◆書道・茶道班 4名

◆放課後加力学習班 9名

- ・支援の必要な児童への算数の個別指導

環境整備隊

◆こいのぼり・ひなまつり班 17名

◆日曜大工班 17名

◆図書館班 5名

◆花壇・花畑班 4名

- ・子どもたちが気持ちよく学校生活を送れるように、幅広く環境の整備を実施

スポーツ健康隊

◆食育健康班 33名

◆スポーツ班 5名

- ・行事、一日先生、食に関する学習や体力向上に向けた取組等のお手伝い

黒潮っ子安全隊

◆防災学習班 38名

◆あいさつ運動

◆交通指導班 61名

◆支援・協働班 4名

- ・防災学習や少年防災クラブの活動

- ・交通安全の見守りとあいさつ運動

- ・民生・児童委員と協働した子育て家庭の相談支援活動等

民生・児童委員との連携

～ 課題のある子どもたちを「支える」機能の強化 ～

黒潮っ子安全隊 【支援・協働班】

- 地域の中で、厳しい環境にある子どもたちを支援していくために、平成27年度に新設。
- 民生・児童委員が隊員となり、教員と情報を共有しながら子育て家庭の相談支援活動にあたる。
- 毎月、定例会を開き、学校側から気になる子どもの様子を聞き、隊員からも家庭の状況等を伝え合う。
- 年2回の民生・児童委員と教職員との情報交換会で連携の基盤をつくり、課題を共通認識し、地域・学校が協働した支援につなげている。

黒潮の子ども応援隊では、地域の民生・児童委員全員が隊員になり活動しているが、中でも4名の方に学校からお願いし、特別な任務として活動していただいている



民生・児童委員との話し合い



支援・協働班の話し合い

- ◆この班で話し合われたことが、地域の「要保護児童対策地域協議会」にも情報共有される等、連携協働体制が構築されている。
- ◆学校や教職員は、家庭内の問題には入っていけないが、家庭内の諸問題が子どもの学習や生活課題として表れてくることが往々にしてあり、民生・児童委員が、課題解決に向けたパイプ役となってくれている。

高知県版地域学校協働本部モデル校におけるチーム学習会テーマ一覧

地域学校協働活動において、子どもたちを見守り・育む体制づくりを進めるにあたり、関わる関係者が個人情報の取扱いや具体的な見守り活動の進め方、学校への情報提供の手順等について、共通理解をもって取り組むことが大切です。

高知県版地域学校協働本部モデル校では、下記の目的を確認したうえで、テーマを設定し、チーム学習会を実施しています。

目的：児童生徒理解等をテーマとした学習や個人情報の取扱い、学校への情報提供の仕組み等を繰り返して学び、意見交換する機会を設けることにより、子どもたちとの関わりへの気づきを深め、実践力の向上につなげるとともに、チームづくりを図っていくことを通して、子どもたちへの支援の充実や見守り機能を強化する

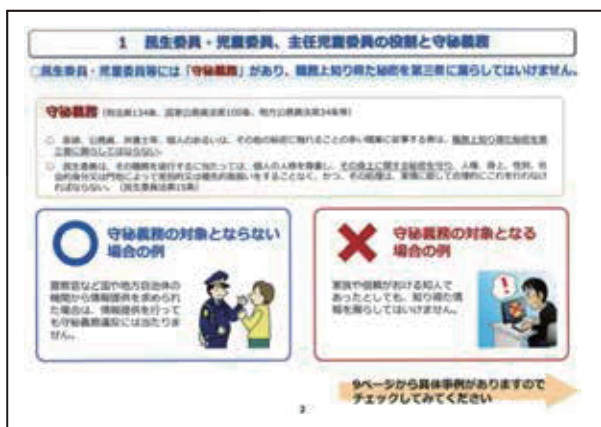
テーマ：

- ①高知県版地域学校協働本部モデル校での学校と地域による見守りの手順等について（本事例集P7～P10）
- ②個人情報の取扱いについて（民生委員・児童委員、主任児童委員に期待される役割～市町村要保護児童対策地域協議会の支援スタッフとしての活動～平成29年3月高知県）
- ③子どもたちとのコミュニケーションのポイント
- ④児童・生徒の様子や児童・生徒との接し方
- ⑤いじめ問題に関する基本的なこと
- ⑥いじめの未然防止につながる子どもたちへの関わり方
- ⑦児童虐待について

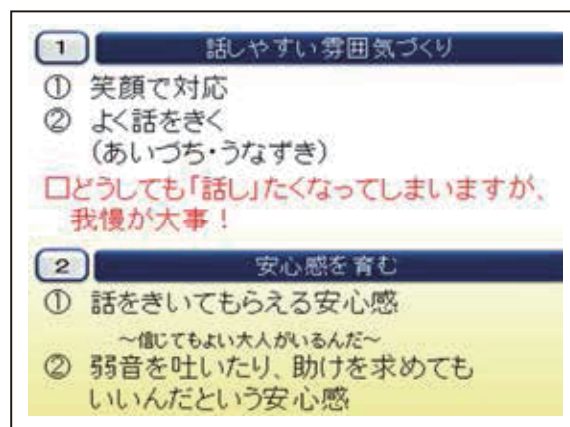
定期的・継続的にチーム学習を重ねることや、学んだことを仲間を広げていくこと等により、効果的で実益性の高い協働活動につながります。ぜひご活用ください。

内容を詳しく知りたいときには、下記の教育事務所、高知市教育委員会の学校地域連携推進担当指導主事又は高知県教育委員会生涯学習課まで、お問い合わせください。

東部教育事務所（0887-34-3591）
 中部教育事務所（088-893-6166）
 西部教育事務所（0880-35-5981）
 高知市教育委員会教育政策課（088-823-9478）
 高知県教育委員会生涯学習課（088-821-4897）



個人情報の取扱いについて
 （上記②資料より）



子どもたちとのコミュニケーションのポイント
 （H29高知県地域学校協働活動研修会資料より）